

2021（令和3）年度  
事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

## 2021 年度事業報告書目次

	ページ
◆ 法 人	1
成年後見制度活用推進委員会	33
神戸聖隷歴史資料館	38
◆ 但馬地区	
平生園	41
わらしべ	48
さくらの苑	56
恵生園	65
真生園	74
和生園	85
北但広域療育センター	94
エスポワールこじか	103
◆ 神戸地区	
神戸聖生園	109
グループホームせいれいやまて	114
グループホームたいのはた東	118
神戸愛生園	122
きたすま障害者相談支援センター	126
神戸聖隷総合相談センター	132
神戸友生園	138
グループホーム南落合	145
神戸光生園	148
グループホームみなみたもん	154
グループホームふくだ	157
神戸明生園	160
ケアホームきたすま	165
神戸市立ワークセンターひょうご	167
しごとサポート中部	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者雇用就業・定着拡大推進事業	
グループホームアリエッタ北須磨	175
ひょうご障害者相談支援センター	179
神戸市障害者基幹相談支援センター	
神戸市発達障害者中部相談窓口	
ひょうごデイサービスセンター	187
神戸市立自立センターひょうご	195
ワークセンターわかまつ	203
せいれいやさかだい	208
グループホームのぞみ	217
◆ 事業実績	221
◆ 施設整備実績	223

## 2021年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
理事長 水野 雄二

「確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。」(箴言23:18)

### 1. はじめに

2020年度に引き続き、2021年度も神戸聖隷福祉事業団（以下、「神戸聖隷」と表記）は、新型コロナウイルスの変異株による爆発的な感染拡大の影響下にあつて、事業を進めてきました。2021年度内に兵庫県内で「緊急事態宣言」及び「まん延防止重点措置」の発令は延べ212日で、実に6割近い日数に及びました。各施設にあつては緊張感を持って支援にあたる日々が続きましたが、2022年に入り、オミクロン株の感染拡大期に当たっては、複数施設で防御網を突破され、集団感染が起きました。その対処に多くの反省が残りましたが、職員の懸命な対応により、各施設で収束に向かうことができました。

このような状況の中、法人の「新型コロナ感染症対策本部」では毎週の定例会議を継続し、行政が発信する対処方針に基づいた運営指針を各施設に発信すると共に感染防止対策や職員の健康管理や待遇改善、支援を図ってきました。また、各施設においても基本的な感染防止対策を講じると共に、ご利用者や職員のワクチン接種も促進されました。ウイズコロナが今後も続く中、施設間協力を更に進めながら、新型コロナウイルスの完全な終息まで、引き続き警戒を怠ることはできません。

本年度、神戸聖隷は創業50年の2025年を見据えつつ推進する第4期中期計画（2020～2022年度）の第2年目を歩みました。その推進のために設置された6つの部会を中心に各施設においても第4期中期計画に掲げられた事業を進めました。コロナ禍に悩まされながら実行した取組と成果が後述されています。特記すべき成果として、4月より須磨区友が丘に建設された「神戸聖隷オアシス」内で、重度知的障害者のためのグループホーム「のぞみ」が開業。地域貢献活動として「TUNAGARI～あつまり処」が7月からオープンし、地域の方々が集い、交わる場として機能し始めました。また、朝来市竹田に建設された「めぐみ」では、新たにグループホームと放課後等デイサービスが開所し、ご利用者が活用を始めました。それぞれに今後、更なる地域福祉への貢献が期待されるところです。

神戸聖隷の働きを担う人材の確保と養成は、コロナ禍の不自由さの中でも試行が続けられました。職員養成も集合することが困難な中、オンライン形式の研修が定着し、工夫を凝らした研修会が開催されました。特にワークライフバランスに関する研修も多くの職員の参加を得て開催され、働きがいを持って仕事に喜びを感じる職場作りに努力が続けられました。また、経営職層の世代交代が喫緊の課題で、次世代経営職層育成のために「経営諮問委員会」の設置や常任理事会への施設長の陪席などの試みを開始し、意識的な世代交代の準備を図りました。

多くの人が漠然とした恐怖や不安を持ち続けている中、神戸聖隷もまた、関わる多くの人々に勇気や元気、楽しさを提供する機関でありたいと願い、誰にでも確かに未来はあつて、それぞれの希望が断たれることはない、と励まし合う一年の歩みでした。

## 2. 4中計に基づく推進部事業報告

理念理解定着部会 2021年度事業報告

### 中期事業目標① 創業50年に向けて、神戸聖隷ミッションの深く広い浸透をめざします

当部会は、第3期から第4期中期計画にわたって理念の深く広い浸透をめざして事業を推進してきました。その成果を目に見える形で評価することは難しく、浸透度を計測することができません。恐らく人によって濃淡のあることだと思われま。ただ、基本理念の言葉やその内容について、「見る」「聞く」「触れる」「知る」「考える」機会は少しずつ拡充することができました。

私たち個々人の行動には3段階のプロセスがあります。ある事象や物に関して「知る」という段階（「知識化」）。次にその事柄がどのような意味を持つのかを「考える」という段階（「思想化」）。そして、考えたことに基づき、その事象に対して「行動する」段階（「行動化」）です。基本理念に関しても、その存在と内容を知る「知識化」を経て、それが自分自身にとって、又法人や施設にとってどのような意味と価値があるかを考える「思想化」、そして理念を最終的にアクションとして支援やサービスに繋げる「行動化」がありますが、部会の取組としては理念の「知識化」「思想化」へのトライであったと言えるでしょう。2021年度の取組もまだまだ最終的な「行動化」へのアプローチは弱いという反省をしなければなりません。様々な角度からの「知識化」への実践ができました。

多くの人が関わる法人に揺るぎない確固たる理念があって、その基盤の上に事業が成立し、サービスが実践されれば、ご利用者や地域の方々には法人や施設への信頼がより増し加えられ、働く職員には安心と自信がより深まります。価値観が多様な関係者に神戸聖隷の普遍の理念がより浸透し、定着する試みを継続します。（水野雄二）

職員育成推進部 2021年度事業報告

### 中期事業目標② 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

福祉業界において人材不足が言われ続けている中、コロナ禍においてその担い手の確保はさらに厳しい状況となりました。この「新しい時代」に対応するべく、求職サイトの積極的な活用やオンラインでの企業説明会への参加など時代に求められることへの模索と同時にリアルでしか伝えられないことを、温度感をもって伝えるため、学校担当者を直接訪問することも続けました。応募人数という点ではまだ成果を得たとは言えませんが、今後も丁寧な関係づくりを重ねることで長期的なスパンのなかで結実すると信じています。

次に「人材」を「人財」にするのが「育成」であると考え、研修では「組織性」を中心テーマとして実施してきました。これもコロナ禍においてほぼオンラインでの実施となり、当初は不慣れな状況に受講者、事務局ともに苦労しましたが、今では定着してきています。

「仕事のやりがい」というのは「仕事を通じて自分自身の成長が感じられること」でそれは現場での体験でしか味わえないことであり、Off-JTで学んだことを現場で活かすことができこそ実感できることだと思います。その意味ではOJTの重要性について施設現場と共有し、現場力の底上げにどのようにコミットしていけるかが今後の課題と感じています。

最後に大切に育てた「人財」を「定着」させることが経営基盤を安定させることとなり、「定着」に必要な要素である処遇面や人間関係を含む様々な場面での職場からのサポートなどについては他の推進部との連携によって取り組むことが必要と考えています。また、職員のモチベーションをアップすることも重要で、自己を成長させるためのチャレンジを支援する研修参加の助成については、社会福祉充実計画終了後も職員育成推進部として継続していきます。（有川洋司）

QOL 推進部 2021 年度事業報告

### 中期事業目標③ ひとり一人の居場所をていねいに作り、安心安全な生活を目指します

利用者の皆さんとの直接の接点を持つ推進部として、生活の質の向上という大命題を持って 5 年間取り組んできております。苦しいこと悲しいこともあるかと思いますが、それを上回る楽しさやうれしさを感じてサービスの利用を続けていただき、人生を謳歌し、喜んでいただきたいとの強い思いが推進部にあります。

社会福祉事業所の利用という選択肢を選ばれた皆さんに対し、QOL 推進部では 3 つの視点で職員に介護、支援のサービス力や細かな気遣いの獲得を求めています。

「サービスの評価と向上」につきまして第三者評価の受審結果に対し、自ら評価をおこないサービスの向上にあたりました。満足度調査では結果報告を開示するために各事業所の HP に掲載いたしました。また、各事業所でのマニュアル整備に関わる法人共通の 19 項目の標準マニュアルの改訂、接遇ハンドブックを活用した接遇アップキャンペーンを継続して実施しております。

「虐待防止への取り組み」では全職員へのセルフチェックリストを年 2 回実施し、その集計に対し、評価対策シートで職員の気づきを大切にしました。また虐待・不適切ケアの気づきの学習の場づくりでは、法人独自の基準表・判定表を使い全施設で実施しました。

「高齢化への取り組み」では特に神戸地区での通所事業所を利用されている皆さんへの高齢化に対する対応方法の構築を考え、具体的な仕組みを検討しております。事故検証に関しては法人内にヒヤリハット通信を配信し、学習の機会としております。

他、年間を通してしっかりと取り組まなければならない事（QOL 推進も含む）を一覧表に表示し、利用者の皆さんへの配慮に抜けがないようにいたしました。（種谷啓太）

経営強化推進部 2021 年度事業報告

### 中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

大変忙しくされている支援現場の皆さんの業務効率化が少しでも図れて心にゆとりが出来、微笑みをもって支援にあたることでご利用者にも笑顔が生まれ、双方とも生き生きと輝いていただけたらとの思いから、積極的に ICT 化を進めてきました。特に、支援記録ソフトの導入は記録時間が大幅に短縮され、ブルートゥース内蔵体温計・血圧計との連動で測定データが自動的に記録されるなど、看護業務の改善にもつながったと大変喜んでいただいています。

結果、職員の業務負担が幾分か軽減され、少しは心にゆとりが出来て、素敵な笑顔でご利用者の支援にあたっていただけているのではないのでしょうか。

また、シャワーバスや特浴機、天井走行リフトなどの整備や眠りスキヤンの設置によって、ご利用者の安心・安全な生活が確保され、個々に応じた支援・介護に繋がったという点では、ご利用者も輝いていただけているのではないかと思います。

ただ、これまでは社会福祉充実計画という「錦の御旗」のもと、長年積立ててきた自己資金を使い整備を進めてきましたが、資金がある施設だから出来たわけで、充実計画が終了した今後の展開において、整備が必要と思われる施設に資金がない場合への対応等課題が残ります。

当推進部の取り組みに「具体的な導入への提案」を上げていますが、情報提供は出来ても、是非ともやりましょうと今一歩強く踏み込めないのが実情です。しかし、この課題をクリアしないと施設間格差が生じかねません。整備が必要な施設は積極的に提案いただき、全体で予算をつけるとか、地区で面倒をみるとか、何らかの対策が必要ではないかと思ひます。必要なことには速対応、お金は何とかするからやってみよう和前向きに取り組みたいものです。（西山充）

### 中期事業目標⑤ 誰もがつながり合う地域の実現をともに創る資源となる

私たちは当部会の活動を通して、どのようにして「誰も」と出会い、地域を実現するどんな「資源」となるのかを考え、取り組みを進めています。2021年度も継続する新型コロナ感染対策で地域を繋ぐ活動や、各事業所が地域で培ってきた活動のほぼ全てが中止となる中で「今できることは何か」「今考えて準備しておくことは何か」に焦点を絞って活動しました。

今年度、但馬地区の「グループホームめぐみ」「放課後等デイサービスめぐみ」神戸地区の「グループホームのぞみ」「Tunagari ～あつまり処～」は地域の新たな資源として開設されました。中でも「Tunagari」は誰もがつながり合う地域拠点の一つとして月・水・金曜日の食事提供場所として地域の皆さんに知っていただくことから始めて、2021年7月から2022年3月の集計では約5000食の提供に至り、リピーターも増えています。感染防止対策で食堂はとても静かですが、「Tunagariに行ってみよう」「何か良いことに会えるかも」という声や雰囲気を感じます。少人数の地域会合等も行われており、当初の目的は達成しつつあります。また同スペース利用として法人内会議やセレモニー拠点、家族会開催場所として使っていただくことで、利用拡大の足掛かりを得て、「フードバンク活動」や中断中の地域イベント「おいでやすカーニバル」の拠点として活用計画が進んでいます。また災害時等の事業継続計画であるBCPの策定について資料収集や研修に参加して部会内で整理し、次年度に向けて人事労務危機管理部会の協働で法人・全ての事業所のBCP策定計画を組むことができました。

推進策に報告しますように年間計画の全てについて順調に取り組めたわけではありませんが、地域の皆様に「神戸聖隷に行けば何とかなる」と言っていただけのように計画を進めました。  
(加藤成久)

### 中期事業目標⑥ 持続的発展を担う組織基盤の確立を目指します

人事・労務・危機管理推進部の活動を4中計ビジョンに照らすと、地域社会の方々から事業集団として信頼される組織基盤をもてたか否か、より簡単に言えば「あそこなら働きやすいだろうな」と言っていただけになっているか否かが問われていると考えます。

ただ、働きやすさを賃金や休日だけと捉えると、社会福祉法人の社会的役割や今日までの神戸聖隷の営為の意味がなくなってしまうから、「職業と共にある人生を豊かにしたい」との思いを持つ職員の集う場に近づけるべく、生産性向上のテーマにも取り組んできました。同時に、これまでのワークライフバランスの取組を外部評価で認証を受けることもできました。

働きやすさの要素としては、どんな経営者がどんな経営をするのか、どんな施設長がどんな福祉サービスを提供しようとしているのかということも重要です。現場の施設長の声を経営に反映させる役割をもつ組織（経営諮問委員会）の創設を提案し実現しました。

組織体としての判断と行動には何事も常任理事会での審議を経ます。その際は熟考して可能な限り外部からの評価に耐え得る選択を行いますが、その結果、力強さが足りないと感じます。それなりの規模になり、また地方と都市の文化が混在する神戸聖隷は、なかなか機敏に変化させることが難しい組織でもあると痛感します。

清廉な気風を守りつつ同時に力強い組織をつくり、職員が当法人で働くことを自慢できるような集団になりたいと願いながら、別表のように働きましたことを報告します。(吉田和夫)

第4期中期計画と推進状況（理念理解定着部担当）

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
分かりやすさ、親しみやすさを求め、日常化を推進	基本理念の掲示、唱和推奨	全施設での掲示、唱和	全施設での掲示、唱和	◎
	年間聖句の掲示	全施設での掲示	全施設での掲示	◎
	法人マスコットキャラクターの活用	活用パターンのお知らせ	第1次、第2次、第3次の展開パターンを全施設に配布完了。クリアファイル1000部を作成、配布完了。	◎
研修や集会でのツール作成	神戸聖隷ハンドブック活用	第2版の活用アンケートの実施と分析	第2版の活用促進。活用についてのアンケート実施。	○
幅広い関係者を対象とした理念表出	理念講演会の開催	講演会の実施	2月4日に山形謙二氏の講演会を実施。参加者94名（法人内57名、法人外37名）。講演録の作成。	◎
初級職員や臨時職員を念頭に置いた研修	各施設での理念研修協力	3~5施設で実施	8施設で実施（聖・わかまつ・こじか・明・さくら・和・GH・友）	◎
	キリスト教福祉基礎研修実施	但馬、神戸で実施	10月、11月に但馬、神戸で実施。	○
キリスト教主義の他法人理念研修【社会福祉充実計画4】	他法人理念研修の開催	神戸（9月）、浜松（1月）に実施・新規他法人研修実施	神戸（6月）、浜松（1月）に実施予定をコロナウイルス感染拡大につき中止。	×
海外での理念研修【社会福祉充実計画3】	タイでの海外研修の開催	タイ・チェンマイで実施（11月）（コロナウイルス感染状況で開催可否を判断）	タイ・チェンマイで実施（11月）予定をコロナウイルス感染拡大のために中止。	×
			法人DVD作成開始。ビデオ撮影完了するも完成は未了。	△
職員報の継続発刊	職員報作成継続とデータ保存・活用化	年2回の刊行（8月、3月）	昨年度分の第7号、年2回の刊行の内、9月に第8号を刊行。第9号の制作中で未了。	△
創業50年を念頭に置いた史料収集	創業者インタビューの保存	年2~3人の収集	創業期からの利用者2名の収集	○
	神戸聖隷My story収集	My story収集（インタビュー）継続	神戸地区1組、但馬地区2組のインタビュー終了。	○
海外研修将来検討	海外研修将来検討	新規海外研修の研究	サンフランシスコの団体と交渉開始。コロナで進展なし。	×
その他	QOL部会協働	困難事例研究	4回の合同ミーティング実施	△

第4期中期計画と推進状況（職員育成推進部担当）

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
<p>学生・就活者と現場で出会う機会の整備・充実</p>	<p>①各施設の現場実習受入れ体制確立と確認 実習受け入れ状況の調査・まとめ実施</p> <p>②実習指導者（担当者）法人内連絡会の開催 実習指導担当者等との情報共有・意見交換実施</p> <p>③大学・各種学校訪問の充実 新規開拓を含め出来るだけ多くの訪問を実施</p> <p>④大学・各種学校の担当教員との繋がり強化 OB の同行について各施設の協力を得て訪問実施</p>	<p>① ア) 未作成</p> <p>② ア) 未実施</p> <p>③ ア) 今年度も二度の緊急事態宣言の発出、三度のまん延防止重点措置により、学校訪問について影響があったが、解除後の合間を縫って訪問可能となった大学、専門学校 36 校を訪問</p> <p>④ ア) 法人及び担当者と個人的に繋がりのある教員との連絡を継続 OB の同行について実施できず</p>	<p>△</p>
<p>法人を知ってもらう機会の整備・充実</p>	<p>①Web 求職サイトの活用 掲載内容について定期的な更新実施</p> <p>②各種就職フェアへの出展 Web での出展も含め出展機会を増やす</p> <p>③学生・求職者の見学説明会の実施 但馬・神戸の各拠点で定期的に見学説明会を開催</p>	<p>① ア) マイナビ・リクナビ・キャリアス UC を活用。新たに「先輩発見機能」を追加し若手職員を中心に掲載用の記事作成について協力を得る。</p> <p>② ア) 「福祉の就職フェア in HYOGO」(7, 3 月) 「福祉の就職説明会 in HYOGO」(9 月) イ) 「豊岡オンライン合同企業説明会」(8 月) ウ) 「KOBE 就職・転職フェア」(9 月) エ) 「大学キャリアセンターと但馬企業との意見交換会」(11 月) オ) 「たじまオンライン合同企業研究会・企業説明会」(1, 3 月) カ) 「とよおか福祉の仕事合同企業説明会」(3 月)</p> <p>③ ア) 28 名見学対応</p>	



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
法人を知ってもらおう機 会の整備・充 実	④各事業所の仕事紹介イメージ 動画作成 動画内容・作成方法について 再検証	④ ア) 理念部会と合同で DVD 作成を検討 したが、職員育成部会として作成に 参加することについては今回見送り	○
採用試験エ ントリーに 繋がる仕組 み作り	①採用試験受験エントリーペー ジの作成と活用 ②選ばれる募集要項の作成 職種ごと・目的・用途など に応じたレイアウトの刷新 について検討	① ア) ホームページ内でのエントリーシ ート作成は未実施。紙ベースでの 応募を継続。 選考試験を 9 回実施(応募者 15 名) 内定通知者 11 名中承諾は 5 名 ② ア) レイアウトの刷新については未着 手	△
法人内部研 修の充実	①既存各内部研修のブラッシュ アップと報告・共有 ②既存の法人内部研修に新研修 の取入れ 事業種別に施設長・課長が 講師となってシリーズ研修 (3 回) を下半期に実施 ③各研修に理念研修プログラ ムの取入れ 各研修のプログラムに取入れ 継続 ④各研修の理念定着部会との協 働実施 研修組立や研修事務局担当を 含めた協働体制実施 ⑤自主研修参加助成の継続 社会福祉充実計画の継続実 施 ⑥神戸常盤大学との協働	① ア) 未実施 ② ア) 施設長・課長を講師とした事業種 別研修(入所・通所、日中活動・相 談)を各事業 3 回シリーズで実施 (10~3 月) ③ ア) プログラムとしての枠取りはせ ず、各研修の冒頭に実施する開会 礼拝および理事長のメッセージに て理念理解に繋げる ④ ア) 未実施 ⑤ ア) ①について 10 名 ②について 6 名 助成実施 ⑥ ア) 未実施	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
各研修への参加し易さの追求	①研修実施場所の検証 オンラインによる研修の際の受講場所の検討と環境整備 ②各研修年間計画の共有 内部研修一覧表の作成と共有 ③研修実施方法の新提案 オンラインと対面による研修の併用	① ア) 昨年度に続き全研修を Zoom の有料版を活用し実施。環境整備については事業所ごとで課題は残ったまま ② ア) 他部会の研修も含め一覧表を作成し、全施設長に配信済み ③ ア) 今年度についても基本的には全てオンラインでの実施で計画。総合職員研修についてもオンラインと一部集合によるハイブリット型の実施を検討したが最終的に完全オンラインにて実施	○
多様なオンラインシステムの活用	①会議等の活用推進 Zoom 等新たなシステムへの移行と活用	ア) Teams と Zoom を主として活用	○

第4期中期計画と推進状況（QOL推進部担当）

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
サービスの評価（自己チェック体制の確立）	第三者評価の受審と評価	①平生園、神戸愛生園、自立センターひょうご第三者評価受審	① ア) 平生園、自立センターひょうご、グループホームもみの木・グループホームかしの木の受審結果はWAMネットに掲載済 2020年度受審の神戸光生園の掲載済 イ) 受審施設より自己評価のため評価達成度集計表シート提出	◎
	満足度調査実施	②満足度調査継続実施 3年間の実施評価アンケート結果の公表用シート作成	② ア) 神戸聖生園3月現在未実施 各施設のHPで調査結果のアップ中	
	各施設自己チェックリスト作成	③自己チェックリスト検討	③ ア) 施設セルフチェックリスト（改名）配信（3月）	
	標準マニュアルに沿った施設マニュアルの作成と運用	④標準マニュアルより各施設マニュアル完成	④ ア) 標準マニュアル改訂版配信（11月）	
	接遇ハンドブック活用	⑤接遇ハンドブック年4回のキャンペーン実施	⑤ ア) キャンペーン「見逃すな声に出せない 小さなサイン」（7月）「気にしてますか 自分の行動 相手の気持ち」（10月）「挨拶で作ろう 職場ハーモニー」（1月）「接遇の振り返り」	

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
虐待防止への取り組み	年2回の虐待防止チェックリスト実施	①年2回の虐待防止チェックリスト実施	① ア) 年2回実施 イ) 下期実施分より各施設に評価・対策シート記入を依頼回収	◎
	年1回以上の基準表・判定表の基づく事例学習会の実施	②虐待防止基準表・判定表に基づく事例学習会の実施 ③困難事例への対応	② ア) 全施設で事例検討会実施し判定表回収 コメントを推進部より返信 ③ ア) 利用者、家族からのハラスメントについて理念理解定着部会と合同会議実施（6・8・10・1月）	
高齢化への取り組み	高齢化に対する利用指針作成	①通所利用者基礎調査を基に神戸地区の高齢化対策の検討会実施	① ア) 通所利用者基礎調査結果について集計報告を配信（9月）	○
	再発防止策へのアプローチ	②事故報告調査票より内容を検討し、施設と共同で改善策検討	② ア) 事故・ヒヤリハット報告数結果集計について全施設配信（7月） イ) ヒヤリハット通信（ハインリッヒの法則）配信（9月）	

第4期中期計画と推進状況（経営強化推進部担当）

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
各事業の 年度目標 値達成に 向けた働 きかけ	各事業の目標値（利用延人数・給付費収入）に対する月次実績チェック	①利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成状況を把握 ②各施設（事業）に目標値達成状況をフィードバック	①②共通 ア)全拠点・事業の目標値達成月次チェックを実施（毎月） イ)目標値達成状況にコメントをつけフィードバック（毎月） ウ)新型コロナウイルスによる利用自粛等給付費収入への影響額を把握しフィードバック（毎月） エ)中間決算ヒアリング書式を提案（9月） オ)2022年度予算ヒアリング書式を提案（11月） カ)2022年度目標値（利用人数・給付費収入）入力シート配信（3月）  ※2021年度対目標値差異累計 利用延人数-2.1%（▲7,004人） 給付費収入-1.3%（▲36,316千円）	○
	ヒアリングシート の配信、理事 等のヒア リングによ る改善策 の共有と 提案	①実績が思わしくない施設（事業）を把握 ②ヒアリングシート配信等により、目標値未達原因の把握と改善策の共有・提案実施	①②共通 ア)全拠点の過去5年の経営実績と全事業の利用延人数・給付費収入推移を配信（7月） イ)全拠点・事業の第1四半期実績をチェック 達成状況が気になる事業は、担当者出席の中間決算ヒアリングにて確認することを決定（8月） ウ)中間決算ヒアリングに担当者出席し目標値達成状況と下期の取組・達成見込を確認（10月） エ)予算ヒアリングに担当者出席し2021年度目標値達成見込と2022年度目標値・予算を確認（2月）	○
	各種加算の算定要件のチェック	①各事業所が取得している加算算定要件の確認	ア)2021年度基本報酬単位・加算算定要件の確認調査を実施し、各施設での加算算定要件の継続したチェックを依頼（4月） イ)内部監査Bチームにて加算算定要件確認（8・11月：4施設）	◎

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
各事業の年度目標値達成に向けた働きかけ	※神戸地区で独自の送迎サービスの実施 【社会福祉充実計画12】	①神戸地区内施設での前回ニーズ調査を再検討 ②対象者及び走行ルートの確認 ③送迎車両の選定・購入 ④送迎の実施	① ア) 新型コロナウイルス感染拡大により再検討しばらく見合わせ イ) 対象施設に送迎ニーズ調査(前回分)を送付、見直しを依頼(8月) ② ア) 参画予定施設で送迎ルートを検討(12月) イ) ヤマトスタッフサプライにてルート案を実走(1月) ③ ア) 年度内購入は困難と判断し、次年度検討することを決定(1月) ④ ア) 上記により未着手	△
計画的な積立金の計上	予算ヒアリングにて目標額を計上、中間決算ヒアリングにて見込額確認	①積立目標金額 1.5億円	① ア) 当初予算の積立金計上額 0.88億円 イ) 3月最終補正積立見込額 1.73億円	◎
ロボット等先進福祉機器整備、AI・ICT化の推進	各事業所のニーズ調査	①福祉先進機器、AI・ICT活用構想の確認と共有	① ア) 未着手	×
※先進福祉機器の整備 【社会福祉充実計画No10】	情報収集と提供	①昨年度実施したアンケート調査に基づき、知りたい情報等の情報収集及び提供 ②展示会に参加し情報収集 ③先進福祉機器等導入施設の見学	① ア) パラマウントベッドのICT WEBセミナー(眠りスキャン活用支援セミナー)の情報提供実施(5月) イ) 昨年度実施したアンケート調査結果内容を再確認し、必要な情報収集項目を検討(6月) ウ) 神戸愛生園にインカムの聞き取り実施、記録システムとの連動について導入施設に確認(7月) エ) 記録システム・ナースコール・各種福祉機器の連動について調査・結果配信(8~9月)	△

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
ロボット等 先進福祉機 器整備、 AI・ICT化 の推進	同上	同上	㊦ 三笑堂によるインカム説明会開 催（12月：但馬） ② ㊦ 新型コロナの影響により未実施 ③ ㊦ 新型コロナの影響により未実施	同上
※先進福祉 機器の整備 【社会福祉 充実計画 No10】	具体的な 導入への 提案とサ ポート	①補助金、助成金 などの情報収 集及び提供 ②導入希望施設に 導入に向けた提 案とサポート	① ㊦ 未実施 ② ㊦ さくらの苑離床アシストベッド 1台整備完了（7月） ㊦ 平生園特浴機1台整備完了（8月） ㊦ 神戸愛生園天井走行リフト2台 整備完了（8月・3月） ㊦ さくらの苑眠りスキャン3台整 備完了（12月） ㊦ 2022年度介護用ロボット等先進 福祉機器、AI・ICT化に関する調 査実施（1月） ㊦ 神戸明生園眠りスキャン5台整 備完了（2月）	△
記録システ ム機能の活 用 ※記録シス テムの運用 拡大 【社会福祉 充実計画 No13】	記録シス テム活用 推進学習 会の開催	①記録システム整 備施設の機能活 用状況を把握 ②NDソフトウェアによる学習会 の開催 ③学習会開催後の 効果の検証	① ㊦ さくらの苑クライアント2台追 加（5月）、神戸愛生園クライア ント1台追加（9月） ㊦ 記録システム運用面の課題に関 する調査及び記録システム機能 の現在の使用状況と今後の活用 見込に関する調査実施（7月） ② ㊦ 記録システム LIFE に関する質問 集計しNDソフトへ配信（5月） ㊦ 高齢者施設合同web学習会開催 （5月平生園・さくらの苑・わらし べ） ㊦ 障害者施設個別web学習会開催 （8月神戸愛生園、9月真生園・ 神戸光生園・神戸明生園・恵生園） ③ ㊦ 未実施	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
記録システム機能の活用 ※記録システムの運用拡大 【社会福祉充実計画 No13】	モデル施設での実践と共有	①システム機能活用モデル施設の実践 ②機能活用状況の共有（報告会実施）	① ア) 記録システム機能活用モデル施設を決定（8月） ・介護保険施設 さくらの苑 「月間予定・日々の予定管理」 ・障害者施設 真生園 「食事摂取量の個別把握」 イ) モデル施設に依頼・実践（8月） ② ア) 記録システム機能活用状況報告会開催し、モデル施設の真生園・さくらの苑より実践報告・共有（システム整備8施設より18名参加）（12月） イ) 2022年度支援記録システムの整備に関する調査実施（1月）	◎
各種様式等の見直し	各種届出様式の見直しを含む稟議書等電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①稟議書等電子印鑑決裁の本格導入 ②出張報告書・旅費精算書様式の見直しと運用 ③各種届出様式のデスクネットを利用したワークフローシステムの導入（試験運用）	① ア) J-motto から Desknet's NEO へデータ移行、電子会議室・文書管理・スケジュール運用開始（5月） イ) ワークフローテスト実施（6月） ウ) 稟議書フォーマットの検討・試作版作成（7月） エ) 理事へ稟議書電子決裁手順説明・接続テスト実施（9月） オ) 施設長へ稟議書電子申請手順説明・接続テスト実施（9月） カ) 電子決裁運用開始（10月） ② ア) 出張申請報告書・旅費精算書・私用車業務使用許可申請書の様式案検討（7月～） イ) 上記様式変更について常任理事会に提案・承認（12月） ウ) 但馬・神戸合同事務連絡会にて説明（1月） エ) 電子印鑑決裁運用開始（2月） ③ ア) ②届出書決裁へのワークフローシステム導入は未着手	○



実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
各種様式等 の見直し	ケース記録 等利用者 処遇各種 帳票の電 子印鑑決 裁の導入、 ペーパー レス化	①モデル施設の運 用についての 報告 ②全施設での試験 運用 ③記録システム導 入施設での運 用状況確認	① ア) 神戸地区施設長会、但馬地区施設 連絡会にてモデル施設（和生園・ 友生園）の運用報告会開催（6月） イ) 全体施設長会にて和生園より Teams と OneNote の活用等につ いて報告（9月） ② ア) 神戸地区施設長会、但馬地区施設 連絡会にて電子印鑑決裁の導入、 ペーパーレス化推進宣言（5月） イ) ケース記録の電子印鑑決裁とペ ーパーレス化に関する各施設の 導入スケジュール表作成（7月） ウ) 順次電子印鑑決裁開始 神戸聖生園（9月）、北但広域療 育センター・せいれいやさかだい （10月）、ワークセンターひょう ご（1月）、ワークセンターわか まつ（2月）、自立センターひよ うご（3月） ③ ア) 電子印鑑決裁状況調査実施 （11月） イ) 随時運用状況を確認	○
会議システ ム（準備・ 開催・記録） の見直し	会議資料・ 記録作成 の効率化	①Teams 等を使用 したペーパー レス会議を拡 充	① ア) 法人主要会議に Teams と OneNote を活用したペーパーレス会議を 拡充・継続	○
	ペーパーレ ス会議の 実施	①会議資料のペ ーパーレス化に ついて方法を 検討	① ア) 神戸光生園で職員会議ペーパー レス化を試験的に実施（4月～）	△

第4期中期計画と推進状況（地域貢献推進部担当）

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
災害時要援 護者に対する 支援体制 の構築 (充実計画 ⑱)	福祉避難所 の 体制整備	①受入マニュアル の各施設版作成  ②福祉避難所開設 に係る研修会への 参加	① ア) 自家発電設備補助説明会と補助 金計画作成共有(但馬)(5・8月) イ) 但馬食料備蓄品確認(9・3月) ウ) 神戸備蓄品調査(11・12・3月) ② ア) 関係研修調査・受講(4～12月) イ) 施設BCP資料共有(6月) ウ) 最新福祉避難所行動計画共有・ ．．．．．(8月)	○
サービスの 向上	各地区、施 設の災害 時の体制 等の整備 (もの・ひ と)	①災害時の法人内 連携体制の構築  ②新型コロナウイルス 対策を追加し た体制整備	①② ア) 神戸備蓄品調査と一覧表作成 イ) 災害対策資料情報共有(6～3月) ウ) BCP作成関連・災害対策関係研修 受講(8・9・11・1・2月) エ) 法人・各施設BCP策定案の確定(3 月)	○
制度の狭間 にある支援 の実施	生活環境改 善(ゴミ屋 敷清掃)・ 生活困窮 者支援(フ ードバン ク等)への 取り組み	①地域ニーズ把握 と支援体制の確立  ②地域ニーズに対 応した支援活動の 実施	① ア) 地域ニーズ関連情報の共有 ② ア) フードバンク活動実施準備(5～3 月)	○
法人外関係 機関(ほっ とかへんネ ット等)と の連携	各ほっとか へんネッ ト・自立支 援協議会 の取り組 みを法人 内に情報 発信	①朝来市の関係会 議等への参加と 活動情報の共有 ②神戸市各区ほっ とかへんネッ ト・自立支援協議会へ の参加と活動情報 の共有	① ア) 朝来市関連会議活動情報共有と 分析(4～3月) ② ア) 各区の活動情報共有と分析(4～3 月)	○

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
地域のニーズに応える体制の構築	地域ニーズの情報収集方法と支援内容の見極め 支援体制の検討と構築	①但馬地区情報収集フローチャートによる情報発信・介護者の集いの実施 ②地域ニーズに対応した支援内容の検討と確立（総合相談センター（神戸聖隷オアシス）を中心に）	① ア)但馬地域情報整理と共有 ② ア)神戸聖隷オアシス「Tunagari」やワークわかまつ「まつぼっくり」を通じて情報収集と支援の具体化検討・・・・・・・・（4～3月） イ)「フードバンク」活動取組事業者や本部を訪問して情報収集と活動準備計画（7～3月）	○
地域活動への積極的参画	地域向けイベント等の実施	①地域イベントの把握と再開支援検討 ②(但馬地区)グラウンドゴルフ・感謝祭等の再開とフィードバック ③(神戸地区)おいでやすカーニバル・防災イベント・落語会等の再開協力とフィードバック	① ア)各地区情報共有（各月） ② ア)但馬地区地域向けイベントの実施状況把握と再開へ向けた協力策の検討(各月) ③ ア)神戸地区地域関連活動実施状況把握と再開へ向けた協力検討(各月)	○
地域との交流機会の提供	交流スペースの地域開放	①さくらの苑を中心に地域への交流スペース開放継続とフィードバック（但馬地区） ②神戸聖隷オアシス等の交流スペースの地域開放とフィードバック（神戸地区）	① ア)さくらの苑関連の地域関連活動の状況把握と活動再開情報共有 ② ア)7月に営業始めた「Tunagari」の利用状況から交流スペース利用に向けて検討(5～3月) イ)8月活動を開始の「まつぼっくり」(ワークわかまつ)認知症カフェの状況把握と展開の検討(8～3月)	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
ボランティアの確保	ボランティアの積極的な受け入れと仕組みづくり	①ボランティア活動再開と各施設、市区ボランティアセンターとの連携 ②神戸常盤大学との連携 ③現状把握とフィードバック、情報の共有	① ア) アンケートを実施して各施設・事業所のボランティア受入状況の確認実施(4～7月) ②連携大学と協力体制(充実計画 ⑩) 計画内容相談と実施(9・10・2・3月) ③ボランティアの受け入れ再開へ向けて必要情報収集と整理	△
福祉教育、福祉体験を通じた理解の促進	福祉体験学習等の継続を積極的に推進	①福祉体験学習の再開とフィードバック	ア) (但馬) 福祉体験学習の現状と再開へ向けた計画確認(5・6・7月) イ) 福祉体験学習開催と次年度計画確認(11・12・2月) ウ) (神戸) 大学生実習受入・トライやるウィーク・ワークキャンプ等の受け入れ相談情報共有(6～1月)	△
広報の充実・活用	HP、SNS等を活用した情報発信	①HPのリニューアル実施 ②更新担当者のスキルアップ ③更新内容を明確にして現HPの改良・更新を進める ④各部会との協働	①HP リニューアルイメージの共有 ② ア) 各施設広報担当者確認(5・6月) イ) 更新作業・質問に対応(11～3月) ③ ア) HP 更新実施・(4～3月) イ) 頁更新を「お知らせ」に載せて公開(HP内リンク有)実施 ④ ア) HP の更新記事を各部会からデータ提供を受けて実施(7～3月) イ) 各施設 HP 内の頁増設・更新実施(10～3月)	○

第4期中期計画と推進状況（人事労務危機管理推進部担当）

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
(正規) キャリアアップ推進	新就業規則策定	複数のキャリアコース創設	ア) マルチ（「専門・管理・経営」、 「医療・支援・総務」）キャリアパスの 新人事制度イメージ図を作成して検討 イ) マルチ化は非現実的と判断 ウ) 現行キャリアパスにおいて適切な育成を 図れるキャリアパス・フレーム表整備の方向性	△
	新給与規程策定	給与規程改訂	ア) 相談支援専門員手当創設 イ) 処遇改善支援手当創設 ウ) 処遇改善支援財源で新給与体系の構築の方向性を確定 エ) 課長手当の方向性確定	△
	新人事考課制度策定	昇給への反映	ア) 他組織の評価法の検討 イ) 効果効率化へ日本経営「人事ナビゲーター」の導入決定	△
(「準正規」) 限定正社員等の多様な雇用形態の導入	新型正規の就業体系構築	各種規程等整備	ア) 体系イメージ就業規則案 イ) 厚労省社労士指導 ウ) 登用制度に関するアンケート調査実施 エ) 地域定義の上、正規を地域限定化する方向性を確定	△
	給与体系構築	給与体系の確定	ア) 厚労省社労士指導 イ) 処遇改善支援財源で新給与体系の構築の方向性を確定	△
	限定正社員制度の運用	該当者の確定、募集	ア) アンケート結果から登用制度拡充 イ) 2022年度登用試験実施、但馬4名、神戸8名	○
(「非正規」) 多様な「サポート（非正規）スタッフ」の活用	「非正規職員」への人事考課制度の拡大	共通様式作成	ア) 非正規職員への人事考課について、日本経営オンライン・プレスト実施	△
	活躍の場の多様化と賃金改善	各種規程等整備	ア) 登用制度に関するアンケート調査実施 イ) パートタイマーの活用可能性を断念	○

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
働き方改革の更なる推進	有給休暇取得の推進	有給取得率 72% (前年度プラス 1 日推進)	ア) 3 月末時点 : 73.06% (前年同月 68.03%)	
	時間外労働時間の実態管理と改善支援	調査実施	ア) 総超過勤務時間(年間)28,281 時間 (前年 18,024 時間) イ) 30 時間超の超過勤務者数(年間延べ)67 人 (前年 54 人) ウ) 施設長会議で時間外勤務手当額の公表を開始	○
	WLB の更なる推進	自己診断結果の分析と研修立案 WLB 認定企業承認	ア) WLB 研修 (一般職員) 実施 イ) コミュニケーション研修実施 ウ) WLB 自己評価実施 エ) ひょうご仕事と生活センター WLB 認定事業申請、認定	○
	生産性向上への取組① (支援現場業務改善への取組)	毎月実績管理、管理監督者指導	ア) 自立センターひょうご「事業所内の備品在庫管理、備品所在の改善取組み」事例集 1 完成 イ) ひょうごデイサービスセンターの業務改善取組みは未達成	△
勤怠管理システム機能活用による勤怠管理	システム定着、運用サポート	システム機能活用による勤怠管理の実施	ア) 全対応完了	○
職員就業満足度の把握	第 2 回職員意識調査の実施	第 2 回職員意識調査の実施	ア) 1 月実施、最終回答者数 534 名 (78.6%)	○
働きやすい職場環境改善とアピール (ユースエール・くるみん・えるぼし認定)	女性の活躍推進に関する取組の実施	えるぼし認定	ア) 兵庫県男女共同参画センター「イーブン」サポート実施 イ) 経営諮問委員会で女性管理職比率目標を確認	△
	次世代育成支援に関する取組の実施	くるみん認定	ア) 新一般事業主行動計画策定・申請	○
管理者育成	施設長コースの設定・運用	教育体系策定、アナウンス、調整、手続の実施、育成教育	ア) 経営諮問委員会陪席記録の仕組み導入	△
法人経営者選抜育成	執行役員制度の設置	制度設計、研修制度検討、人選	ア) 執行役員制度検討 イ) 「経営諮問委員会」スタート	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
	経営者コースの運用	理事人選（定時評議員会）、執行体制設計整備、理事自己研鑽・研修推進部連携	ア) 理事全員再選 イ) 付箋会議で理事の役割を協議 ウ) 会計士、医師の Web 研修 エ) 例月中計実行管理会議、第 8 回実現会議で推進部協調議論	△
	経営力強化	全国福祉村サミット開催（テーマ：差別化戦略）	ア) 11/11～12、全面オンライン開催	○
人手不足解消	「人事部」の創設	主に採用部門で設置		×
コンプライアンス意識の強化	体制強化	危機管理室検討、ハラスメント防止研修会	ア) 複数施設でコンプライアンス研修実施 イ) 課長研修「リスクマネジメント」開催 ウ) 労災事故に関する「再発防止対策方針書」を整備	△
	情報共有・初期対応	共有ルール・ツールの検討、導入提案、導入と利用開始	ア) パワーハラスメント調査対策委員会運用マニュアル制定 イ) 但馬地区パワーハラスメント事案への対応完了	○
	法令遵守委員会の活性化	委員会開催、事例検討、リスクヘッジ研究、施設活動へ参画	ア) 会計監査人による理事研修会で内部管理体制の現状監査の指示を受けた	△

### 3. 主な式典

#### (1) 辞令交付式

2021年4月1日(木)昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、但馬地区(但馬総合事務所)、神戸地区(神戸聖隷オアシス)に分かれオンラインにて開催しました。新採用職員22名(うち登用者14名)、昇任者7名、異動者3名(課長3名)に辞令を交付しました。開会礼拝では、神戸愛生伝道所竹内富久恵牧師からメッセージ、祈り、祝祷をいただきました。

#### (2) 創業46年記念式典

2021年6月22日(火)辞令交付式と同様に、但馬地区(但馬総合事務所)、神戸地区(神戸聖隷オアシス)に分かれオンラインにて開催しました。開会にあたって、2019年4月2日~2021年4月1日の間にご逝去された93名のご利用者、そして2名の法人役員を覚え、永眠者記念礼拝をもち、その後に神戸地区は水野理事長から、但馬地区は西山理事から永年勤続者に表彰状と記念品が授与されました。対象者は、勤続10年表彰者22名、20年表彰者2名、30年表彰者5名、合計29名です。また、長年の多大なご貢献に対して、1団体、1個人に感謝状を贈呈しました。

### 4. 主要会議

#### (1) 評議員会

##### ア) 第131回定時評議員会(2021年6月19日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③次期(2021年6月~2023年6月)役員  
の選任の件、④土地と建物の基本財産編入並びに定款別表の改定の件、(報告①)2020  
年度事業報告の件、(報告②)2020年度計算関係書類及び財産目録の報告の件、(報告③)  
2020年度計算関係書類に係る独立監査人の監査報告書の報告の件、(報告④)2020年度  
事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の報告の件、(報告⑤)2020年度期中監  
事監査の記録の件、(報告⑥)2021年度会計監査人による監査計画等の件、(報告⑦)  
2021年度役員賠償責任保険加入の件

##### イ) 第132回評議員会(2022年1月15日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③土地と建物の基本財産編入並びに定款別  
表の改定の件、(報告①)事業計画進捗状況報告

#### (2) 理事会

##### ア) 第217回理事会(2021年6月3日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③定時評議員会に報告する2020年度事業  
報告(案)の承認の件、④定時評議員会に報告する2020年度計算関係書類及び財産目  
録の承認の件、⑤定時評議員会に報告する2020年度事業報告及び計算関係書類に係る  
監事監査結果の承認の件、⑥定時評議員会で承認を求める次期役員  
の選出と次期監事選出に関する監事同意の件、⑦定時評議員会で承認を  
求める2021年度会計監査人選任と監事同意の件、⑧土地と建物の基本財産編入並びに定款別表の改定の件、⑨第131回定時評議員会の開催の件、⑩リース車両の契約締結の件(和生園・神戸光生園・神戸市立自立センターひょうご)、⑪2021年度事業計画に基づく農地取得の件、⑫2021年度平生園大規模改修工事の総額の増加並びに工事費借入額の増額の件、⑬第1次補正予算



案の件、(報告①) 評議員選任・解任委員会報告の件、(報告②) 2021 年度平生園大規模改修工事に係る入札結果の件、(報告③) 1. 2021 年度平生園特殊浴槽更新工事に係る入札結果の件、2. 2021 年度平生園特殊浴槽新規設置工事に係る入札結果の件、(報告④) 寄付金受入れ報告の件、(報告⑤) 財務辞令の件

イ) 第 218 回理事会 (2021 年 6 月 19 日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③理事長選定の件、④業務執行理事選定の件、⑤役員規則の一部改定の件、⑥2021 年度に 60 歳に到達する部長、施設長の嘱託契約締結の件、(相談①) 2021 年度会計監査人との意思疎通の機会の確保について

ウ) 第 219 回理事会 (2021 年 11 月 18 日)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③経営諮問委員会の設置について、④正職員給与規則別表および準職員(臨時職員・パート職員)給与一覧表改定の件、⑤土地と建物の基本財産編入並びに定款別表の改定の件、⑥真生園単身寮屋上防水改修工事及び業者選定の件、⑦神戸明生園非常用自家発電設備更新の件、⑧平生園 2022 年度福祉機器整備計画の前倒しとその原資としての令和 3 年度施設開設準備経費補助金(大規模修繕時の介護ロボット・ICT 化)の協議書提出の件、⑨平生園令和 3 年度施設開設準備経費補助事業(大規模改修時の介護ロボット・ICT 化事業)施工業者選定の件、⑩第 2 次補正予算案の件、⑪グループホーム南落合指導監査改善報告書の提出について、⑫第 132 回評議員会の招集事項の決定の件、(報告①) 2021 年度上半期事業報告、(報告②) 2021 年度中間決算報告、(報告③) 社会福祉連携推進法人制度について、(報告④) 会計監査人研修会、(報告⑤) 財務諸表等電子開示システム分析用スコアカードの配布について

エ) 第 220 回理事会 (2022 年 1 月 15 日)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2021 年度平生園大規模改修にかかる変更契約並びに借入金増額の件、④平生園空調設備機器室外機予防保全整備事業の前倒し実施の件

オ) 第 221 回理事会 (2022 年 3 月 17 日)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2021 年度第 3 次補正予算案の件、④(1) 給与規程の一部改定の件(相談支援専門員への職務手当の支給について)、(2) 給与規程の一部改定の件(介護職員処遇改善支援補助金、福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金の交付措置に伴う処遇改善支援手当の支給について)、⑤育児・介護休業法改正に伴う法人規程の一部改定の件、⑥ストレスチェック実施規程の一部改定の件、⑦役員等費用弁償規程の一部改定の件、⑧ハラスメント調査・対策委員会規程の一部改定の件、⑨新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金の活用による特別有給休暇の創設の件(就業規則等の改定)、⑩和生園就労移行支援事業廃止の件、⑪和生園就労継続支援 B 型事業定員変更の件、⑫恵生園障害児相談支援事業申請の件、⑬2022 年度事業計画案の件、⑭2022 年度収支予算案の件、⑮真生園 天井走行リフト更新工事(南寮等)及び業者選定の件、⑯神戸市による神戸市立自立センターひょうご調査指摘事項と改善報告の件、⑰3 月に定年を迎える職員である理事の職員の退職の件、⑱役職嘱託職員(課長職)の雇用の件、⑲役員賠償責任保険加入の件、⑳新型コロナウイルス感染症危険対応勤務手当(仮)の件、(報告①) 2021 年度期中監事監査報告、(報告②) 2021 年度平生園大規模改修工事完工の件、(報告③) 真生園指定障害福祉サービス事業所に対する兵庫県実地指導による結果報告の件、(報告④) 2022 年度主要会

## 議開催予定

### (3) 第4期中期計画実現会議

#### ア) 第1回実現会議（2021年6月30日開催）

「2021年度創造のカギを共有する」をテーマに各拠点WEB会議方式で、課長のみの参加にて開催。①6月現在の進捗状況と分析②達成へ向けての鍵③共有して見えてきた（気づいた）ことについて協議。

#### イ) 第2回実現会議（2021年9月30日開催）

「2021年度創造への道の協議」をテーマに各拠点WEB会議方式で、施設長からの事業推進状況報告を基に、理事との意見交換を実施。

#### ウ) 第3回実現会議（2021年12月23日開催）

「2022年度創造のカギは開かれたか」をテーマに各拠点WEB会議方式で、課長からの事業推進状況報告を基に、理事、施設長、課長との意見交換を実施。

#### エ) 第4回実現会議（2022年3月25日開催）

「部長が目指す4中計のゴール」をテーマに、施設長、課長の参加のもと、各推進部の第4期中期計画ビジョンの達成状況の報告と座談会を実施。

## 5. 新型コロナウイルス感染症対策本部活動報告

### (1) 4波まで

2年目に入った新型コロナウイルス感染症の脅威に対して、2021年5月からワクチン接種が始まり、各施設・事業所でも嘱託医師や協力医療機関等の協力を得て順調に進めることができ、希望者への3回目接種についても年度内に終わりました。職員のワクチン接種を推進する意味を込めて6月には「職員が新型コロナウイルスワクチン接種を受ける際の処遇について（職務免除の取扱い）」を定め、集団接種会場やかかりつけ医での接種への便宜を図りました。

感染の脅威は、4月25日から6月20日まで続いた兵庫県の第3回緊急事態宣言下で、神戸地区、但馬地区を問わず、利用者及び職員の関係先での感染拡大が私たちの現場に近く感じるところとなりました。例えば、近隣法人の通所事業所で発生した多人数感染により、当該法人が運営する別の通所事業所に当法人の支援施設利用者が通所利用していたこと、さらに当該支援施設の短期入所を当法人の通所事業所の利用者が利用開始したところで、この利用者の父に重疾患があるといった状況に緊迫した対応が必要になるなどの状況がありました。そのため、6月17日に、対策本部から「対策本部2年目を迎え、感染発生時の対応を再確認」という、最近の感染例をケースとして列挙し、かつ職員が感染者や濃厚接触者となったときの基本的対応方法を周知しました。

当時、当法人のグループホームで夜勤職員が感染した事例があり緊張しましたが、マスク等防護具装着を励行していたため利用者は濃厚接触とならず、保健所の指示で、念のため利用者への一定期間の健康観察を実施することで大事に至りませんでした。また、通所利用者が通所する朝に変化が生じ陽性となって事業所内の2日前からの積極的疫学調査のための行動確認を行うとともに、送迎車両同乗者やガイドヘルパーとの接触状況を確認し、関係全家族へ情報提供と健康観察を要請するケースも発生しました。当時、神戸市の保健所では対応に多忙でしたが当日中に電話で聞き取りを受けられ、また神戸市の所管への連絡による事後への指導も得られたことで、落ち着いて慎重な対応を行うことができました。

## (2) 5波による変化

兵庫県の第4回緊急事態宣言は8月2日から9月30日でしたが、病床ひっ迫と同時にこの時期から子どもの感染が広がり、それにより「家庭内療養」が一般化して職員である親が世話のために休まざるを得ない事態が増えてきました。また、子ども以外の家族が感染した職員も増加しました。その中でエッセンシャルワーカーとしての立場を配慮する職員の心情を考え、復帰の際に施設保有のキットでPCR検査を行うようにしました。ただ、同居しながら完全隔離が困難なゆえに感染者本人が療養期限を満たして以後に、濃厚接触者としての療養期間を経なければ職場復帰することができないとの保健所指示のため、入所施設での勤務表がタイトになり管理者の苦労が広がりました。

## (3) 6波の影響

この第5波の終息を受けて兵庫県が発出した「基本的対処方針」や厚労省老健局が出した事務連絡（11/24付）では入所施設の面会再開が言及されていましたが、平生園とさくらの苑が参加する朝来市内施設合同会議では「時期尚早」との判断をしたとおり、2022年1月半ば以後、沖縄県や広島県から先に拡大した「オミクロン型」ウイルスの感染急拡大は、当初、この型の重症化リスクは低いとされながら自宅療養者の急増を出来させ、結果的に保健所主導の感染症制御が不可能になることにつながりました。その時、急務とされた「医師の積極的関与」による健康観察も機能しないことになっていきました。

## (4) クラスターの発生

ひょうごデイサービスセンターの支援員が1月17日の朝、熱感を覚え受診の結果抗原検査陽性との報を受け、直近勤務日確認で緊迫しながらも区保健所の判断と指導で、健康観察しながら事業継続を行うことができました。しかし、その直後の1月20日に自立センターひょうごを利用中の利用者が変調し翌々日にPCR陽性となったことから、次々と陽性者が発生、未確認の職員と利用者への検査キット提供などを優先業務として神戸地区委員が協力して対応しました。合計35名のクラスターとなりましたが、設備に付着したウイルスを職員・利用者が接触で広める形の感染拡大が教訓として知らされました。

さくらの苑では2月5日に、前日無症状のまま通所介護を利用された方から同日ご利用の方々へ飛沫感染が拡大し、最終的に合計18名（職員含む）のクラスターとなりました。感染されたみなさんの地域の主治医の協力で、入院治療など出来る限りのことをしていただきましたが、大変残念なことに93歳の女性ご利用者がお亡くなりになるに至りました。

## (5) 入所施設でのクラスター化

そして神戸愛生園で2月1日に利用者、職員各1名の陽性が確認された後、2月5日午後には利用者6名、職員15名に、2月7日には利用者8名、職員17名と急激に拡大し、最終的に利用者35名、職員26名が感染した結果、死者3名（関連含む）という最悪の結果となりました。現在この事態を総括中ですが、対策本部としての備えの不十分さが露呈するとともに、第6波の混乱がピークで保健所の具体的な指示が得られず、平素お世話になっている病院への入院もできない中で肝心な看護職員も感染し、日々状況が悪化しました。

このような状況のなか、当該施設の診療所管理医師や産業医らの協力により重症化の恐れ

がある利用者に対しては地域の医院からの往診による治療をしていただき、特に2月9日から特定非営利法人ジャパンハートから専門の看護師の応援を受けることができるようになって、ようやく支援環境の改善を図ることができるようになりました。利用者への支援は、近隣の社会福祉法人社友会と法人内施設から支援職員の派遣を受けて維持し、2月14日ごろからは療養終了職員が復帰しはじめ、2月末にようやく終息しました。

神戸明生園では、2月末にワクチン3回目接種が終了した直後の3月1日に入所者4名と職員1名の陽性者を確認しました。翌日より北保健センターによる連日に渡る現地調査と支援とジャパンハートからの助言により終息させることができましたが、結果的に利用者11名、職員8名が感染しました。利用者、職員共に軽症又は無症状であったことは不幸中の幸いでした。

#### (6) まとめ（対策本部の反省）

2021年度を通じて確認できている感染者数は、利用者103名、職員60名の合計163名で、このうち利用者4名がお亡くなりになりました。

反省は、第5波の終息から年明けのころ、第6波襲来の直前で、対策本部の注意喚起ができなかったことが、こうした結果をもたらしたということです。1年半にわたって、入所施設への持ち込みの抑止を一義として職員の協力を求め続けながらも、ウィズコロナの流れへ同調する気持ちの揺れが生じてしまいました。あの時にこそ、「会食自粛など強い気持ちで防護しよう」と強く訴えるべきでした。

併せて、クラスターに直面した施設現場への対策本部の実効性のある支援が準備できていなかったことも大きな反省です。「保健所の指示と陽性者の入院」の实在を前提にした対応が、5波のころから現実でなくなり始めていたことの認識に立った覚悟が持てていませんでした。感染被害を広げるとともに、現場の疲弊を十分サポートすることができず、本当に申し訳ありませんでした。

神戸の2つのクラスター経験施設の施設長が4月14日に対談して、緊急時において対策本部に期待する事柄をまとめていただきましたが、例えば、支援課管理・指導職が感染し現場を離れた際の指揮系統の確保、施設管理者が長期連続勤務となることへの代務者配置、職員の宿泊場所の手配の役割の応援、職員の疲弊感を緩和するための経営職からのリモートでの激励などの提案を、対策本部は肝に銘じて受け止めました。

「2度と起こさない」とは申せないことをご理解いただきたいですが、そのような気持ちで、クラスター経験から学び、そこで得た具体的な手技を活かせるようにするとともに、感染症認定看護師による再教育を早急に実施します。また、医療機関、医師との連携を確保して緊急時に適切な指示と受療の道を確保できることを目指します。

（文責：吉田和夫）

## 6. 経営諮問委員会を通じた次世代経営職層の育成

2017年度にスタートした第3期中期計画から専任理事による法人経営を進めてまいりましたが、その実践から、創業家のない当法人の経営者像を考え育成していくことの重要性に気づかされ、第4期中期計画の重点実施項目に「経営者育成」を織り込みました。具体的な実行計画は2つで、一つ目は「管理者（施設長）育成」で、もう一つが「法人経営者選抜育成」で、経営諮問委員会は二つ目のテーマへの取組み手法として、2021年9月から導入した機関です。

#### (1) 経営層育成のモデルと当法人の現実に関する検討

神戸聖隷福祉事業団にとって経営体モデルは聖隷福祉事業団です。しかしこの大先輩と比べようもなく私たちは、やることのスピードが遅く、かつその詰めが甘いと思っています。

それは大先輩たちが、結果が問われる医学の世界を中核事業としておられるゆえの、仕事の厳しさへの認識の大きな違いから来ているのかもしれませんが、それ以上に、私たち現経営者としての行き届かなさこそが、次世代経営職の育成が愁眉であることを最も強く迫る事情と考えます。

と共に、先代の監事団から「老人支配」に陥らないように、次世代経営者の育成を急ぎ、新陳代謝を図るように強く諭されていきましたので、昨年2020年9月以降、聖隷福祉事業団の執行役員制度を参考にさせていただきながら、小さな組織である当法人に適した拡大経営組織を検討してきました。

#### (2) 理事の協議に現役施設長を招き入れることで相互の活性化を図る

前項で書いた経営者としての適格性課題には、現在の理事が、神戸聖隷が行政からのあてがいぶちの形で事業拡大期に入職し育ってきたということがありますが、そうした「制約」を了解しながら、方向性を示すことで主体的な結果を出すことに努めてきた基盤が中期計画です。

今後も、号令は皆で策定する中計から発する形で当法人の経営を進めるべきであると考えて、法人経営の全方面をにらんでいる中計を中心において、法人経営の諸事をこなしながら神戸聖隷の歩みを強める仕組みとして「常任理事+経営諮問委員=経営諮問委員会」という事業推進体を、2021年9月に創設しました。

経営諮問委員は施設長から選抜しました。但馬地区では定年を過ぎた施設長を選抜せざるを得ず残念でしたが、こうした「選抜」は、フラット組織である当法人では一歩前進したアクションで、経営者への道を開いた感ももっています。

創設後半年の印象は、やや議題処理会議の体がありますが、経営諮問委員にあっては施設の事情を含めながらも中計という大河を意識しながら議論をしてもらっているように感じていますし、5期につながる中計課題を実務的に提示する委員もあって、常任理事の姿勢も問われていると感じられます。

また、この経営諮問委員会には、諮問委員ではない施設長のうち輪番で2名の施設長にも陪席して書記の役をしてもらうようにしました。諮問委員だけでなく、冷静な施設長の目と耳が各理事に対する隠れた監査役を演じてくれることを期待しており、2022年度からは陪席施設長にも発言してもらう仕組みにしたいと考えます。

## 7. 出来た事案

2021年度に出来た法人本部が危機管理上関与すべき事柄は以下の通りでした。

#### (1) 虐待が疑われる支援行為事案：1件

9/23 神戸地区事業所にて、ご利用者から叩かれた職員が叩き返すという虐待に相当する事案が発生。関係者への聞き取り調査を行い神戸市に報告。障害特性への理解、チーム支援のあり方の見直し等、再発防止に取り組む。

#### (2) 利用者事故事案：なし

#### (3) 利用者間トラブル：なし

- (4) 支援体制への苦情：なし
- (5) パワハラ通報事案：なし
- (6) 苦情事案：なし
- (7) 利用者金銭にかかわる事案：なし
- (8) 職員との労務トラブル：なし

## 8. 地域貢献・交流

### (1) 社会福祉充実計画地域協議会

(但馬地区) 2021年6月さくらの苑運営協議会に合わせて書面報告の形で実施

(神戸地区) 2021年7月7日(水)神戸聖隷オアシス1階交流スペース 10名出席で実施

### (2) 各施設の事業計画「地域貢献の視点」の実施状況

(但馬地区)

#### ・ 恵生園

- ・ あったかプラザ運営検討会議実施 (4～3月毎月)
- ・ 園芸クラブ ゴーヤ種まき～植え付け(5～6月)
- ・ 作品展示「写真」小谷氏・中島氏(6・7月)
- ・ 茶房やっさ運営検討(恵生園対応) さくらの苑利用検討(6・7・8月)
- ・ 市民作品展示 (8・9・10・1～2月)
- ・ 恵生園利用者作品展示(10・1月)

#### ・ 真生園

- ・ 利用者外出委員会実施 (5～1月毎月)
- ・ With コロナ外出マップの作成, 完成 (5～11月毎月) 外出実施(11・12月)
- ・ 竹田外出マップの作成と掲示(10月)
- ・ お出かけカレンダー作成掲示(6・7月)
- ・ 機関誌編集委員会の開催(5～8・10・11月)機関誌発行(3月)
- ・ 機関誌に介護ロボット HAL の改良版記事掲載準備(5～8月)
- ・ ホームページ更新(7・8月)Facebook 記事送信(7・8・11月)
- ・ 「オオツキミニショップ」検討準備から開店(10～12月)

#### ・ 和生園

- ・ 地域清掃活動実施 (4～3月毎月 毎週火曜日・月1回木曜日)
- ・ 地域の資源ごみ回収協力(車両提供と職員協力 5・10月)
- ・ 地区行事への協力 除草作業(6月) トライやるウィーク4名受入(10月)
- ・ 秋葉台3区ボランティアサークルへお手伝い申出(除草ボランティア協力 10月)
- ・ 朝来市自立支援協議会 (4・6・8・11・2・3月)
- ・ 和生園地域周辺を除雪機で除雪(積雪時)

#### ・ 平生園

- ・ フェイスブック・ホームページ更新実施(4～8・10・12・1・3月)
- ・ 機関誌「ひなたぼっこ」作成委員会実施(4・6・8・9・10・11・2月)と発行(9・3月)
- ・ 施設内余暇活動実施(5・6月)
- ・ ボランティア情報収集・新規ボランティア開拓：家族清掃ボランティア (10月)
- ・ 竹田小学校交流会参加(ZOOM)(2月)

#### ・ さくらの苑

- ・施設内地域貢献研修会・学習会実施と検討会議(4~1月毎月)
  - ・地域を知るためのマップ作り・地域へ展開(4~1月毎月・3月)
  - ・さくらカフェと出前講座の定期開催・準備(4~12月毎月・2・3月)
  - ・上町ミニデイ参加「牛乳パック小物入れ」作成(4・11・12月)
  - ・「さくら新聞」配布と上町の体操参加(7・9月)
  - ・朝来市包括・朝来市社協との意見交換会実施(12~3月毎月)
  - ・地域づくり人材養成研修 WEB 参加(11月)
  - ・わらしべ
    - ・こども園・小学校 WEB 交流会実施(2月)
    - ・ホームページ・フェイスブックデータ更新(5・6・8・9・11・12・1月)
    - ・機関誌編集委員会実施・原稿作成(8・9・1・3月)発行(10月)
    - ・キャラバンメイト連絡会への出席依頼と参加(8・9月)
  - ・北但広域療育センター
    - ・地域向け講演会・研修会準備と開催(4~3月毎月)
    - ・ASD(自閉症スペクトラム症)支援者講座実施(7~2月 ブランチ8回)
    - ・ASD保護者講座実施(11月~2月 ブランチ5回)
    - ・ホームページ有効活用検討(4~11月)更新(6月)引継ぎ(3月)
    - ・地域ニーズ情報収集と事業経営検討(4~3月毎月)
    - ・市町自立支援協議会・社会福祉法人連絡協議会出席(4~3月毎月)
    - ・効率的な事業運営(新規スペース事業運営)検討(4~3月毎月)
  - ・エスポワールこじか
    - ・園校訪問、参観(7・8・9・10・11月)
    - ・2市1町の自立支援協議会への参画(4~3月毎月)
    - ・関係市町の委員会・協議会への協力(4~3月毎月)
    - ・オープン療育計画と実施(8~11月毎月)
    - ・ホームページ活用・更新(4~3月毎月)
    - ・こじか便り毎月発行(4~3月毎月)
- (神戸地区)
- ・神戸聖生園
    - ・「花のプランター」歩道沿い設置と手入れ(4~11月毎月・1~3月毎月)
    - ・バス道沿いの除草・ゴミ拾い実施(5~9・11・12月)
    - ・ゴミステーション(竜が台7丁目)清掃作業実施(4~2月毎月)
    - ・友が丘敷地内除草作業・廃棄実施(5・6月)
  - ・神戸愛生園
    - ・地域行事への参加、開催自粛(4~3月)
    - ・福祉避難所としての環境整備実施(4~3月)
    - ・フェイスブック・インスタグラム更新(4~12月)
    - ・機関誌「神愛」作成・発行(5・6・7・10・11・12月)
  - ・きたすま障害者相談支援センター
    - ・制度の狭間、生きづらさを抱えた方へ対応、事例共有開催(4~9・11・12月)
    - ・須磨区自立支援協議会の運営(全体会・運営委員会開催4・6・11・3月)

- ・就労支援部会 定期部会開催(7・8・9・11・1・3月)
- ・すまいんど部会 定期会議・活動実施(6・7・9～3月)
- ・まなぼー!!部会 定期部会開催(7・10・12・2月)
- ・ともいき部会 定期部会開催(7・11・1・3月)
- ・親子部会 定期部会開催(7・11・1・2・3月)
- ・相談支援部会 連絡会開催(8・9・11・1・3月)
- ・サポートブック“すまっこナビ”事例検討会実施(11月)
- ・発達の気になる子を持つ保護者向けグループピアカウンセリング実施(7・9・10・2・3月)
- ・ほっとかへんネットすま 役員会,実務者会,コア実務者会出席(4・5・6・9・2・3月)
- ・アンテナショップ“すまるしえ”再開(10・11・3月)
- ・冬のギフト販売実施(12月)
- ・「コープすまるしえ」販売会(2月)
- ・須磨・長田・兵庫 合同相談支援部会開催：勉強会形式で実施(1月)
- ・神戸聖隷総合相談センター
  - ・「Tunagari～あつまり処～オープン 地域貢献活動の足がかり(7～3月毎月)
  - ・地域のよろず相談対応 神戸聖隷オアシス会議出席(7～10・1～3月毎月)
  - ・成年後見制度推進員会研修担当打合せ出席(5・7・9・11月)
  - ・地域広報・調査活動実施(7～10・1～3月毎月)
- ・神戸友生園
  - ・支援学校進路担当部門との相談体制構築 調整会議等の実施(6・7・9・11月)
  - ・関係機関との協力体制構築 協議会の実施(10・11月)
  - ・地域医療系学校とOT実習受入れ打合せ 日程調整(4・8・9月) 見学実施(12月)
  - ・須磨区自立支援協議会「COOP すまるしえ」参加(7・1・2・3月)
  - ・友生支援学校教師3名見学、実習・進路について意見交換(6月)
  - ・青陽須磨支援学校進路担当責任者と面談実施(7月)
  - ・地域住民との交流機会企画実施 Tunagari PR挨拶実施(3月)
- ・神戸光生園
  - ・ミニバザー見直し検討と実施(4～3月毎月)
  - ・出入口工事実施(4～10月)門扉工事完成(12月)
  - ・防災イベント企画書作成と広報(4～11月)、実施(11月)
  - ・福祉避難所訓練実施準備と振り返り(4～11月)、実施(10月)
  - ・ミニバザー(ひかりマルシェ)新しい門扉で実施(1～3月)
- ・神戸明生園
  - ・しあわせの村医療福祉部会との連携(4～3月毎月)
- ・ワークセンターひょうご
 

(神戸市障害者就労推進センター・神戸障害者就業・生活支援センター)

  - ・障害者雇用就業・定着拡大推進事業)
  - ・地域の人々との関係構築年間計画確認(4月)キャナルタウン南住宅訪問(1月)
  - ・地域清掃活動計画確認(4月)実施(12・1・3月)
  - ・中部ネットワーク会議 打合せ実施(4・7・9月)、1～3回会議開催(6・10・11月)
  - ・6者会の開催 連絡調整会議(4～3月毎月)
  - ・就業支援基礎研修 計画確定(4月) 講師打合せ(7月) 研修開催(8月)



- ・第2回神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議(オンライン)実施(2月)
- ・第2回教育関係機関就労支援連絡会議開催(3月)
- ・ひょうご障害者相談支援センター  
(神戸市基幹相談支援センター・発達障害者中部相談窓口)
  - ・身体知的相談員連絡会開催(4月分を3月に前倒しで開催・8・12月)
  - ・発達障害者の理解と啓発、イベント中止の為、代替え案計画(6~9月)
  - ・基幹福祉避難所開設訓練：近隣特養(モーツアルト)と調整(8月)訓練中止(11月)
  - ・ほっとかへんネット災害時支援活動プロジェクトチーム(PT)会議(11・1・2・3月)
  - ・炊き出し訓練(3月)・相談PT会議(10・12月)・生活環境改善事業PT会議(1月)
  - ・自立支援協議会：活性化部会(1月), 防災部会(2月), 相談支援部会(1・3月),  
事業所部会(3月), 運営委員会(1月),
  - ・災害時要援護者支援・避難訓練の準備・実施・振り返り(8・10・11・12月)
- ・ひょうごデイサービスセンター
  - ・兵庫中学・須佐野中学 トライやるウィーク受入準備と打合せ(4~11月毎月),
  - ・須佐野中学トライやる事前後訪問と受入れ(10・11月)
  - ・兵庫中学校トライやるアクション受入れ(11月)
  - ・兵庫大開小学校 交流プログラム依頼提案あり(5月)
  - ・市社協ワークキャンプ依頼 プログラム検討(6・7月)
- ・自立センターひょうご
  - ・よつば寄席開催企画検討(5・6・7月) 寄席のみ実施(7月)
  - ・寄席と同時イベントは検討のみ、実施中止(4~3月)
  - ・施設名入りビブス着用で清掃活動実施(4・10・11・12月)、緊急事態宣言の為作業  
中止(5・6月), 猛暑の為作業中止(7・8・9月) 活動実施マツダV2名参加(10・11月)
- ・ワークセンターわかまつ
  - ・大正筋商店街企画イベントに積極的に参加(4~3月毎月)
  - ・大正筋商店街神戸西部3都ワンデーマーチおもてなしイベント参加(3月),  
ワンコイン商店街参加(3月), 臨時総会出席(8月)
  - ・神戸商店街, 小売り市場, お買物券取扱店として登録(5月)
  - ・ほっとかへんネット長田総会中止, 役員会出席(5月), 実務者会・役員会出席(8月)
  - ・認知症カフェ開催(5・6・7・8・10~1月毎月・3月)
  - ・ホームページ更新 夏季新メニュー提案(4月)、更新, 告知(5~9・11・12・3月)
  - ・神戸市交通局「駄菓子屋・アップルスタンプラリー」参加(10~12月)
  - ・「ながたにこここマルシェスイミー」(長田区役所芝生広場)販売会参加(11月)
  - ・「ぬくもりマルシェ」(県庁前広場)販売会参加(11月)
  - ・「はっぴねすコーナー」(しあわせの村 特設コーナー)で販売(11月)
  - ・まつぼっくりパン販売(計7回)
- ・せいれいやさかだい
  - ・北須磨団地自治会を中心とした年間行事計画作成(4月)
  - ・北須磨団地自治会地域清掃日に友が丘敷地(歩道沿い)清掃実施(6・11月),
  - ・北須磨団地自治会「すすく喫茶」利用者・職員で参加(7月)
  - ・北須磨団地自治会「地藏盆」に利用者・職員で参加(8月)
  - ・北須磨団地自治会「安心安全コミュニティ像の集い」施設長が代表参加

- ・清掃用ベスト着用して地域ゴミST（竜が台）・バスST（友が丘）清掃（4～3月）
- ・事業所ビル（林タオル）周辺の除草・清掃実施（4・5・8月）
- ・事業所ビル（林タオル）屋内清掃実施（8月）
- ・地域民生委員の集まりに参加（9月）
- ・北須磨団地自治会大掃除参加（11月）

## 9. 広報他

### (1) 洗足発行

#### ア) 第28号（2021年7月16日）

①巻頭言、②特集「全人的存在としていかされる」02 看取り介護を通じて終末期に向き合う、③常務のぼやき、④事業報告、⑤決算報告、⑥吉川牧師メッセージ「自分を動かし人を動かす」

### (2) Facebook と Instagram による各施設と各部会の情報発信

「2021年度心機一転チャレンジしようと思うこと」や「施設・事業所の自慢（アピール）」を中心に、2022年3月末までに両SNSで合わせて204回の投稿を実施。登録者数490人。

以上

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 成年後見制度活用推進委員会  
 運営責任者 吉田 和夫

支援課長全員が参画して 2011 年 9 月に開始した当法人の成年後見制度活用推進取組みは、今では施設サービス利用者の 1 割の方に制度を活用していただくに至っています。2021 年度においても、例年以上の力強い活動が実践されましたので、以下のとおり報告します。

### (1) 成年後見制度活用推進取組みの高度化戦略

2021 年度にはこの流れをより一層強いものにするために以下の新機軸を導入した。

新機軸テーマ	成果
① リーダー複数性	4 名の支援課長（神戸・但馬地区 2 名）が本委員会の中核的なリーダーの役割を率先しつつ、高度化している成年後見制度の取組みを牽引。
② リモート会議に適した資料共有など	会議資料を OneNote へ会議前に投稿すること、各施設での活用推進取組みの持続的な過程を記録するシートの掲載など、2 か月に 1 度の会議を有意かつ効率にするように仕組んだ。
③ 委員会開催時に専門家からの「法人後見」学習会を開催	高橋理恵社会福祉士（姫路・聖泉社福士事務所）を本委員会オブザーバー兼講師に迎え、年 5 回「法人後見」勉強会を開催。ニーズが急増する成年後見制度に期待される「法人後見」の学びを通じ、本委員会として「法人後見」の必要性と価値を模索する起点に立った。
④ 推進に困難があるケースに専門職からの助言を得られる体制設定	DV 被害による保護を必要とした施設サービス利用者の将来を視野に入れた権利擁護支援に関する助言を通じ、権利擁護支援で活躍されている弁護士との新たな繋がりに発展。

### (2) 成年後見制度活用推進委員会開催経過

- 第 1 回（2021 年 5 月 26 日 リモート開催）
- 第 2 回（2021 年 7 月 12 日 リモート開催）
- 第 3 回（2021 年 9 月 21 日 リモート開催）
- 第 4 回（2021 年 11 月 8 日 リモート開催）
- 第 5 回（2022 年 1 月 14 日 リモート開催）
- 第 6 回（2022 年 3 月 14 日 リモート開催）

### (4) 新たな学び（『権利擁護支援と法人後見』、ミネルヴァ書房、2015）

テキスト	対応事例検討
(7/12) 権利擁護支援の基本	① 身寄りはなく、障害年金を受給しながら、風呂なしアパート 2 階で一人暮らしを送っている視覚障害、脳梗塞後遺症左半身まひ及び認知症を患われた 60 歳代男性。家主よりお世話料と称した金銭搾取と、適切な相談支援がなされなかった虐待事例をもとに、権利擁護支援に係る生活・相談・法的支援の視点で事例を検討。三つの支援軸（生活・相談・法的）が重なり機能することで、権利擁護支援が成立することを学ぶ。

テキスト	対応事例検討
<p>(9/13) 虐待防止と権利擁護 消費者被害と権利擁護 地域福祉と権利擁護</p>	<p>① 脳梗塞後遺症右半身まひを患う母 90 歳、従妹の子 20 歳と広い一軒家で同居する、知的障害 70 歳女性（療育手帳 A）。地域生活を送る上で、「お付き合い」と称した近隣の人からの消費者被害、本人の判断能力につけこんだ金銭・年金搾取、不動産売買被害が断続的に行われていた事例をもとに、虐待防止、消費者被害、地域福祉の各視点で権利擁護支援との繋がりをグループで検討。地域で埋もれている権利侵害を回避し、皆が安心して地域で暮らし続けるための課題を共有。</p>
<p>(11/8) 成年後見制度の基礎 法定後見制度 任意後見制度と福祉信託</p>	<p>① 市内に兄弟姉妹はいるが疎遠で、アパートで一人暮らしを送っている統合失調症による精神保健手帳 2 級を所持した 70 歳代女性。体調不良の訴えとともに浪費が増え、自身で行っていた金銭管理と一人暮らしの継続が難しくなった事例をもとに、保佐類型と診断された方の支援の方向性を検討。本人主体を優先した視点で支援することの重要性を再確認。</p> <p>② 障害年金の受給はなく、一般就労を行いながら会社の社員寮で生活を送っている知的障害 50 歳代男性（療育手帳 B1）。自身で給与管理をしてきたが、クレジットカードの使用による高額の買い物、不要な買い物による浪費、兄弟からの金銭要求により生活困窮に陥っていた事例をもとに、補助類型と診断された方の定年後の支援を検討。本人申立てを想定した事例を通じて、補助類型に係る代理権・同意権について学ぶ。</p> <p>③ 親族はいるが全くの疎遠で、自宅マンションで一人暮らしを送っている、認知症はない要支援（Ⅰ）80 歳代女性。高額な資産を保有しているが、加齢と持病による身体機能の低下に加え、転倒による骨折で入院した時も身元引受人や保証人を頼める人がいなかったこともあり、将来の不安に感じている事例を通じて、任意後見人を必要とするケースを学ぶ。</p> <p>④ 会ったことのない甥姪以外に親族はなく、アパートで一人暮らしを送っている認知症を患う 80 歳代女性。認知症の進行により郵便物の放置、未払い金の発生、日常生活の維持に支障をきたした状態に加え、アパートの取り壊しによる立ち退きを迫られている後見類型と診断された方の事例を通じて、首長申立て、財産がない方の身上監護面の支援が後見の重要な役割になってきていることを学ぶ。</p>
<p>(1/14) 市町村の役割と責任 市民後見論 法人後見への市民参加</p>	<p>① 祖母と弟の 3 人暮らしで、自宅に引きこもっている 20 歳代男性 A（療育手帳 A）。金銭管理をしてきた祖母の要介護度（Ⅲ）に加え認知症が重度化。同居する弟は日雇で就労するも職場仲間からの金銭搾取を受け、A の預金にも手を付けている。祖母並びに A の栄養摂取もできていない家族支援を必要とする事例を通じ、首長申立を含む多問題家庭の権利擁護支援について検討し、市町村の役割と責任を学ぶ。</p> <p>② 子供はいるようであるが疎遠であり、生活保護を受給されながら一人暮らしをしている要介護（Ⅰ）80 歳代女性。認知症を患われ、生活費の管理が自分ではできなくなり、「通帳がなくなった」と毎日複数回郵便局へ行き訴え始めた。併せて、お茶飲み友達からの「入</p>

テキスト	対応事例検討
	<p>浴もできていない」との声から、デイサービス利用始めるも、利用料支払ができていない事例を通じて、在宅生活支援に必要とする、地域の見守り、首長申立、成年後見制度利用支援事業等の市町村事業の活用を必要としたケースを学ぶ。</p>
<p>(3/14) 法人後見の機能と役割 法人後見の組織体系</p>	<p>① 生活保護を受給しながら独居で生活をしている認知症を患われた要介護（Ⅰ）80歳代女性と、母親の近くで独居生活をする脳梗塞後遺症左半身軽度まひ（歩行困難）により就労継続が出来なくなり生活保護申請中の50歳代長女。母親は認知症の進行により、日常生活の維持に困難をきたすとともに、長女も身体機能低下と脳梗塞後遺症による判断能力の低下により、今まで行ってきた母親の通帳管理が困難化した。長女の成年後見制度の利用についての十分な理解が難しい 8050 問題の事例を通し、セルフネグレクト状態にある家族に対する法人後見の権利擁護支援の可能性を考える。</p> <p>② 親族は子供 2 人いるようであるが所在不明で全くの疎遠であり、兄弟姉妹から関りを拒否されている、要介護（Ⅴ）70歳代男性。公営住宅で一人暮らしをしているが、現在は入院中。脳出血後遺症右半身まひに加え、経口摂取が出来なくなり胃瘻造設し、意思表示は出来ない状態。そのため日常生活は全介助。年金は年金担保で借金のため6万円/月しかなく、200万円以上の債務も判明。さらに国民健康保険料、介護保険料を滞納による介護給付制限等、多様の問題を抱える困難事例を検討。法律職の力を必要とした法的支援の必要性、退院後の生活の場所を含む生活支援等、権利擁護支援の三つの支援軸（生活・相談・法的支援）と法人後見の必要性について復習。</p>

#### (5) 研修会主催

##### ●神戸地区（2021年度 成年後見制度研修会）

2021年11月24日（水） 10:30～12:00

講師：NPO法人成年後見・こうべきずな 高野國昭氏、平川利人氏  
 聖泉社会福祉事務所 高橋理恵氏  
 菅尾・岩見法律事務所 波田幸久氏

内 容：

#### 1. 後見人へのインタビュー

- (1) 講師自己紹介
- (2) 申し立て手続きについて
- (3) 後見人の選任について
- (4) 費用、報酬について
- (5) 後見人が行う支援内容について ①金銭管理 ②身上監護
- (6) その他の質問
- (7) 各講師からのメッセージ

#### 2. 質疑応答

●但馬地区（2021年度 但馬地区成年後見制度基礎研修）

2021年12月10日（金）15：00～17：00

講師：朝来健康福祉事務所 ふくし相談支援課 藤原正浩氏、小畑知見氏  
聖泉社会福祉士事務所 高橋理恵氏  
菅尾・岩見法律事務所 波田幸久氏

内 容

1. 講習 朝来市 ふくし相談支援課  
朝来市福祉計画と朝来市成年後見制度利用支援事業の利用状況
2. 講習 菅尾・岩見法律事務所 辯護士波田久幸氏  
権利擁護の視点で、成年後見制度を考える
3. 意見交換、質疑応答  
グループワーク「施設が抱える事例の共有」  
グループワーク 気付いたこと、振返ったこと、〇〇したら進むかな？  
グループ発表 事例について、グループワークで共有したことの発表
4. 各講師からのコメント

（6）スローガン・ポスター



(7) 活動実績調査表

2021年度 神戸聖隷福祉事業団 成年後見制度推進活動実績調査																	
【神戸地区】																	
調査実施日 2022年3月																	
事業所名	担当者	2021年3月31日の状況						2022年3月31日の状況						各事業所の実態(今見えている状況)			
		利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2021年4月～2022年3月に後見等が終了した人数	成年後見の必要性(職員見立て)		特記事項
															制度活用が必要な方	特に緊急性を要する人	
1 神戸聖生園(GH含む)	岩城 州吾	63	4	0	0	0	4	63	4	0	0	0	4	0	0	0	現在男性1名申立て中
2 せいれいやすかだい	北場 恒彦	38	7	2	0	0	9	40	8	2	0	0	10	0	4	2	①親の高齢化。本人の状況に配慮が必要(T) ②親の高齢化。グループホーム利用(H)
3 神戸愛生園	山崎 浩司	49	16	2	0	4	21	46	17	2	0	3	22	1	9	1	本人の判断能力が低下した方で、身寄りの判断能力に低下が見られる方に緊急性を感している。
4 神戸友生園	津々木謙一	42	1	1	0	0	2	45	1	1	0	0	2	0	2	1	ご利用者(女性・知的・45歳)と父の二人暮らし。最近父が767パワマと診断。長年家族で入居している宗教団体の動きが少し気になり、財産保も含め後見の検討を急ぐ。
5 神戸光生園(GH含む)	大川 博啓	111	10	1	0	0	11	102	10	1	0	0	11	0	20	8	支援力の弱い家庭(高齢化)が多くなってきている。入所やグループホームへの移行に合わせて、後見が必要。
6 神戸明生園(GH含む)	猪原 明美	78	25	0	0	0	25	76	25	0	0	0	25	1	7	1	ご本人が単身、高齢のため緊急性を要している。
7 ワークセンターひょうご	岩本 康則	16	0	0	0	0	1	10	0	1	0	0	1	0	0	0	
8 自立センターひょうご	佐原 義人	64	5	0	0	0	5	64	5	1	0	0	6	0	8	3	特に緊急性を要する方には丁寧に話していきたいと考える。
多機能型デイセンターひょうご	宮本裕佳子	84	5	2	1	0	8	81	5	2	1	0	8	0	13	4	障害者同士の夫婦を支えてくれている方が高齢になり、財産管理等を第三者の後見人に委ねていく必要性が強くなってきている。全体的に親が高齢になり財産管理、身上監護ともになってきている方が増えてきている。
9 インクルージョンひょうご	宮本裕佳子	20	1	0	0	0	1	17	1	0	0	0	1	0	2	0	主たる介護者の両親は高齢。兄弟はいるが、別世帯であり入所移行に向けて後見制度の必要性がある。
10 ワークセンターわかまつ	服部まゆみ	39	2	0	1	0	3	39	3	0	1	0	4	1	23	0	ご両親のどちらかが認知症であったり、介護が必要な方や、片親の方、親が高齢などについて必要性を感じている。
							90						94				
11 きたすま障害者相談支援センター	三木 卓也	698	5	7	1	2	15	554	8	6	0	1	15	1	1	1	
12 神戸聖隷総合相談センター	三木 卓也	289	18	1	1	1	21	302	18	1	1	1	21	0	3	2	
13 ひょうご障害者相談支援センター	桜間 悦子	992	3	4	5	0	12	764	3	4	5	0	12	0	2	1	身寄りのない単身知的障害の方が制度利用の必要あるものの現在はあんしんサポートセンターが関り生活を維持している。
※支援センターは相談内容から必要と思われる数を挙げる							48						48				
【但馬地区】																	
事業所名	担当者	2021年3月31日の状況						2022年3月31日の状況						各事業所の実態(今見えている状況)			
		利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2021年4月～2022年3月に後見等が終了した人数	成年後見の必要性(職員見立て)		特記事項
															制度活用が必要な方	特に緊急性を要する人	
13 真生園	中島 章太	61	7	5	0	3	15	67	7	5	0	3	15	0	7	3	1名、親族が制度利用を希望 家族、親族が制度利用に関してのご理解が得られにくい
14 真生園	嵯峨山泰弘	60	5	1	0	0	6	60	5	2	0	0	7	0	3	0	
15 和生園(GH含む)	山根 由夫	45	0	1	0	1	2	39	1	0	0	1	2	1	6	0	・69歳女性利用者→DV被害により、夫人保護施設よりGHへ入所。本人の所在を知らせているのは実兄1名のみであるが、実兄も遠方におられ、且つ高齢のため直接的な協力を得ることは難しい。本人の後見制度の利用について、検討を行いたい <和生園> ・後見制度の利用を検討して頂きたい方はいらっしゃるが、緊急性を要する方は現時点ではなし
16 平生園	柴垣 泰二	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	特記事項なし
17 さくらの苑	越智 泰之	29	1	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	1	0	0	家人が後見人として活動。施設転居され終了
18 グループホームわらしべ	奥田 勝	18	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	2022年3/28付で1名退所し17名。新規入居者家族には、契約時に成年後見制度の説明実施。利用棒の要望無し。入居中の家族様からも成年後見制度活用に関する問い合わせ無し。
19 北但広域療育センター	稲津 慎也	12	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
							24						25				
法人計		2809	116	27	9	11	162	2427	122	28	8	9	167	6	110	27	

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖隷歴史資料館  
 管理者 吉田 和夫

### 第4期中期計画のビジョン

**創始の熱い思いを全職員の心に響かせ、福祉に対する市民の理解を拓げるために活動します**

2021年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中、少しずつ広報活動を進めて参りました。

理念の視点では、ギャラリースペースの活用、本部書類の管理を主に取り組みました。

旧さくらの苑に保管している本部書類の整理を行いました。本部にて保管する書類と歴史資料館にて保管する書類を仕分け、旧さくらの苑から本部・歴史資料館への搬出作業を行いました。また、書類の保管場所確保・ペーパーレス化対応に向け、過去の稟議書をデータ化いたしました。

ギャラリーの利用促進については、ギャラリー展示募集の広告を一新し、各施設・地域住民へ配布しました。5月より徐々にお問い合わせをいただき、9、10月には但馬年金者組合朝来班・たじま医療生活協同組合朝来支部様による作品展（第4回あさご文化作品展）を開催し、朝来市ケーブルテレビ・神戸新聞の取材を受けました。また、例年の真生園・恵生園の利用者作品展に加え、放課後等デイサービスめぐみ利用者作品展を開催し、利用者の活動を発信しました。

人材育成の視点では、新型コロナウイルス感染症の影響により、法人歴史の学習機会を提供できませんでした。

地域貢献の視点では、中町区長交代のため指定緊急避難場所に関する利用方法等の説明を行いました。8月には高齢者避難指示が発令され、利用者はありませんでしたが、実際に指定緊急避難場所を設置いたしました。但馬よろず福祉相談所については、新たなチラシ作成については見送ることとしました。

### 1. 推進状況

#### (1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットの設置、広告を掲示	ア)両施設に展示関連の広告を掲示	○
	①両施設の担当者が情報を共有 ②出展者に互いの施設を紹介し、両施設で同様の展示を実施	① ア)互いの施設の展示情報を共有 ② ア)あったかプラザ出展者へ資料館展示案内を実施	○



実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
法人主催行事の開催	①理念部会等と協力し、クリスマス会等を開催	ア)クリスマス会は未開催	×
ギャラリーの利用促進	①地域住民・関係者への広報活動  ②施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信	① ア)新しくギャラリースペースの広告を作成 各施設・地域住民へ配布 イ) ・たじま医療生活協同組合等による作品展(第4回)を開催 / 朝来市CATV、神戸新聞取材(9～10月) ウ)展示者による「作品を語ろう会」を開催 ② ア)真生園利用者作品展を開催(6月) イ)恵生園利用者作品展を開催(10月) ウ)放課後等デイサービスめぐみ利用者作品展を開催(1月)	○
インターネットを活用した広報活動	①ホームページにて最新情報を発信	ア)ギャラリースペース作品展募集案内を発信	△
映像コーナーに新しい映像を追加	①施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加	ア)未実施	×
本部書類の管理	①旧さくらの苑保管の本部書類の整理を行い、適切に保存管理する	ア)稟議書・捺印依頼書を歴史資料館にて保管、過去の稟議書データ化 イ)本部にて保管する書類を搬出(7～9月)	○
工事関係書類・広報誌の管理	①工事関係書類(契約書等)、広報誌を適切に保存管理する	ア)新規工事関係書類、和生園開園関係書類を収集・保管	○

## (2) 人材育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
法人の歴史勉強会等の開催	①歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供	ア)未実施	×

## (3) 地域貢献の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
地域防災への協力	①「指定緊急避難場所」として地域防災に協力	ア)中町区長交代のため緊急避難場所設置時の利用方法等を説明 イ)高齢者避難指示により指定緊急避難場所設置(8月)	○
「但馬よろこび福祉相談所」の利用促進	①相談体制(事業所間連携・相談バックアップ等)の構築 ②新たなチラシを作成し、地域住民への広報活動を行う	① ア)未実施 ② ア)未実施	×

## 3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 平生園

施設長 太田 敦子

平生園の基本方針

1. 利用者様が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（活きる）施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者とその方を取り巻く皆のしあわせを追及いたします。

2021 年度の事業報告について

2021 年度平生園は大規模改修工事を実施。工期中は特に安全面について留意し、居室移動等による不便さや騒音等々ご利用者への影響が最小限に抑えられるよう生活支援の継続に努めました。工事はコロナの影響にて延長しましたが1月末には完工し、美しさと温もりのある快適な環境を整えています。また合わせて、兵庫県の施設開設準備経費補助事業（大規模修繕時の介護ロボット・ICT 化）の補助金を受けることができ、離床センサー付きベッドや眠りスキャンの導入、Wi-Fi 環境の整備なども行い安心安全な環境を整えました。

QOL の視点「看取りの充実」では、コロナ禍で面会制限中でもご家族との時間をとる工夫を行う等充実に努めました。しかし慣れ親しんだ環境を変更するという新たな課題も残し、継続検討となっています。

人材確保育成の視点「エルダー制度の再構築」は、業務分担表の活用や新採用者育成の書式を見直し、段階の把握をすることでエルダーが不在でも統一した指導を可能にするなど再構築に取り組みました。

「サービスの質の向上」では、改修により2階に新規特殊浴槽設置をしたことで階を行き来するご利用者と職員の負担軽減や、時間短縮ができ一人でも多くの方の入浴ができる状況や感染症等発生時にはゾーン分けなどがし易い環境も整えることができました。更に介護報酬改定に伴い、組織的に安全対策体制の整備が必要となったことから、担当者を配置し安全対策委員会を設け事故等の分析、検証、啓発などの取り組みを開始し事故減少に繋がりました。全体を通し地域交流、職員確保、行事、個別支援等の充実等課題も残しましたが、次年度に継続していきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：1991 年 11 月 11 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム（第1種）	介護老人福祉施設	60名	要介護高齢者	1991年11月11日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	空床型	要介護・要支援 高齢者	2013年4月1日

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
理念勉強会の開催	①地の塩伝道所牧師による上半期・下半期各3回(年6回)の勉強会を開催 ②理事長による講演(1回/年)	① ア)小西牧師による理念学習会実施 (6月:4名 7月:3名 8月:3名 11月:4名 1月:3名参加) イ)職員会議時に小西牧師よりメッセージ(毎月) ② ア)未実施	○
理念研修へ職員派遣	①キリスト教福祉基礎講座、法人理念研修等へ職員派遣(3名以上/年)	① ア)キリスト教福祉基礎(10.11.12月各1名派遣)	○

(2) 人材確保の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
計画的な研修の実施と参加	①職員会議にて各学習会を開催(10回以上/年) ②外部研修参加者の年間計画作成と派遣実施 ③伝達研修の実施	① ア)職員会議にて学習会開催(10回) ② ア)外部研修派遣(4月~9月/4回) イ)外部研修派遣(10~3月/6回) ③ ア)伝達研修実施(ポジショニング)(12月)	△
エルダー制度の再構築	①職制者が中心となり、中堅職員を対象に知識、技術を指導し、エルダーを育成(1名/年) ②リーダー養成研修などへの職員派遣 ③月の振り返り実施 ④書式(マニュアル)の作成および更新	① ア)新任職員(異動者)の指導開始(4月~3名) イ)職制者による新任職員の指導開始(7月~1名、3月~1名) ② ア)育成者指導スキルアップ研修参加(9月/1名) ③ ア)月の振り返り実施(毎月15日) ④ ア)エルダー関係書式の更新・活用(4月)、書式改訂(2月)	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
ノーリフト ケアの実 践	①委員会および学習会の開催 (4回/年) ②指導者の育成(1名/年) ③長寿の郷による人材派遣事 業の活用(4回/年)	① ア)福祉用具活用のための勉強会実 施(8月)、伝達研修実施(12月) ② ア)育成者指導スキルアップ研修参 加(9月/1名) ③ ア)人材派遣事業の活用(6.11月)	○
先進福祉機 器の導入検 討	①先進福祉機器の情報収集 ②機器の選定、デモ機の活用 ③施設改修に合わせた機器の 導入(特殊浴槽等)	① ア)ケアコムより眠りスキャン、記録 システム、ナースコールとの連動 について説明(9月)NDソフトウ ェアによるIOT連携説明(3月) イ)離床センサー付きベッド、眠りス キャン等の情報収集(9月) ウ)インカム説明会参加(12月) ② ア)デモ機の活用未実施 ③ ア)2階特殊浴槽新規導入(7月) 3階特殊浴槽更新(8月) 眠りスキャン6台、離床センサー 付きベッド50台導入	○
記録支援シ ステムの有 効活用	①記録支援システム活用推進 者育成(各フロア1名) ②マニュアルの更新、作成 ③学習会の開催(包括的自立支 援プログラム) ④記録時間の検討 ⑤記録支援システム(食事・入 浴・排泄に関する)のiPad 活用推進	① ア)各フロア副主任を推進者に任命 ② ア)口腔ケア記録作成、アセスメント の更新マニュアル作成 ③ ア)学習会の開催未実施。包括的自立 支援プログラム作成マニュアル の作成 ④ ア)記録作成等の時間の確保実施 ⑤ ア)iPadの活用にて排泄記録以外の 入力の定着	○

## (3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
看取り介護の充実	①看取り開始時およびデスカンファレンス実施 ②学習会の開催(2回/年) ③研修会へ職員派遣もしくは講師依頼	① ア)カンファレンス実施(9月/3名、10月/2名、2月/2名) ② ア)学習会の開催(4月・6月・2月) ③ ア)「人生の最終段階における医療・ケア」研修会参加(12月)	○
個々のニーズに着目したアセスメントと充実した支援の実施	①再アセスメントの実施(2回/年) ②オンリーワン支援の実施 ③アセスメントツール検討(包括的自立支援プログラム)	① ア)アセスメントの実施(4月～5月/1回)ケアプラン更新時にアセスメント実施(2回/年) ② ア)オンリーワン支援の実施(9月) ③ ア)包括的自立支援プログラムの活用(入力実施)	○
マニュアル(手順書)の更新及び共有と実践	①マニュアルの更新(1回/年)および適宜作成 ②各種マニュアルの整理、管理方法の検討 ③各委員会、各種担当業務の手順書作成	① ア)年度初めの担当変更によるマニュアル更新。 ② ア)整理、管理方法を検討し、データ整理を行うことに決定。 ③ ア)未実施	△
接遇の向上	①委員会の開催(4回/年) ②接遇ハンドブックの活用(1回/月 職員会議にて輪読) ③月間標語作成 研修会へ職員派遣および学習会の開催	① ア)委員会の開催(1回) ② ア)接遇アップキャンペーン期間輪読実施(7.10月) ③ ア)月間標語を作成、掲示(1回/月)	○
リスクマネジメント	①事故・ヒヤリハットの検証と情報共有 ②改善状況の確認	① ア)職制会、ユニット会議で事故・ヒヤリハットの検証と情報共有(1回/月) ② ア)ユニット会議にて事故発生の現状、改善状況を確認(1回/月)	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
リスクマネジメント	③職員派遣および学習会の開催（学習会2回以上/年） ④虐待・不適切ケア・身体拘束の検証と共有 ⑤介護技術講習会の実施 ⑥QOL 推進部会による施設巡回および勉強会への参加依頼 ⑦介助方法の見直し	③ ア) リスクマネジメント研修(7.8月/2名)・クラスター発生防止研修(7月/1名)  イ) 学習会の開催 身体拘束研修(5月)・虐待防止研修(7月)・服薬事故研修(8月)・身体拘束研修(9月)・感染症研修(10月)・虐待防止研修(11月)・ターミナルケア研修(2月) ④ ア) 虐待・拘束・事故防止委員会により拘束解除実施(2名) ⑤ ア) 人材派遣事業による介護技術研修会開催(2回) イ) ユニチャームによるおむつの当て方研修会実施(9回) ⑥ ア) 未実施 ⑦ ア) ユニット会議にて随時、見直し(月/1回)	○
サービスの評価	①サービスの評価の共有および改善案の検討、実施	① ア) サービス評価機関説明会(8月)受審準備の実施 イ) 第三者評価受審(11月)	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
改修計画に基づいた計画の実施	①補助金の申請準備 ②工事期間中の安全な生活の提供（工程会議の充実）	① ア) 県補助金(施設開設準備経費補助金)申請 ② ア) 工事期間中の事故なし イ) 工程会議への参加(6月～2回/月)意見、提案、要望等の実施	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
安定した収入の確保	①空床期間の短縮および短期入所利用者の積極的受入れ ②加算の見直し ③適正介護度の確認および必要に応じて変更申請提出 ④市内各関係機関との連携、情報収集の実施 ⑤口腔ケアの実施による肺炎予防。機器を活用した見守りによる転倒事故の減少、早期受診対応による入院者の減少	① ア)次期入居者の確保（常時3名）、空床期間の短縮に向けた受け入れ調整 イ)空床時、市内居宅介護支援事業所へ問い合わせ ② ア)介護報酬改定に伴い、取得できる加算請求実施 安全対策体制加算 4月～ 栄養マネジメント強化加算 6月～ 口腔衛生加算（I）6月～ ③ ア)変更申請提出（5.7月 各1名） ④ ア)各関係機関との連携により、入居者情報の収集 ⑤ ア)計画的な口腔衛生指導によるケアの実施 イ)転倒事故による怪我の予防 ウ)入院者は昨年度より増加 267→411（144名増加）	○
加算要件の確認	①加算要件の確認（1回/月） ②加算要件チェックシート一覧の作成	① ア)請求時ダブルチェック実施、加算要件の確認実施 ② ア)チェックシート作成未実施	△
経費削減	①職員会議での報告、経費削減の意識づけ ②物品の在庫管理 ③修繕費の取捨選択	① ア)職員会議で経費削減への呼びかけ実施（9月） ② ア)在庫管理実施（毎月） ③ ア)修繕費の取捨選択実施	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズへの協力	①せいい介護者の集いへ職員派遣（6回/年）	①介護者の集い未実施により派遣なし	×



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
認知症サポーターの養成	①キャラバンメイト1名(講師)の育成 ②認知症サポーター養成講座開講(2回/年)	① ア)未実施 ② ア)派遣依頼なし	×
ホームページ・フェイスブックの活用と機関紙発行	①ホームページの更新 ②フェイスブックの更新(4回/年) ③機関紙の発行(2回/年)	① ア)ホームページ更新(5・6月) ② ア)フェイスブック更新(5.7.9.1.3月) ③ ア)機関紙発行2回/年(10.3月)	○
新規ボランティアの開拓と定着	①ボランティアの情報収集 ②新規ボランティア開拓 ③ボランティア受け入れと継続依頼	①・③ ア)未実施 ② ア)赤ちゃん先生WEB交流会(5月) イ)オール巨人リモートコンサート開催(9月) ウ)竹田小学校との交流(WEB)	△

#### (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇5日以上取得	①有給取得年間計画表作成 有給休暇取得状況を職制会にて確認(毎月)	① ア)毎月有給の取得状況を把握し勤務表作成時に調整	○
ノー残業の推進	①残業時間の確認 ②退勤時間乖離者への啓発と業務改善	①・② ア)退勤時間乖離者の把握、啓発実施	○
災害及び防犯訓練の実施	①避難訓練実施(2回/年) ②防犯訓練実施(1回/年)	① ア)総合避難訓練実施(4.1月) ② ア)防犯勉強会、訓練実施(2月)	○

### 3. 出来した事案

#### (1) コロナ感染症対策について

2021年9月10日但馬総合事務所を来訪された方より、平生園改修工事業者の方が、マスクを着用せず平生園施設内、施設周辺を歩いている。大阪ナンバーの工事車両であり、大阪からお越しであるということも加えてとても不安。以前も同じ状況であった。きちんとしたコロナ感染症対策が行われていないのではないか。利用者家族に対して面会等をお断りしている状況であり、工事業者や取引業者へもマスク着用等の徹底をしてほしいとの訴え。申し出者が特定でき、謝罪と対応策についてお伝えしました。工事関係者へは感染防止の徹底の指示と、家族会への報告、職員へは朝礼、会議等にて感染防止の徹底を依頼しました。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 わらしべ

施設長 太田 敦子

### わらしべの基本方針

1. 常に利用者に寄り添い、心の安心を提供します。
2. 私たちは、利用者が安心した日常生活を送ることができるよう、支援を行います。
3. 私たちは、利用者に役割を持っていただき、家庭的な環境の下で生活を送っていただける様に支援を行います。
4. 私たちは、利用者の身体拘束及び、行動の制限に繋がる行為(言動)は行いません。
5. 私たちは、個人情報に関する守秘義務を遵守します。利用者様が安全で安心できる介護を提供いたします。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 安心、笑顔、自由、その人らしい暮らしの実現

#### 2021 年度の事業報告について

2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大により家族、地域との交流の機会を制限し施設内感染防止に努めた1年でした。しかし iPad を活用した面会や、小学校との ZOOM での交流会など、今までにない新たな方法での交流に参加できました。重点実施項目の人材確保の視点では、2 名の新採用職員を迎えましたがエルダー日誌等の改良やマニュアルの作成に取り組み活用することで、今では安心安全な支援ができる頼もしいスタッフの一員です。研修については、介護報酬改定に伴う認知症介護基礎研修の受講が必要となっておりますが進捗していません。ただ WEB を活用した専門研修等の参加や研修報告による伝達研修は計画通りに実施でき、認知症実践者リーダー研修は 10 月に終了。空床時にショートステイの受入れを実施する等、概ね計画通りに取組みました。更に法人内総合職員研修では、「あなたの大切な『モノ』は何ですか」と題して取り組んだ支援が銀賞という素晴らしい賞をいただく結果となり今後の励みにもなっています。QOL の視点では、食事提供と居住費の見直しに関し 1 年間かけ検討等を行い、3 月にご家族へ説明し同意を得ました。今後は献立、発注、検収等の時間を有効活用し、利用者支援の向上へ繋げていきます。人事労務危機管理の視点では、職員の協力のもと計画的な有給消化ができました。

2021 年 3 月に給湯器の不具合が生じ応急的に設備を整えましたが、今年度は故障なく現状維持ができました。引き続き修繕について検討し計画していきます。

#### 1. 事業概要

開設年月日：2004 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
認知症対応型老人共同生活援助事業 （第 2 種）	認知症共同生活介護	18 名	認知症要介護・ 要支援高齢者	2004 年 4 月 1 日
老人短期入所事業 （第 2 種）	短期利用認知症対応型共同生活介護	空床型	認知症要介護・ 要支援高齢者	2012 年 11 月 1 日

## 2. 推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
法人理念の理解と共有	①職員会議時の牧師によるメッセージの実施（1回/月） ②ハンドブックを活用した理念の理解（偶数月）	① ア) 毎月、職員会議時に小西牧師によるメッセージの実施 ② ア) 職員会議時の神戸聖隷ハンドブックの読み合わせ等（偶数月）	◎
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉基礎研修への参加 ②法人理念研修への参加	① ア) 但馬地区キリスト教福祉基礎研修1名受講（10～12月） ② ア) キリスト教理念 WEB 研修「いのちの尊厳」3名参加（2月）	○

### (2) 人材育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
内部・研修の情報収集と計画的な研修参加	①専門の基礎研修等への参加（長寿の郷等:5回以上/年） ②認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修への参加（各1名） ③職員会議での伝達研修の実施	① ア) 但馬長寿の郷介護技術研修「移乗介助編」1名受講（6月）、「認知症の基礎編」1名受講（11月）、「認知症対応編」1名受講（3月） イ) 長寿の郷応用研修「高齢者に多い疾患編」1名受講（10月） グループホーム連絡会主催 WEB 研修会受講（認知症研修会 7月/3名、自立支援研修会 9月/2名、事例検討会 11月/3名） ② ア) 認知症介護実践者リーダー研修1名、認知症介護実践者研修1名、受講（7～10月） ③ ア) 但馬長寿の郷主催の「ストレスコントロール研修会」受講者による伝達研修実施（4月/職員会議） イ) グループホーム連絡会主催の「認知症研修会/事例検討編」受講者による伝達研修実施（8月/職員会議）	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
内部・研修の情報収集と計画的な研修参加	③職員会議での伝達研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ) 認知症実践者リーダー研修受講者による伝達研修実施 (11 月/職員会議)</li> <li>エ) 但馬長寿の郷介護技術研修/移乗介助編受講者による伝達研修実施 (11 月/職員会議)</li> <li>オ) グループホーム連絡会主催研修会/自立支援受講者による伝達研修実施 (11 月/職員会議)</li> <li>カ) 但馬長寿の郷応用研修/高齢者に多い疾患編受講者による伝達研修 (12 月/職員会議)</li> <li>キ) 但馬長寿の郷介護技術研修/認知症の基礎編受講者による伝達研修実施 (12 月/職員会議)</li> <li>ク) グループホーム連絡会主催研修/事例検討会受講者による伝達研修 (12 月/職員会議)</li> <li>ケ) キリスト教理念 WEB 研修「いのちの尊厳」受講者による伝達研修 (3 月/職員会議)</li> <li>コ) 真生園主催「対人援助と人権」研修受講者による伝達研修 (3 月/職員会議)</li> </ul>	◎
伝達研修の充実	①内部研修会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>ア) 新採用職員研修 2 名 (4 月)</li> <li>イ) 新採用職員に対して身体拘束・虐待防止基礎研修実施 (5 月)</li> <li>ウ) 身体拘束廃止研修会 (6・10 月 QOL 部会 種谷部長出席/職員会議)</li> <li>エ) 接遇ハンドブック輪読、接遇に関する意識向上 (職員会議/奇数月)</li> <li>オ) 看取りに関する研修会 (5 月～毎月職員会議)</li> <li>カ) コンプライアンス勉強会実施 (職員会議 (5 月) 講師: 吉田常務理事 ハラスメント研修 (1 月))</li> <li>キ) 虐待・不適切ケア事例検討会実施 (11 月 QOL 部会種谷部長出席)</li> </ul>	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
人材確保・育成	① 人材育成プログラムの作成 ② 書類の整備	① ア) 原案作成 (9 月) ② ア) 平生園版エルダー日誌をわらしべ用に改定し使用 イ) エルダー日誌活用(4~9 月/3 名) ウ) エルダーの心得、マニュアル、セルフチェックシート、オリエンテーション資料作成 (下半期)	○

(3) QOL の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
カンファレンス	①カンファレンスの実施 (一人1 回以上/年)	ア) ケアカンファレンスの実施 (延べ人数 15 名) イ) 朝礼、ユニット会議を活用し、状態の変化時にタイムリーなカンファレンス及び情報共有を実施 (支援方法の検討、確認、統一した支援の実施) ウ) デスカンファレンス 1 名実施(12 月)	○
各ユニットでの取組み 両ユニット協働による支援の実践	① 年間計画の立案と実践 ② 活動メニューの選択肢を増やし、個々のニーズの聞き取りとプランへの反映、実践	① ア) 年間計画表に基づき各ユニットの計画を実践 (毎月) ② ア) ケアプランに基づいた個別支援と個別外出の実施 (延べ 41 名)	◎
食事提供方法の見直し	①検討委員会の立ち上げ ②調査・検証	① ア) 食事提供検討委員会立ち上げ (4 月) イ) 委員会の開催 (5 月~3 月/10 回) ② ア) 職員を対象に、現在の食事提供方法についてアンケート (メリット、デメリット) 及び検証実施 イ) 外注業者 4 社及び法人内外注 (真生園) 問い合わせ実施。外注業者 2 社より試食品取り寄せ。試食会実施。	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
食事提供方法の見直し	②調査・検証 ③食事提供方法の確定	㊦) 真生園と話し合い実施 (9.10.12.1月) 9/27～試行実施 (昼夕食の献立作成、発注、食材カット) 11/1～朝食の試行実施 ③ ㊦) 法人内外注(真生園厨房より提供)に決定 ㊦) 食事提供方法の変更及び食費値上げに関する家族向け説明会実施(3月) ㊦) 介護報酬外サービス費値上げに関する重要事項説明書変更同意書送付、返信(3月)	◎
防災・防犯への取組み	①毎月避難訓練の実施 ②避難確保計画の更新(5月) ③防犯訓練の実施(1回/年)	① ㊦) 防災委員会開催(5.10月) ㊦) 避難訓練実施 非常通報装置使用法及び日中火災想定避難訓練/4月、日中火災想定避難訓練/5.11.1月、日中水害想定避難訓練/6月、日中火災想定避難訓練・関係機関通報訓練含む/7.3月、緊急連絡網使用訓練/8月、夜間想定火災訓練・関係機関通報訓練含む/9月、日中地震想定避難訓練/10月 ㊦) 災害食体験(7.12月) ② ㊦) 避難確保計画更新と朝来市への提出(7月) ③ 未実施	○
事故防止強化	①委員会の開催 ②各マニュアルの更新	① ㊦) 事故防止強化委員会(4.5.6.7.10月) ㊦) 事故・ヒヤリハット後のモニタリングと各ユニットへのフィードバック(職員会議にて) ② ㊦) 必要に応じマニュアル更新	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
虐待不適切ケアへの取り組み	①年 2 回以上の身体拘束廃止研修会の開催（6 月・10 月） ②年 3 回以上の委員会開催（4 月・7 月・9 月・2 月）と記録の共有	① ア) 身体拘束廃止研修会/指針読み合わせ・事例検討（6.10 月/QOL 部会種谷部長出席） ② ア) 委員会開催（4.7.9 月） イ) 虐待防止チェックリストの実施と集計および職員へ結果周知（9・2 月） ウ) 虐待不適切ケア勉強会事例作成と検討会実施（11 月/QOL 部会種谷部長出席）	◎
看取り支援体制の構築	①委員会の開催 ②マニュアル作成 ③研修会への参加	① ア) 看取り委員会開催（5～11.3 月） イ) 看取り介護 1 名。実施に伴うカンファレンスおよび永眠後のデスカンファレンス実施（11～12 月） ② ア) 指針の見直しと看取り介護マニュアル原案作成中（7～3 月） ③ ア) 看取りについての勉強会開催（職員会議にて毎月）	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
関係機関との連携による収入確保	①入所申し込みの再調査（5 月） ②関係機関及び家族との連携強化	① ア) 入所申し込み再調査実施と集計（前年度 42 名 今年度 24 名/6 月。永眠、在宅サービスの充実、特養入所による減） イ) 随時入所申し込み受付（3 月末現在 30 名） ② ア) 市内居宅介護支援事業所及び病院、老健と情報共有随時実施 イ) 入院による空床ベッドでショートステイ受入れ（延べ 11 日） ウ) 入所希望者面談実施（5 名）	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
収支の理解	①経費削減の周知と実践	ア)職員会議にて毎月の収支に関する説明（水道光熱費、食費等） イ)消耗品使用量集計報告（毎月/職員会議） ウ)消耗品の見直し及び、購入先の変更（随時） エ)職員会議にて 2021 年度上半期決算報告（10 月）、2022 年度予算の説明（3 月）	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域交流の充実	① こども園、小学校等との交流 ② 地域ボランティアの受入れ ③ ホームページ、フェイスブックの更新と機関紙発行 ④ 地域貢献部会への協力依頼（情報発信等）	① ア)地域小学校と WEB 交流会実施（2 月） ② ア)新型コロナウイルスの影響により、ボランティア受入れ中止 ③ ア)HP 写真更新（5.6 月） イ)フェイスブック更新（1 月） ウ)機関紙「ひなたぼっこ 83 号」発行（10 月）及び次号原稿作成（2.3 月） ④ ア)新型コロナウイルスの影響により未実施	○
地域活動への参加	①キャラバンメイト活動への参加 ②地域行事への参加	① ア)朝来市福祉相談支援課主催のキャラバンメイト連絡会に職員 2 名参加。コロナ禍での認知症サポーター養成講座の開催について意見交換実施（9 月） ② ア)新型コロナウイルスの影響により、地域への外出は自粛中	△



(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
働き方改革の理解	①職員満足度調査の実施 ②生産性向上のための事業計画進捗のチェック	① ア)未実施 ② ア)事業計画進捗チェック（毎月/職員会議）	△
有給休暇の取得促進	①計画的な取得の促進	① ア)時季指定の希望聞き取り実施及び計画表作成（4月） イ)計画表に基づき順次取得 ウ)勤務表作成時に取得可能な状況であれば確認後取得	◎
コンプライアンスの浸透	①サービス規程（規則集）を学ぶ機会の提供	ア)コンプライアンス勉強会開催（5月＝法令遵守について/講師：吉田常務、1月＝ハラスメントについて/施設内勉強会）	○

3. 出来た事案

特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 さくらの苑

施設長 小山 哲也

さくらの苑の基本方針

1. 利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（生きる）施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

**垣根のない施設としてさくらの苑は、地域に寄り添い共に歩める施設を目指します！**

2021 年度の事業報告について

2021 年度さくらの苑は、新型コロナウイルス感染症のため感染症対策を実施しながら事業を継続してまいりましたが、2022 年 2 月初旬にデイサービス事業所でご利用者 11 名と職員 7 名が新型コロナウイルス感染者となりクラスター発生という状況がありました。日々感染予防対策は実施していたものの感染者が多数出てしまったことを反省しつつ感染予防対応をより一層徹底した中で事業を継続してまいります。

2021 年度に重点的に取り組んだ視点として、人材育成の視点では、2021 年度の高卒新採用職員が 4 名入職し、昨年度末より新規採用職員の育成について職制やリーダーで検討を重ね、4 月からのオリエンテーションや日々の指導方法など一人前の介護職員として育成できるよう取り組み、今年度末までに 3 名の新規採用職員が全ての業務を一人でできるようになり、次年度の人材育成の取り組みに繋がる成果を得ることができ、また、研修委員会を中心に各種研修へ全職員が年に 1 回は研修に参加できるよう調整し、全ての職員が研修に参加することができました。資格取得についても介護福祉士の合格者が 2 名あり、介護職員として働く中で介護福祉士などの資格取得を目標とする職員が増え意識改革を図ることもできました。

QOL の視点では、ご利用者本位の支援を実践する取り組みのツールとして、以前より使用している 24 時間シートを毎月のユニット会議で内容を定期的に更新できるよう計画し、1 人のご利用者のシートを年 2 回は更新することができ、ご家族へ配布し日々の支援内容をお伝えすることができました。また、ユニットケアについての研修会や勉強会に参加し、研修で学んだことをユニット会議で他の職員へ伝達することや学んだことを日々の支援に取り入れることでご利用者本位の支援と「さくらの苑のユニットケア」の実践に取り組むこともできました。

経営強化の視点では、2021 年度は離床アシストベッド 1 台と眠りスキャン 3 台を導入し、ご利用者の安心・安全な生活の実現に取り組み、アシストベッドは車椅子移乗が困難なご利用者に使用し、リビングでの食事や行事などへ参加しメリハリのある生活ができるようになりました。眠りスキャンは主に看取り対応ご利用者の体調や状態確認に使用し、新規のご利用者にも夜間の様子や排泄支援のタイミングを把握するために使用しました。また、次年度の計画導入予定のインカムを本年度中にデモ機を 10 日間借用し、メリットやデメリットを把握することができました。

2021年度は、地域貢献や地域行事への参加が思うように実施できませんでしたが、「さくらの苑新聞」の発行、配布やミニデイへの参加を行い、地域とのつながりを継続できるように取り組みました。

次年度は、今年度取り組んだ高卒新採用職員の育成やご利用者本位の支援の強化、インカムの導入に取り組みながら、2021年度の課題を振り返り6つの視点の計画を実施し、ご利用者支援に反映できるよう取り組んでまいります。

## 1. 事業概要

開設年月日：2017年5月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム（第1種）	地域密着型介護老人福祉施設	29名	要介護高齢者	2017年5月1日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	10名	要介護・要支援高齢者	2017年5月1日
老人デイサービスセンター（第2種）	地域密着型通所介護	18名	要介護・要支援高齢者	2017年5月1日
公益事業	居宅介護支援	—	要介護・要支援高齢者	2017年5月1日

## 2. 推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念ハンドブックを使用	①神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会の実施	ア)高卒新人職員中心にハンドブックを使用し基本理念について勉強会を実施（4月） イ)ユニット会議にてハンドブックを活用し勉強会実施（1月）	△
理念研修を実施	①牧師によるキリスト教福祉のメッセージ聴講（1回/月） ②理念研修会の実施（1回/年） ③新任職員を対象とした神戸聖隷歴史資料館の見学	① ア)毎月職員会議にて小西牧師にメッセージを頂く（4月～3月） ② ア)理事長による理念勉強会（講話）実施（11月）	○
キリスト教福祉基礎研修に参加	①キリスト教福祉基礎研修への参加	ア)職員2名参加（10～12月）	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
理念に沿った学習会の開催	①ターミナルケア事例による学習会の開催	ア) 新任オリエンテーションにて事例を通しての看取り学習会を実施 (4月) イ) ユニット会議にて看取りの振り返りを実施 (8・1・2月) ウ) ユニット会議にて死生観の研修を実施 (9月)	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
業務改善に向けた取り組み 教育システムの見直し	①人材育成システムの検討・マニュアル作り (新人教育相談窓口の明確化) 高卒職員のオリエンテーションの見直し 人材育成方法・内容の検討 ②非正規職員の業務振り返りシート (標準化のための) 検討	① ア) 新人職員 4 名を対象とした基本、社会人としての心得等をオリエンテーションにて実施 (4月) イ) 今年度の課題から新人に特化した指導計画作成 (2月) ② ア) 人事考課の共通要素項目表を使用して作成中 (10月～3月)	△
役割を担う職員の仕組み作り	①年間研修計画の作成 ②専門研修プログラムの作成 ③権限と役割を明確化するための現状把握	① ア) 積極的に研修に参加し、全職員 1 回/年の研修を受講 (4月～3月) イ) 職員会議以外の時間を活用した伝達研修を実施 (9月) ② ア) 実務者研修 3 名受講 (7月～11月) イ) 喀痰吸引実地研修 2 名終了 (8月～1月) ③ ア) 委員会にて研修受講の役割分担を確認 (4月～3月)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
資格取得への取り組み	①資格取得を目指した勉強会等の検討・実施 ②資格取得のルール作り (職員育成・新人教育研修も視野に入れた研修方法の検討)	① ア)介護福祉士、介護支援専門員の試験準備のため情報提供実施 (4月～1月) イ)介護福祉士合格者2名 ② ア)委員会で各職員の取得要件を満たしている資格を把握し、年度初めに情報提供実施(4月～6月)	◎
職場環境改善への取り組み	①勤務時間の見直し ②業務内容の見直し ③ほのぼのとITを活用した情報共有の検討・実施 ④会議の進め方や内容の検討と実施	① ア)勤務時間変更を実施し定着(9月～3月) ② ア)業務内容見直しがユニットごとの課題の再確認につながる(12月～3月) ③ ア)ほのぼのの使用したペーパーレス化の実施(4月～3月) イ)看護日誌のペーパーレス化(5月～3月) ④ ア)事前議題収集は定着。検討中心の会議を目指し実施。一部会議時間の短縮につながった(5月～3月) イ)職制会での参加者がノートパソコン持参し資料のペーパーレス化、書記の効率化定着(5月～3月)	△
記録方法を学ぶ	①ケア記録の書き方を学ぶための研修参加、勉強会の開催	ア)新採用職員に勉強会を開催(4月)	△
他施設見学 職員満足度調査	①施設見学の計画・実施(1回/年) ②満足度調査の実施(1回/年)	① ア)コロナ禍で未実施 ② ア)従業員意識調査の実施(1月)	△

## (3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
ユニットケアの理解と実践	①ユニットケア研修参加・勉強会の開催 ②さくらの苑「的」ユニットケアの検討・実施 ③ユニット会議での検討会 ④実践と評価の実施 ⑤ユニット会議で報告	① ア)ユニットケアワンポイントセミナーへの参加を研修委員で人選し参加(4・7月) イ)リーダー研修参加2名 ② ア)リーダー会議にてユニットの現状課題把握、職員構成検討(9月～3月) ③ ア)24時間シート確認継続(4月～3月) イ)生活目標設定(10月～3月) ④ ア)支援内容実践振返りの実施(9月～3月) ⑤ ア)ユニットリーダー伝達研修実施(9月)	△
24時間シートの活用	①24時間シートの(個別支援を目的とした)バージョンアップの実施	ア)ユニット会議にて24時間シートの見直し継続(4月～3月) イ)総合研修にて24時間シートの発表(3月)	○
個別支援の理解	①他施設見学(1回/年)	ア)オンライン等の手法での検討も行ったが未実施	×
ご利用者満足度調査の実施	①調査実施と集計、報告(1回/年)	ア)特養、ショート、デイ対象として実施(10月)	○
垣根のない施設への取り組み	①イベントの検討・実施(めぐみとの共同行事、交流方法の検討・世代間交流) ②地域とのつながりツール検討	① ア)恵生園と協働でさくらカフェ開催(10月) ② ア)さくら新聞発行(7・9月)	○

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保	①体験（お試し）利用の実施（随時） ②専門的職種を活かした機能訓練加算算定による魅力あるサービス提供体制実施	① ア)短期入所お試し（1泊）利用年間21件 イ)デイお試し利用1件（10月） ② ア)短期入所個別機能訓練加算算定（4月～）	○
先進福祉機器導入の検討	①眠りスキャン・離床アシストベッドの導入 ②先進施設見学・福祉機器展示会への参加	① ア)離床アシストベッド導入（7月） イ)眠りスキャン3台追加（12月） ② ア)次年度インカム導入に向けて事業計画立案（2月） イ)インカムのデモ実施（2月）	◎
目標に沿った積立金の確保	①今年度積立額400万円の計上	ア)予算通りならず60万円の積立金計上に留まる	△
経費の削減	①電子印鑑導入による利用者記録・日誌等可能な書類のペーパーレス保存の実施 ②消耗品等購入先の見直し（随時） ③光熱水費の削減の啓発	① ア)ケア記録をはじめ各部署日誌・職制会会議録は電子印鑑押印によるペーパーレス保存実施（4月～3月） ② ア)プラ手袋業者交渉により値下げ実施（6月） ③ ア)職員会議にて光熱水費報告行い削減啓発実施（4・7・8・10・11月）	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域貢献を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研修会への参加（地域福祉関連の研修：WEB 等の活用）</li> <li>②職員会議での勉強会開催（委員会での学びの共有）</li> <li>③新人職員に地域貢献への取り組みを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ア) 地域福祉 WEB 研修 1 名参加（11 月）</li> <li>② ア) 職員会議にて総合研修での内容を発表（7 月）</li> <li>③ ア) オリエンテーションにて地域貢献勉強会実施（4 月）</li> </ul>	◎
必要な資源を知り、地域へ展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マップ作りを学び、マップから地域への理解を深める</li> <li>②マップ作りに地域の声を取り入れる</li> <li>③地域資源の情報収集を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ア) サブ委員会にて地域マップを作成中（5 月～3 月）</li> <li>② ア) 委員会メンバーで地域の写真を収集（8 月）</li> <li>③ ア) ミニデイや体操へ参加し情報収集（4・7・10・11・12・1 月）</li> </ul>	△
地域サポート施設への参入から展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>①さくらカフェ開催（2 回/年）</li> <li>②出前講座開催（4 回/年）</li> <li>③地域包括と社協との意見交換会実施（2 回/年）</li> <li>④家族会や運営推進会議にて説明</li> <li>⑤地域サポート施設事業の広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ア) あったかプラザにてさくらカフェ実施（10 月）</li> <li>② ア) 依頼あるが緊急事態宣言中で実施できず</li> <li>③ ア) 意見照会シート配布にて意見交換実施（4 月）、参集型で実施（12 月）</li> <li>④ ア) コロナ禍で未実施</li> <li>⑤ ア) さくら新聞発行（7・9 月）</li> </ul>	○



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
ニーズ把握方法、つながり強化のための取り組みの検討・実施	①ニーズ把握方法についての研修参加 ②さくらカフェ・出前講座・ミニデイ・いきいき百歳体操等へ参加し地域とのつながり強化に努める ③さくら新聞の定期発行・配布を実施し直接地域の声（ニーズ）を把握	① ア) 地域福祉研修 1 名参加（11 月） ② ア) 上町ミニデイやお楽しみ会、いきいき百歳体操へ地域貢献委員会より参加（4・7・10・11・12・1 月） ③ ア) さくら新聞発行（7・9 月）	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
虐待・不適切ケアへの取り組み	①虐待・不適切ケア防止の研修参加 ②虐待防止チェックリストの運用を実施 ③虐待防止基準表・判定表を活用した学習会の実施	① ア) 拘束と不適切ケアの研修（12 月） イ) 朝来市高年福祉課職員と虐待通報手順などについて話し合いを実施（8 月） ウ) 毎月の啓発ポスター掲示を実施（5 月～3 月） ② ア) 虐待チェックリストの実施（9・2 月） ③ ア) 虐待防止基準表・判定表を活用した学習会の実施（12 月）	○
事故予防への取り組み	①苦情・事故予防の考え方を学ぶ ②事故後の検証実施	① ア) 事故予防の学習会実施（10 月） ② ア) 治療や病院受診に至った事故に対し検証、再発予防に取り組む（4 月～3 月） イ) 事故防止委員会にてヒヤリハット、事故報告の対応策の検討を実施し各ユニットに伝達、再発防止に取り組む（4 月～3 月）	○
有給休暇の取得促進	①年次有給休暇の効率的な取得方法の検討・実施	ア) 2021 年度有給休暇取得率 66.9%（昨年度 63.9%）	○
残業時間の短縮	①退勤時間乖離者への啓発	ア) 2 月デイサービスでのコロナ感染クラスター発生により一部職員の残業増加	△

### 3. 出来した事案

#### (1) 3名のご利用者介護事故

特養ご利用者1名は、入浴中にストレッチャーより転落、左大腿骨転子部骨折。入院、手術はせず苑にて保存治療となりました。

特養ご利用者1名は、トイレまでの歩行中に転倒され右上腕骨骨折。入院、手術となりました。

特養ご利用者1名は、ポータブルトイレへの移動時転倒され、第12胸椎圧迫骨折。キャッシュブレース装着となる。

各々の事故においては、ご家族に状況説明と謝罪を行い特に問題となることはありませんでした。事故後には検証を実施し、ユニット会議で情報共有を行っています。

#### (2) 2月5日～2月21日に発生した新型コロナウイルス感染症クラスターについて、ご利用者11名と職員7名が感染し、内ご利用者1名がお亡くなりになりました。感染されたご利用者は2021年度末までにデイサービス利用を再開されています。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵生園

施設長 掃部久美代

### 恵生園、グループホームめぐみの基本方針

1. 私たちは ご利用者の人権を尊重し 自ら選んで決めていただけるサービスを提供します。
2. 私たちは ご利用者が生き生きと喜びをもって生活できる施設を目指します。
3. 私たちは 自ら率先して話し合える職場づくりに努めます。
4. 私たちは まちの声に応え 地域に貢献できる施設を目指します。

### 放課後等デイサービスめぐみの基本方針

1. こども達一人ひとりの個性を大切にし、豊かな育ちを支えます
2. こどもと保護者に寄り添い、成長を喜び合うことができる施設を目指します
3. こども達の未来のために、地域に愛される施設を目指します

### 第4期中期計画のビジョン

利用者の思いを聴き、利用者中心の支援のもと障害特性に応じたサービスを提供します。  
わたしたちは、気づき考え行動します。

### 2021 年度の事業報告について

今年度も新型コロナウイルス感染対策を1番に考え、各々の計画を実施した1年でした。その中で行う計画で、キリスト教に基づく基本理念については、園内で行う理念学習会を通して、利用者支援に繋げるための理念理解の勉強会をグループに分かれ行いました。研修の参加についても、内部研修や法人研修等オンラインで受講していただくことを勧め、オンラインの研修が定着し、多くの職員に参加していただくことができました。毎週一回実施している支援課ミーティングは、利用者支援や業務の内容を検討することができ、誰もが発言できる場として、風通しの良い環境づくりに努めることができました。利用者ニーズに合ったサービスを提供することは、まだまだ十分に実施できていません。利用者の方々の健康管理では、歯科往診による口腔ケアをしていただくことを始めました。口腔状態が改善し、健康維持できた方が増えたように思います。今年度は、4月に開設した放課後等デイサービスめぐみとグループホームめぐみを軌道に乗せることでした。放課後等デイサービスでは、少しでも安定した運営、活動ができるように一人一人の個性に合わせて支援を取り進む中で少しずつ変化も見ながら、一進一退の状況もあり、試行錯誤の現実もありました。しかし、明るく元気に走り回る子どもたちをみていると新型コロナウイルスも吹き飛ばすような勢いの一年でした。グループホームでは、開設前は、なかなか利用者が集まらない、希望者がいないという情報でしたが、予定通りの定員は確保できました。しかし、自宅に帰られる方も多く、計画通りの利用が、見込まれませんでした。また、コロナ禍にて地域の方との交流を控えていたため、信頼関係が十分築けなかったこともあります。地域で安心して生活ができるよう、今後は地域とのつながりを大切に組み込んでいきたいと思っております。

## 1. 事業概要

開設年月日：1976年6月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	3名	身体・知的障害者	2006年10月1日
相談支援事業（第2種）	特定相談支援	—	障害者	2013年3月1日
公益事業	介護予防等拠点事業 （あったかプラザ）	—	—	2003年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	6名	身体・知的障害者	2021年4月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	障害児	2021年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉の理解	①開園45周年行事 ②理念学習会の実施（全職員） ③牧師によるキリスト教勉強会（2回/月） ④資料館の見学、神戸聖隷ハンドブックの輪読（隔月）	① ア)開園45周年行事、理事長講話(6月) ② ア)理念学習会（5月～毎月1回めぐみ職員含む） イ)理念啓発に関する標語掲示 ③ ア)職員朝礼時(月1回)及び全体集会(月1回)牧師による講話 ④ ア)ハンドブックの輪読（4・6・8・10・12・2各月第3週）	◎

## (2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
資質の向上	①階層、意欲に応じた研修参加と資格取得奨励 ②他法人研修参加 ③伝達研修実施 ④内部研修の実施（感染症、虐待分野重点実施） ⑤身体拘束検証会議の実施（1回/月） ⑥記録ソフトを活用した業務簡略化 ⑦電子印鑑決済の導入	① ア)職員アンケート調査実施、研修体系の周知（5月） イ)虐待防止(9月)、相談支援専門員(9月) ② ア)介護技術(6・11・12月) ③ ア)嚥下機能と高齢者の栄養管理（2月） ④ ア)「身体拘束について」（4月） 「新人職員研修（感染症）」（5月） 「不適切ケア勉強会」（6月） 「発熱時の対応」（7月） 「接遇について」（8月） 「腹痛時の対応」（9月）（11月） 「虐待・不適切ケア防止研修」（10月、12月） 「誤嚥・窒息についての研修」（1月） 「ガウンテクニックの研修」（2月） ⑤ ア)身体拘束検証会議実施（月1回開催） ⑥ ア)他施設の情報収集(4・9月) ⑦ ア)生活日誌、医務日誌、月のまとめ日中活動、リハビリ日誌の電子印鑑導入実施	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
誰もが発言できる職場づくり	①ミーティング実施（毎週） ②セルフチェック結果への改善取り組み ③満足度調査結果への改善取り組み ④業務改善会議の実施（3回/年） ⑤接遇ハンドブック輪読（隔月）	① ア) ミーティング実施（毎週） ② ア) セルフチェック振り返り実施（6月） ③ ア) 結果の振返り（6月） ④ ア) 業務改善会議実施（9月） ⑤ ア) ハンドブック輪読（5・7・9・11・1月）	○
危機予測力の向上	①事故検証会議と改善策への取り組み（1回/月） ②感染症予防啓発と研修・備品管理（6回/年） ③防災訓練の実施	① ア) 事故検証会議実施（毎月） ヒヤリハット報告書様式変更（4月） ② ア) 「感染症予防勉強会」（5月） 「発熱時の対応」（7月） 「腹痛時の対応」（9月） 「嘔吐時の対応」（11月） イ) 備品確認実施（4・5・6・8・9月） ③ ア) あったかプラザ、めぐみ避難確保計画作成（9月）	○

(3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
<p>身体機能低下への取り組み</p>	<p>①施設の取り組み状況の紙面配信            ②家族状況の情報把握            ③歯科往診による口腔ケア・支援の向上            ④協力医との情報共有            ⑤口腔衛生管理加算の取得            ⑥医療情報書の家族確認・更新</p>	<p>①            ア)紙面情報を家族送付(7月、11月)            ②            ア)連絡先が1件の方の追加連絡先の把握(5月)            ③            ア) 歯科往診            歯科衛生士による口腔ケア実施(毎月2回)            ④            ア) 小山医院・大森クリニック・朝来医療センター・安達歯科の医師と情報共有を実施            ⑤            ア) 9月請求分より口腔衛生管理加算取得            ⑥            ア)医療情報提供書家族確認(4月)            イ)医療情報提供書更新:延べ126名</p>	<p>○</p>

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
ニーズへの対応	①利用者の障害・ニーズに応じた各種日中活動の提供 ②OT 指導のリハビリ支援 ③他事業所の情報収集 ④マニュアル見直し・更新	① <園芸> ・畑の土台作り (4 月) ・野菜の苗植え (5 月) ・畑の苗植え (6 月) ・畑の手入れ (7 月) ・夏野菜の収穫・収穫野菜の調理 (8 月) ・秋野菜の収穫 (9 月) ・プランター植え、手入れ (10, 11 月) <運動> ・歩行訓練 (4 月)・介護フラダンス (5 月)・リズム体操 (6 月)・脳トレ (7 月)・新聞紙玉入れ (8 月) ・手話 (9 月)・風船バレー (10 月) ・運動 (11 月) <調理> (ミニパフェ・4 月) (焼きそば・5 月) (チャーハン・6 月) (わらびもち・7 月) (たこ焼き・8 月) (大学いも・11 月) (サンドイッチ・1 月) <創作> (昇り鯉・5 月) (あじさい作り・6 月) (七夕飾り作り・7 月) (ヨーヨー作り・8 月) (園内作品展示・9 月) (クリスマス飾りつけ・11 月、12 月) (壁面作り・1 月) ② ・PT 指導 (4. 6. 8. 10. 12. 2 月) ・OT 派遣 (5. 7. 8. 11. 12 月) ③ ア) 他法人の情報収集 (4 月) ④ ア) 実施 (2. 3 月)	○
居住環境の向上	①環境整備 (「食堂テーブル椅子、電動ベッド」) ②寝具リネンリースの見直し・更新	① ア) 食堂テーブル椅子見積 (9 月) ② ア) 他施設の情報収集 (5 月)	△



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
日常生活の向上	①個別・集団での設定活動による社会性の向上 ②ボルダリング、ブランコなどによる感覚統合の向上	① ア) 集団活動で、個別の課題を抽出し、社会性の向上に向けて支援 ② ア) ボルダリング・ブランコに加え、ジェルボールの感覚遊びを提供	○
施設外活動の充実	①高齢、障害施設との交流 ②地域行事への参加	① ア) 未実施(交流控えによる) ② 『インクルーシヴサイエンスキャンプ』計画を行い、地域の児童と交流(8月)	△
満足度アップ	①満足度調査実施と HP への公表 ②何でも相談の受付 ③安全な送迎の実施 ④SNS を活用した保護者との情報共有	① ア) 実施 ② ア) 随時、保護者からの相談に対応 モニタリング時の相談受付(9月) ③ ア) 安全に送迎の為のマニュアル作成(9月) ④ ア) 端末未購入、『めぐみノート』にて、情報共有中	△
マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務についてのマニュアル作成 ②利用者個々の支援マニュアル作成	① ア) 未実施 ② ア) ほのぼののフェイスシート作成(9月)	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
安定した経営	①物品庫の整理 ②消耗品の管理と見直し ③エアコンの管理 ④公用車リース更新検討 ⑤加算基準を満たした運営 ⑥採用職員の外部・内部研修参加 ⑦運営強化、相談支援専門員育成 ⑧ソフト活用	① ア) 在庫確認実施、環境整理未実施 ② ア) 物品管理簿活用方法を周知(8月) ③ ア) 各居室に適した室温設定に変更 ④ ア) N-BOX リース契約更新(7月) ⑤ ア) 根拠確認による GH・放デイ請求(4月～) イ) 口腔ケア治療の往診による口腔衛生体制加算取得準備、実施 ⑥ ア) 療育研修(7月)、理念学習(9月) ⑦ ア) 各加算制度への対応申請の実施 イ) 研修会への受講申し込み ・相談支援初任者研修 (1名) ・虐待防止力向上研修 (1名) ⑧ ア) 記入シートの確認と入力試行 イ) 相談支援報酬請求入力の遂行	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	①アンケートの実施と対策 ②地域交流・介護予防拠点としての運用 ③地域の一員として行事や自治会活動に参加 ④パンフレットの見直し	① ア) アンケート未実施 ② ア) 市民作品展示(4月:折雛)(5月～6月:摘み画)(7月、10月:写真展)(8月:真生園ご利用者)(9月:アートフラワー)(1月:恵生園ご利用者)(2月:生花) イ) あったかグリーンカーテン作り(ゴーヤ:恵生園 園芸クラブ) ウ) カフェコーナークッション更新 エ) 検討会議開催(8回)	○

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
資質向上	①コンプライアンス学習会 ②キャリアパス学習会	① ア) 吉田常務によるコンプライアンス研修 (8 月) ② ア) 月毎の振り返りを実施	○
労務管理の徹底	①有給休暇の取得を上げる ②残業を減らす	① ア) 有給休暇取得状況の把握 (取得率 34%) ② ア) 超過勤務時間の把握	○

3. 出来た事案

(1) 特にありません

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 真生園  
施設長 大橋 幸司

### 真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を添え、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しさで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「どんな時も最善を尽くし、その人に寄り添い支えます」

#### 2021 年度の事業報告について

第4期中期計画の2年目が終了しました。2021年度も、新型コロナウイルスの影響で取り組みが思うようにいかない時もありましたが、計画達成に向け積極的に職員一丸となり、新しい生活スタイルの構築を推進することで、2022年度にバトンを渡せる取り組みが出来ました。

新型コロナワクチン接種を5月から開始し、ご利用者・職員が3月末までに3回目のワクチン接種を完了しています。また、新型コロナ感染症対策として、特に12月以降は、施設関係者等の感染もあり、施設内ゾーニングやガウンテクニック・グローブ・ゴーグル着用などを実施し、施設内感染防止に取り組みました。

ご利用者が楽しみにされている行事を、2021年度は、納涼祭・真生祭・焼き芋大会・クリスマス会等、全行事が実施でき、コロナ禍でありながらも、ご利用者の満足した笑顔が見られたことで、職員のやりがいにつながりました。また、家族会から移動販売の提供・ジェラート屋等、施設内に仮設の衣類店を数日オープンし、ご利用者が好きなものを選択し、購入できる取り組みが実施出来ました。

コロナ禍で、生活がマンネリ化している課題改善に取り組みました。ご利用者の皆さんが、常に楽しく健康的に過ごせるように、ICT・レクリエーション機器の活用を推進しました。ご利用者個々の状況に合わせ、好きな画像を楽しめる機器（オミ・ピスタ）を6月に導入し、現在、多くのご利用者が活用され、日中活動では無くてはならないものになっています。また、ちぎり絵・折り紙などの作品を季節ごとに製作し、但馬総合事務所やあったかプラザなどに展示することが出来ました。

職員育成として、喀痰吸引等の専門研修や対人援助等のweb研修などに積極的に参加し、職員の育成に努めました。また、新採用職員に対し、エルダー対応を実施し、きめ細やかな指導で、新採用職員の育成に努めています。

キリスト教福祉・理念勉強会として、地の塩伝道所の小西牧師によるメッセージや研修、キリスト教福祉講座に参加する事で、理念及びキリスト教福祉を深く学ぶことが出来ました。その他、人材の確保が急務であり、ハローワークや人材紹介業者へ積極的にアプローチし、人材確保に努めました。

## 1. 事業概要

開設年月日：1978年5月10日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	4名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	日中一時支援	5名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	真生園診療所	—	—	1979年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念の理解	牧師による朝礼メッセージ・理念解説	①牧師による朝礼メッセージ実施 ②過去の記録を振り返り、真生園の歴史を知る事で、理念の基礎を学ぶ	① ア) 牧師による朝礼メッセージ（毎月） イ) 牧師による職員会議でのメッセージ（5月・6月・8月・10月・11月・3月） ② ア) 理事長を招いた、理念研修会新型コロナウイルスの為中止	○

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉の理解	キリスト教研修等参加	①キリスト教勉強会を職員会議等にて実施 ②理念研修への参加	①② ア) キリスト教勉強会に向けてアンケート実施（4月） イ) アンケート結果を基に勉強会の打ち合わせ（4月） ウ) 職員会議にてキリスト教勉強会の実施（5月・6月・8月・10月・11月・3月）	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
神戸聖隷ハンドブックの活用	神戸聖隷ハンドブックの解説・唱和	①キリスト教福祉講座への参加 ②朝礼等にて神戸聖隷ハンドブックの唱和	① ア)キリスト教福祉講座受講者の人選(2名) ② ア) 職員会議のメッセージの中でハンドブックや理念の疑問点について話を頂く(5月・6月・8月・10月・11月・3月) イ) 職員会議にて神戸聖隷ハンドブックの唱和(7月)※新型コロナウイルス感染防止対応により朝礼自粛、それに伴い唱和も自粛	○

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
更なる介護機器の導入と更新	介護機器の導入と更新	①使用中の介護機器の検証と利便性の向上 ②最新の福祉用具・最新介護機器の情報収集 ③最新介護機器の導入の検討	①② ア) 委員会実施(毎月) イ) 前年度のHALの使用評価に基づいた改造(4月) ウ) 改造後のHALの評価の為のアンケートの調査実施(8月・9月) ③ ア) 電動ベッド導入の検討と導入(6月) イ) 映像機器オミビスタ導入(6月) ウ) 余暇活動でオミビスタ活用中(毎月)	○

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
ICTによる働き方改革と生産性の向上の取り組み	ICTによる働き方改革と生産性の向上	①ICT等の導入による、生産性向上の検証 通販利用による生産性の向上の検証 ②眠りスキャンとナースコールの連携の調査	① ア) 委員会実施(毎月) イ) 業務について現状把握の為のアンケート作成と実施・集計(5月・6月・7月) ウ) アンケート結果を基に業務の見直しを検討(7月・8月) エ) 意識改革のための研修会の検討と実施(9月・10月・11月) オ) フィードバックの為の利用者満足度調査の実施(2月) ② ア) 眠りスキャン専用モニター設置	△
職員個々のスキル向上を目指す	職員個々のスキル向上	①個々にスキルアップ研修へ参加 ②職員の経験に応じた研修参加の推奨 ③ITを活用した研修の実施(Web研修参加のマニュアル化)	① ア) 新任職員への介護基礎研修実施(4月) イ) 障害福祉新任職員研修受講(2名) ② ア) 長寿の郷PTによる実務研修(衣類の着脱)実施(8月) イ) 虐待防止研修実施(9月) ③ ア) ビデオ研修プログラムを活用した研修の実施(4月・6月・3月) イ) 福祉サービス向上オンライン研修への受講申し込み(5名)	○
継続した専門研修への参加	専門研修への参加	①喀痰研修・サービス管理責任者研修等の専門研修へ参加 ②長寿の郷の介護専門研修等へ参加	① ア) 喀痰研修の受講(1名) イ) 指導看護師研修の受講(2名) ウ) サービス管理責任者研修に受講申し込みするも落選 ② ア) 但馬長寿の郷介護技術研修の受講(3名)	○

## (3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
利用者ひとり一人へ寄り添える支援の確立	寄り添える支援の確立	①全利用者の生育歴等を含めた情報の把握と理解 ②利用者の思いに寄り添う支援を追求する為に、対人援助技術の学習 ③対応困難な利用者にも、最善を尽くした支援を実施	① ア) 各利用者情報の整理と把握(9月) イ) カンファレンスの実施(5~9月、2月~3月) ② ア) 対人援助技術 web 研修実施(1月) ③ ア) 利用者本人と家族の希望聴取と各関係機関や施設とのサービス調整(毎月)	○
全ての利用者の思いに沿った施設作り	利用者の思いに沿った施設作り	①運営会議にて、より良い施設運営や施設業務を改善する為に、利用者自治会と協議を実施 ②懇談会にて、各利用者から要望やニーズなどの意見聴取を実施	① ア) 運営会議(毎月) イ) 何でも相談の実施(毎月) ウ) 誕生日食の提供(当日本人のみ希望メニュー) おやつ作りと提供(23回) テーマ食の選択と提供(5月・6月・8月・9月・11月・1月) 行事食(4月・7月・10月・12月・2月) ② ア) 懇談会実施(毎月)	○
魅力あるプログラムの提供	魅力あるプログラムの提供	①コロナ禍であっても利用者の笑顔あふれる活動の提供(季節を感じられる活動の提供、自宅や思い出の場所等への下車しないドライブ外出)	ア) 委員会実施(毎月) イ) 業務について現状把握の為にアンケート作成と実施(5~7月) ウ) アンケート結果を基に業務の見直しを検討(7~9月) オ) 季節を感じられる行事(4月・7月・10月・12月・2月)	○



実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
レクリエーション機器の活用	レクリエーション機器の活用	①自由に機器を活用した活動が出来るシステムの検討	ア)レクリエーション機器を使用した活動の提供(毎月) イ)映像機器オミビスタの導入(6月) ウ)レクリエーション機器の操作方法とプログラム内容の把握(9月) エ)余暇活動でオミビスタ活用中(毎月)	○
他施設を見学し、最新の支援技術や業務内容を学ぶ	最新の支援技術や業務内容を学ぶ	①他施設と情報交換を行い、導入可能な取り組みがあれば導入し、利用者支援や業務改善を実施 ②Web 情報交換会等の検討と試行	① ア)他施設との連携会議も延期され、十分な情報収集に至らず ② ア)法人内施設との情報交換会の調整と実施(7月・8月・9月・10月・11月)	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保	利用者の確保	①行政・相談支援事業所等へ情報収集、待機者の継続した確保 ②メールを活用し、相談支援事業所等へ利用空き情報等の配信実施	① ア)訪問面談者(2名)・情報提供(13件)・新規利用者(3名) ② ア)但馬近隣圏域の福祉課と社協、市内相談事業所への情報発信(7月・1月)	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
職員の確保	職員の確保	<p>①人材状況を随時把握し、ハローワークにて求人を実施</p> <p>②緊急な人材不足の対策として、人材紹介業者を活用</p>	<p>①</p> <p>ア) ハローワークへの求人依頼</p> <p>イ) 看護師 2 名採用 (5 月・6 月)、食事介助のみの支援員 1 名採用 (4 月)</p> <p>エ) ハローワークにて面接会実施 (1 月・3 月)</p> <p>②</p> <p>ア) 人材紹介業者から、看護師 1 名・支援員 1 名を確保したが、支援員は継続的な就労に繋がらず</p> <p>イ) 優良人材紹介企業へ、直接求人情報の確認実施 (2 月)</p>	△
経費削減と積立金 1500 万円確保	経費削減と積立金 1500 万円確保	<p>①毎月の水道光熱費等を把握し、適時職員へ使用状況の報告と経費削減に向けた取組み方法を周知</p> <p>②介護給付費収入予算を確実に確保し、年 1500 万円の積立実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 水道光熱費の月間集計を職員会議にて報告 (毎月)</p> <p>イ) オムツ類等の日常消耗品の消費集計を報告</p> <p>ウ) 利用者確保に向けた情報収集 (毎月)</p> <p>②</p> <p>ア) 4400 万円の積立金を確保</p>	○
利用者の体調をレベルで差別化し、状態を把握	体調をレベルで差別化	<p>①医療のトリアージの考え方を取り入れ、利用者の体調レベルを差別化するシステムの検討と立案</p>	<p>ア) 健診結果報告を通して各利用者の体調を把握</p> <p>イ) 朝来医療センター Dr へ情報収集</p> <p>ウ) 朝来医療センター Dr に急変の可能性のある利用者の確認</p>	△

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
施設に感染症を持ち込まない	施設に感染症を持ち込まない	①感染症予防研修にて、感染症予防の基本を学び、職員個々による感染症予防対策を実施 ②感染予防対策の強化と利用者・家族・職員等への周知として、感染症予防月間の実施 ③感染症発生時の訓練の実施	①② ア) 委員会実施（毎月） イ) 感染症予防研修の実施（5月） ウ) 外部感染症予防研修の受講（5月） エ) 感染症予防の啓発活動の実施（4月・5月・1月・2月） オ) 熱中症、食中毒予防の啓発活動の実施（6月・7月・8月） カ) 感染予防対策の強化として、各職員に消毒液を配布（8月） キ) 感染防止拡大防止の対策として、各職員へフェイスシールド及びゴーグルを配布（2月） ③ ア) 感染症発生時の訓練の計画と実施（8月・9月・10月）	◎
老朽化した設備の改修	老朽化した設備の改修（天井走行リフト等）	①天井走行リフトの更新 ②新館スプリンクラータンクの修繕 ③施設内外の老朽箇所等の修繕	① ア) 北寮10台天井走行リフト更新（6月） ② ア) 新館スプリンクラー貯水タンクの塗装修繕（8月） ③ ア) 厨房天井漏水箇所の修繕（8月） イ) 雨どいの掃除と修繕（7月） ウ) 本館裏の樹木剪定（12月） エ) 新館エアコン屋外機修繕（7月） オ) 本館浴室床修繕（3月） カ) 単身寮屋上防水工事（12月） キ) ハイエースリフト付更新（3月）	◎
（旧）さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	（旧）さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	①（旧）さくらの苑の室内清掃、及び防災設備の維持管理 ②新型コロナ対応隔離場所としての活用 ③本部備品・保存書類管理の維持	① ア) 旧さくらの苑の清掃、防火設備定期点検 ② ア) 感染防護備品等の設置、及びエアレント保管に活用 ③ ア) 本部備品の保管と管理を実施	○

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
竹田地域を散策し店舗等の利用	竹田地域を散策し店舗等の利用	①感染症の状況を見ながら、竹田地域へ外出	ア) 委員会実施（毎月） イ) ドライブ外出・竹田地区への外出 ウ) 近隣地域への外出案内のポスター更新（6月・7月） エ) 総合事務所・あったかプラザへ日中活動製作作品を展示 オ) オオツキの移動販売の利用調整と実施（10月・11月・12）	○
竹田地域へ貢献したい	竹田地域へ貢献（バリアフリーマップの作成）	①竹田地域への通行困難箇所の調査とデータ化 ②竹田地域の店舗や公共施設へ施設での作成物の提供	① ア) バリアフリーMAPの作成（6月） イ) 竹田外出MAPの見直し・作成・掲示（7月・8月・11月） ② ア) コロナウイルス感染症の影響で実施できず	△
介護機器や地域参加等の情報を公開	介護機器や地域参加等の情報を公開	①施設内の最新介護機器や利用者の活動情報を地域へ発信	ア) コロナ禍で行ってきた余暇活動をホームページと機関紙に掲載（7月・8月・3月） イ) 導入したレクリエーション機器、改造後のHALをホームページと機関紙に掲載（7月・8月） ウ) エアテント設置訓練・全身防護服使用訓練の情報掲載（3月）	○
機関紙やホームページの積極的な活用	機関紙やホームページの積極的な活用	①リニューアルした機関紙の記事内容の検討と継続発行 ②分かりやすく読みやすいスマートな機関紙作成の検討	①② ア) 委員会を実施し、機関紙の内容を検討（毎月） イ) 機関紙の発行（8月・3月） ウ) ホームページの更新（7月・8月） エ) ホームページへ、事業計画・事業報告を掲載 オ) フェイスブックの更新（毎月）	○

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者懇談会・運営会議を実施し、利用者と情報の共有を実施	利用者懇談会・運営会議を実施	①利用者懇談会・運営会議で得た各利用者の要望やニーズなどの情報を分析し、課題改善を早期に実施 ②利用者自治会や家族会と、適時話し合える機会を持ち、施設の課題改善を実施	① ア) 運営会議 (毎月) イ) 何でも相談の実施 (毎月) ウ) 懇談会実施 (毎月) ② ア) 家族会実施 (4月・7月・11月) イ) 家族会役員会参加 (6月・9月・10月・3月)	○
苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施し、早期解決	苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施	①第3者委員・利用者自治会の参加のもと苦情解決委員会・虐待防止委員会を行い、苦情及び虐待に関する情報共有と課題解決に向けた取組みを実施 ②定期的に研修を実施し、虐待防止意識の向上及び適切な身体拘束に関する知識の学習	① ア) 苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施 (6月・3月) イ) 何でも相談の実施 (毎月) ウ) 「虐待防止研修」 (9月) エ) 「接遇セルフチェック」実施 (6月・10月) オ) 接遇目標の掲示と啓発 (8月・9月・10月) ② ア) 「身体拘束防止について」勉強会 (4月、2月) イ) 虐待防止チェックリストの実施・集計とフィードバック (9月・2月)	○
介護事故対策の実施	介護事故対策の実施	①第3期から把握してきた、事故・ヒヤリハット統計データを詳細に分析し、歯止め対策を実施	ア) 委員会実施 (毎月) イ) 薬事故防止啓発活動の実施 (毎月) ウ) 職員会議にて事故、ヒヤリハット件数の報告 (毎月) エ) 職員会議にて研修の実施 (7月、12月)	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
成年後見制度の積極的な活用	成年後見制度の活用	①利用者の重度高齢化及び家族の高齢化に伴い、成年後見制度活用の必要な利用者を把握し、積極的に制度の活用を推進	ア) 新規利用者家族へ制度活用の促し (1名) イ) 見守り契約利用者と関係者との契約確認 (1名) ウ) 保佐人制度の利用 (1名) エ) 近親者がいない利用者の情報収集 (1名)	○

### 3. 出来した事案

特になし

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 和生園

施設長 松本 雄二

### 和生園の基本方針

1. ご利用者一人一人の可能性と無限性を求めます。
2. 個々のニーズに応えるべく高い専門性を持ったチーム支援を実施します。
3. 地域に支えられ、地域の信頼に応え地域と共に歩みます。

### グループホームもみの木・かしの木の基本方針

1. ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、自立へ向けての個別支援を行います。
2. ご利用者が、安全・安心・快適な生活を送られるように支援します。
3. 地域との連携を重視し、地域に根ざしたホーム作りに努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

一人ひとりがストレングスを活かした自己実現と

仕事を通じた社会とつながる施設を目指します。

### 2021 年度の事業報告について

2014年9月の第2和生園開設時より、7年6か月にわたり事業運営してまいりました就労移行支援事業（定員6人）ですが、2022年3月31日をもって廃止いたしました。コロナ禍にあっても順調に就労へ繋げることが可能となっていました。新たなご利用者を見つけることができず、止む無く事業廃止を決断いたしました。しかし、事業所として障害をお持ちの方を就労へ繋げるスキルを持っておりますので、2022年6月より就労継続支援B型事業の定員を34人から40人に増員することにより、新たに就職への希望をお持ちのご利用者が現れた場合に対応可能な体制を継続していきます。

昨年10月に取得し、和生園に管理を一任していただいているさくらの苑前農地（だいふくファーム）ですが、株式会社姫路生花市場の協力を得て、次年度はお盆用の小菊とハロウィン用のおもちゃカボチャの栽培をすべく準備を進めてまいりました。また、兵庫県障害福祉事業所農業参入モデル事業による補助金を活用して、農業機械の整備を進めました。

共同生活援助事業では、ご利用者へのより一層の安全安心な生活の提供を目的として、昨年10月よりシルバー人材センターから夜間支援従事者として宿直者を派遣いただき、夜間の緊急時対応を強化することができました。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	40名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労移行支援	6名	身体・知的障害者	2014年9月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	—	身体・知的障害者	2018年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	17名	身体・知的障害者	2012年4月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
施設内理念研修の実施	①施設内理念研修会開催 (1回/年)	ア)理事長による理念講和を実施(11月) イ)小西牧師による礼拝和生園(毎月/年12回) グループホーム(偶数月/年6回)	◎
理念研修への参加	①職員を派遣	ア)但馬地区キリスト教福祉基礎研修を職員2名が受講(10・11・12月) イ)キリスト教社会事業同盟・総会へ1名が参加(6月) ウ)第20回福祉村サミットへ2名が参加(11月)	◎
神戸聖隷ハンドブックの活用	①3ヶ月毎の職員会議で活用 (4回/年)	ア)神戸聖隷ハンドブックの活用を、小西牧師を招いた毎月の職員会議前の礼拝に代替	△
ご利用者への困り事への柔軟な対応	①困り事調査と対応(9・3月)	ア)利用者満足度調査と併せて、困り事調査を実施(11月) イ)親亡き後の心配を抱える家族へ、但馬地区成年後見制度基礎研修の参加を案内し、2家族が参加(12月)	○
和生園・GHの広報誌の継続と発行	①広報紙「かける」発行(12月)	ア)広報紙3号を発行(12月) イ)facebookへ投稿(5・10・2月) ウ)朝来市フォーラムで発表する農業生産作業に係る写真提供依頼あり、受託(9月)	◎
施設内へキリスト教を象徴した掲示物等の工夫	①掲示	ア)未実施	×



## (2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
職員確保の工夫	①職員確保	ア) 年度途中の退職に係る職員はハローワークを通じて確保 (12 月) イ) グループホームでの宿直に係る宿直員をシルバー人材センターへ依頼し宿直者を確保 (8・9 月)	○
様々なメディアにて求人を実施 (GH 世話人・夜勤者 or 宿直者を含む)	①ハローワーク、新聞折り込み等を活用し求人を実施 ②夜間支援体制加算Ⅱの取得	① ア) 目標工賃達成指導員 1 名の退職に伴う求人は、ハローワークを通じて実施 (11 月) ② ア) グループホームの宿直を、宿直者 3 名で開始 (10 月) イ) 夜間支援体制加算Ⅲ→Ⅱへ取得加算変更 (10 月)	◎
勤務時間の見直しと業務の改善について検討	①業務の改善について検討 ②勤務時間帯の変更 ③電子印決裁とペーパーレス化 (ケア記録より)	① ア) 拠点間会議の実施に Teams と OneNote の活用開始 (4・5 月) イ) 次年度からの拠点間の朝礼を、Teams を活用した合同朝礼とすることを方針決定 (3 月) ウ) グループホームへ宿直の導入により、夜間緊急連絡に係る管理者の心的負担軽減を改善 (10 月) ② ア) 和生園職員の勤務開始時間を 8 時から 8 時 15 分に変更 (4 月) ③ ア) ケア記録、各種日誌の電子印鑑決裁とペーパーレス化の本格運用 (4 月) イ) 出張等に係る届出帳票を電子印鑑決裁によるペーパーレス化の運用開始 (3 月)	○
新人・新任職員マニュアルの整備	①マニュアル (エルダー制度等) の運用と見直し	ア) 未実施	×

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
専門的知識 の習得 (Web 研修 を活用して 外部研修会 への積極的 な参加)	①Web 環境の整備 ②Web での研修会参加	① ア)Wi-Fi ルーターを増設し、Wi-Fi 環境を拡張 (4 月) イ)Web カメラ付き PC を拠点毎に 1 台ずつ整備 (4 月) ウ) 拠点間会議を実施するための Teams と OneNote を設定 (4・5 月) ② ア)Web 研修無料トライアル申込 (9 月) イ) 法人内実施の Web 研修に参加 ・ワークライフバランス研修 ・法人課長職研修 ・コミュニケーション研修 ・キリスト教福祉基礎研修 ・通所日中支援事業研修 ・2021 年度事業種別研修 ・神戸地区成年後見制度基礎研修 ・法人上級一般職員研修 ・日中活動新事業研修 ・法人総合職員研修発表会 ウ) 法人外実施の Web 研修に参加 ・キリスト教社会事業同盟・総会 ・障害者施設のリスクマネジメン ト (BCP) Web 研修 ・身体拘束・虐待防止研修	◎

## (3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
現状に合わせた作業の開拓	①新作業の確保と農福連携の具体化	ア) 地元企業に作業受注に係る渉外に訪問し、1社より建築資材組立作業を受注(4月) イ) 農業生産者4件より作業を受注(5・6・7・8・9・10・11・12月) ウ) 地域で活動されている成年後見人より被成年後見人の所有地の除草作業を請負う(7・9・11月) エ) さくらの苑前、取得予定農地の除草作業を実施(4・7月) オ) 農地取得後計画、及び農業機械の取得計画の策定 カ) 兵庫県障害者アグリファームモデル研修事業に職員1名が参加(5・6・7・8・9月) キ) 取得した農地を令和3年度障害福祉事業所農業参入モデル事業を利用した活用開始(3月)	◎
安定した製袋作業の定着	①年間受注数の生産と単価の交渉	ア) 指定袋 大: 794,000枚生産 小: 253,500枚生産 イ) 指定ごみ袋生産に係る単価交渉により、次年度単価の決定(3月) 指定袋 大: 19.1円(+2.9円) 小: 13.7円(+2.5円)	◎
新工賃システムの定着	①定着	ア) 工賃配分可能額と新工賃配分額との乖離を認識し、改善課題を全職員で共有(6月) イ) 次年度中に工賃分配方法の再検討による改善を方針決定(3月)	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
計画的な外部研修会参加と伝達研修の徹底	①職員毎の研修計画立案と派遣、伝達研修実施	ア) 兵庫県障害者アグリファームモデル事業に1名参加(5・6・7・8・9・10・11月) イ) 訪問型職場適応援助者養成研修に就労支援員が参加し、資格取得(9月) ウ) 会計実務基礎講座(通信課程)を1名が受講(6・7・8・9月) エ) 会計セミナー予算・実践編を1名が受講(9月) オ) 但馬ブロック身体拘束・虐待防止研修を受講した職員による伝達研修実施(1月)	○
虐待防止勉強会の開催	①勉強会の開催	ア) 虐待防止セルフチェックの実施(9・2月) イ) 自己決定支援に係る事業所内勉強会を実施(10月) ウ) 虐待基準票を用いた事例検討会の実施(12月)	◎
(GH) 夜間支援体制の向上と実施	①夜勤(宿直)業務開始	ア) グループホームの宿直を朝来市シルバー人材センターと契約締結(9月) イ) グループホームの宿直業務開始(10月)	◎
(GH) 世話人の確保	①職員体制(世話人)、5:1の維持	ア) 人員配置基準の月次確認を実施 生活支援員:0.66人、世話人:2.96人以上を維持	◎
客観的なサービス評価	①ループホームもみの木・かしの木、第三者評価受審	ア) 第三者評価受審に係る説明会に3名が参加(8月) イ) 第三者評価訪問調査(12月) ウ) 第三者評価結果Web説明会(3月)	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
ニーズに応じた送迎サービスの実施	①送迎開始	ア) 施設外就労に係る作業状況に応じて、柔軟に実施 イ) 利用者の身体状況に応じた個別の送迎サービスを実施 ウ) 体験利用者の利用時間に合わせた送迎サービスの実施(12月)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
送迎体制の整備	①送迎方法、コースの決定	ア) 通常の送迎コース以外の臨時送迎は、空き車両を使用して 2 名の職員で実施 イ) 個別の送迎サービスは、送迎担当者を決定し、交代で送迎時間を調整しながら実施（通年）	◎
交通安全教育実施による安全運転意識の充実	①安全運転講習会開催(7 月)と危険個所の共有	ア) 安全運転に係る Web セミナーを 1 名が受講（10 月）	△
月額平均 22,000 円の確保	①作業に係る情報収集と渉外 ②目標工賃達成指導員の業務改善 ③農林振興課、農業生産者との合議による作業価格の交渉	① ア) ハローワークを訪問し、求人情報を基に企業訪問を実施し、1 社から作業を受託（4 月） イ) 新規の農業生産者（稲作、岩津ねぎ）より繁忙期の作業を受託 ウ) 第 3 回工賃向上勉強会にゲストスピーカーとして農福作業に係る現状と課題を発表（10 月） エ) 南但クリーンセンターと令和 4 年度分概算見積もりに係る渉外（11・3 月） オ) 平均工賃月額 15,708 円 平均工賃時給額 160 円 ② ア) 製袋作業の利益率向上を目的として、目標工賃達成指導員を製袋作業の担当として配置（4 月） イ) 目標工賃達成指導員の役割の共有と次年度業務に係る面談の実施（3 月） ③ ア) 農業生産に係る作業売上額 平均月額：33,813 円 売上累計：405,750 円（4～12 月） イ) 各農業生産者と交渉し、消費税課税の承諾を得る（4 月） ウ) 令和 3 年度障害福祉事業所農業参入モデル事業者決定通知連絡を受け、事業の活用開始（3 月）	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
目標利用人数の達成	①利用ニーズに合わせた柔軟な対応 ②山東町方面の利用者へ向けた、事業案内の実施 ③グループホームめぐみ利用者の、日中活動の場として利用を進める	① ア)利用日数の少ない利用者に生活リズムに合わせた利用時間を勧めることで利用率が向上 イ)生活介護と就労継続支援 B 型の併用利用を希望される利用者の利用契約を締結するが、利用継続に至らず (6 月) ② ア)山東町方面の利用者家族へ、人伝での利用者紹介を依頼 (8 月) イ)朝来市社会福祉協議会相談支援事業所相談員へ在宅障害者の状況を問い合わせるが、明確な返答は受けられず (11 月) ③ ア)グループホームめぐみ利用者の新規利用受入れはペンディング (8 月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域清掃活動の継続 (第 2 和生園)	①毎週火曜日に実施	ア)夏季を除き、毎週火曜日を基本に清掃活動を実施 (7・8 月を除く通年)	◎
資源回収への人的、物的労力での協力を継続 (和生園)	①資源回収への人的、物的協力の提供 (5・10・3 月)	ア)地区の資源回収に車両を提供し、職員 1 名が回収に協力 (5・10 月)	○
地区行事への積極的な協力	①地区行事への協力	ア)コロナ禍による緊急事態宣言発出もあり、地区行事は全て中止 イ)秋葉台 3 区除草作業に合わせて、和生園周辺の除草作業に協力 (6 月) ウ)和田山中学校トライやるウィークで 4 名の生徒を受入れ (10 月)	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
秋葉台 3 区ボランティアサークルへ活動お手伝いの申出と活動への協力	①秋葉台 3 区ボランティアサークルへお手伝い	ア) 秋葉台 3 区ボランティアサークルによる除草ボランティアを共に活動 (10 月)	○
自立支援協議会への積極的参加	①朝来市自立支援協議会に積極的に参加	ア) 朝来市自立支援協議会/課題抽出部会に出席 (6・8・11・2 月) イ) 朝来市自立支援協議会総会に Web 出席 (3 月) ウ) 朝来市介護認定審査会より審査員の委嘱を受け、出席 (第 2・4 火曜日/月)	◎

#### (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
無賃残業ゼロの徹底	①勤怠管理システムとセキュリティ施錠時刻の突合	ア) 工賃支援会議以外、退勤時間と退勤が乖離する職員は皆無 (毎月) イ) 残業を必要とする場合は、事前申出を徹底	○
働き方改革に対する知識と意識の向上	①施設内研修の実施 (6 月)	ア) 社会保険労務士を招いての今年度の学習会はペンディング (6 月) イ) 法人主催ワークライフバランス研修会を全職員が受講 (9・10 月)	○

### 3. 出来した事案

#### (1) 朝来市指定袋のボトム溶着不良に関する件 (6・9 月)

南但クリーンセンターより 3 月 12 日製造分の指定袋に不良があった旨の連絡を受けました。不良の状況は指定袋ボトム溶着不良であり、不良の申し出件数は 1 件のみでしたが、他にも不良申し出の可能性も視野に入れ、6 月 11 日付けで南但クリーンセンターへ是正報告書を提出しました。今後も同内容で不良の連絡を受けた際には、和生園にて責任を持ち、1 件 1 件のご自宅を訪問し、謝罪及び対応を行わせて頂くことを、南但クリーンセンターへ申し出ております。

9 月に発覚したボトム溶着不良につきましては、6 月 11 日の是正対策前に製造された指定袋であることを南但クリーンセンターと共に確認を致しました。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 北但広域療育センター  
施設長 久木田 憲彦

### 北但広域療育センターの基本方針

1. 利用者の人権を尊重して、利用者が全人的に生かされることを目指して支援します。
2. ICF の障害観点に立って、生活、環境をも考慮した質の高いサービスの提供を目指します。
3. 北但馬の療育の中核として、職員の専門性の向上を図り、地域（教育、医療、福祉、家庭）との連携体制の構築を図ります。
4. キリスト教精神を持って、日々、利用者と接します。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 専門家集団として、地域から求められる役割の明確化とサービス提供体制の確立

年度を通して新型コロナウイルス感染防止の徹底を図りましたが、1月以降、職員や利用者の感染が確認され、その対応に追われました。幸いにもセンター内での感染拡大には至りませんでした。豊岡健康福祉事務所管内での児童の感染者の増加に伴う利用自粛が顕著となり、トゥモロー以外の事業は当初の利用目標を達成できませんでした。

また、今年度の報酬改定により、これまで実施してきた専門的支援への評価が高くなりましたが、8月まで理学療法士、10月まで保育士の欠員補充ができず、当初予算を達成することはできませんでした。

ご家族への情報提供についての強化を行い、登録された方への毎月のデータを添付した一斉メールの配信や、新型コロナ感染状況等、タイムリーな情報発信に努めました。

新型コロナ対策でオンラインでの研修受講が当たり前となり、遠方まで出向くことなく各種研修を受講することができ、対面式研修と並行して職員のスキルアップを図りました。

児童発達支援センター「すまいる」では、就学前の児童数が少なく低年齢化が顕著となり、保育園等での感染症発生等による体調不良による欠席が目立ち、利用率は低迷しました。

放課後等デイサービス「らみい」では、コロナ禍で活動に制限がある中での親子体験型プログラムを隔週土曜日に実施し、利用促進につなげました。しかし、年度後半は自粛傾向が強く、支援の充実にはつながりませんでした。

障害児者通所支援事業「トゥモロー」の実施する放課後等デイサービスでは、利用希望が増加し当初の目標以上の利用につながりましたが、今後、生活介護利用者の増加に伴う利用枠の減少が大きな課題となってきます。

相談支援事業「びあほくたん」は2名の相談支援専門員で体制の充実を図りましたが、相談員1名の離職に伴い計画的に業務を遂行することが困難な状況でした。

但馬圏域での発達支援を担当する「クローバー豊岡ランチ」では、今年度は南但からの問い合わせが増加しており、関係機関と連携した活動を行うことができました。

「風発達クリニック」では患者数は増加しているものの、厳しい経営状況が続いています。発達検査数も増え続けており、今年度から心理士を2名から3名に増員し実施することで、検査数の増加につなげました。



## 1. 事業概要

開設年月日：2008年10月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業（第2種）	児童発達支援 保育所等訪問支援	20名 —	障害児	2018年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	8名	重症心身障害者	2008年10月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス		重症心身障害児	
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	障害児	2018年4月1日
相談支援事業（第2種）	一般相談支援	—	身体障害児者 知的障害児者 発達障害児者	2008年10月1日
	特定相談支援	—		
	障害児相談支援	—		
公益事業	ひょうご発達障害者支援 センターコーパー豊岡ブランチ	—	発達障害者	2009年4月1日
公益事業	風（ふう）発達 クリニック	—	小児科・精神科 神経内科	2009年5月1日

## 2. 推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
理事長・牧師との相互交流による理念の浸透	①職員会議にて理事長による講話を実施 ②職員会議にて牧師による講話を実施	①② ア) コロナ禍により当初の目的とする相互交流ができないため、収束状況を見極めるも未実施	×
法人内外への理念研修への参加	①他法人理念研修への参加メンバーの選定 正規：浜松、非正規：県内 ②職員会議での伝達研修による情報共有	①② ア) コロナ禍により研修中止	×
基本理念に基づく部門ごとの基本方針の策定	①基本方針の職員間の共有と、保護者・家族への周知	① ア) 部署会議の冒頭に唱和（5月～） イ) 保護者会にて報告・周知（7月） ウ) 法人マスコットキャラクターを保護者宛通信で活用（8月～） エ) パンフレット、見学用PPTに記載（9月）	◎

## (2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
外部研修への積極的参加と内部研修の実施	①年間研修計画に沿った外部研修への参加 ②計画的な内部研修の実施	①外部研修 ア) 朝来市発達障害研修 (4月) イ) 相談面接技術研修 (8月) ウ) 圏域コロナ対策研修 (8月) エ) サビ児管基礎研修 (9・11月) オ) 介護技術研修 (9月) カ) 理学療法士現任研修(10月) キ) 障害児通所事業所研修会(11月) ク) 安全運転管理者講習会(11月) ケ) 介護支援専門員協会研修会(11月) コ) 兵庫県相談支援体制充実強化事業研修会(12月) サ) 会計実務者決算講座(2月) シ) 市自立支援協議会研修会(2月) ス) 香美町障害者自立支援協議会研修会(3月) ②内部研修 ア) 法人新採職員研修 (4月) イ) らみい防災研修 (4月) ウ) センター虐待防止研修 (4月) エ) らみい研修 (8・10・11月:延べ20名参加) オ) 法人OJT研修 (5・7・9月) カ) 法人一般職員研修 (6月) キ) 法人WLB研修 (9月) ク) すまいる研修 (9～12月:延べ49名参加) ケ) 感覚統合療法研修 (9月) コ) センター安全運転研修 (9月) サ) 法人フォローアップ研修(11月) シ) 法人事業種別研修 (10・12・2月) ス) 法人総合職員研修 (3月) セ) LITALICO オンラインセミナー (10回:延べ20名参加)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
近隣施設の見学による体制強化	①近隣施設の見学と連携強化	① ア) 療法士による近隣放デイとの連携実施 (4月) イ) 但馬地区作業療法士連携 (4月) ウ) 見学施設が決定するも新型コロナウイルス感染拡大により中断 エ) 市自立支援協議会情報交換会参加事業所説明実施 (1月)	○
職員の定着による後継者育成	①エルダー制度の実施 ②事業ごとのチェックリストの作成	① ア) らみい保育士採用 (4・10月) イ) 理学療法士採用 (8月) ② ア) チェックリストの作成 (8月) イ) 振り返りシートの作成 (8月) ウ) フィードバックの実施	○
指定管理下の職員配置基準見直し交渉	①職員の適正配置について検討 ②必要に応じて指定管理の配置基準について市と交渉	① ア) ハローワーク、求人広告、求人媒体による求人活動実施 イ) 豊岡市と協議し理学療法士と並行し作業療法士を募集 ウ) 理学療法士8月採用 エ) らみい保育士10月採用 ② ア) 相談支援体制について豊岡市担当課長と面談実施 (7月)	△

(3) QOLの視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
外部ソフトの導入による一部アセスメントの数値化と視覚化	①療法士個別での継続実施 ②導入効果の検証 ③療育での試行	①②③ ア) 理学療法士確保するも、実施するに至らず	×
コミュニケーション機器についての情報収集及びそれら先進機器の導入と活用	①使用方法について職員間で共有 ②様々な活用方法の検討 先進機器の視察を実施	① ア) 担当職員を決め支援で活用 イ) 振り返りを実施 (8月) ② ア) コロナ禍により、視察は未実施 イ) インターネットにて情報収集し次年度計画へ反映	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
<p>保護者への情報提供とニーズへの適切な対応</p>	<p>①SNS を活用した情報提供の実施 ②オンラインと並行した保護者会の開催</p>	<p>① ア) 毎月のメール配信を開始 (4 月) イ) 情報提供方法についてアンケート実施 (5 月) ウ) 情報データ配信を開始 (6 月) エ) 法人ホームページに情報提供ページを作成 (6 月) オ) センター内の新型コロナ感染状況を随時配信 (1 月～) ② ア) すまいる保護者会にて 1 名オンラインで参加 (7 月) イ) 保護者学習会での活用を検討</p>	<p>◎</p>
<p>保護者同士のつながりを持てる場の提供</p>	<p>①保護者同士のつながりを持てる場の開催 ②テーマ、目的別の勉強会の開催</p>	<p>① ア) 会場の参加定員を定めて実施 イ) メンターとの相談・座談会 すまいるカフェ (5・7・10 月) らみいカフェ (6・11・3 月) ウ) おはなしカフェ (9・11・1 月) (市自立支援協議会主催) ② ア) 会場の参加定員を定めて実施 イ) 保護者へ勉強会参加方法のアンケート実施 (5 月) ウ) ファンシィ (保護者学習会) (5・7・10・11・12・3 月) エ) おひさまテラス (保護者学習会) (5・6・7・9・11・12・3 月) オ) 虹の会 (ASD 家族学習会) (8・2 月以外) カ) かるがも会 (ダウン症保護者会) (4・5・6・7・10・11 月) キ) つむじ風 (重心家族会) (5・7・11 月)</p>	<p>○</p>

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
老朽化対策と療育・相談スペース拡大の検討	①改善箇所について検討 ②相談スペース拡大について検討 ③必要に応じて市へ提案し協議	① ア) 事務機器の老朽化対策 ・複合機：地区内同時納入（9月） ・電話機：買取りにて契約（10月） ・サーバー：更新（12月） イ) 緊急性の高いものは修繕実施 ・エアコン部品交換（4・5・7月） ・トゥモロー配管洗浄（8月） ・センター換気扇洗浄（2月） ・らみいカーペット設置（2月） ウ) 建物検査対応 ・外壁シーリング（豊岡市：11月） ・側溝修繕（豊岡市：11・3月） ・排煙窓修繕（豊岡市：12月） ・避難誘導灯交換（2月） ②③ ア) 豊岡市へ継続して提言（7月） イ) 豊岡市担当者との意見交換（12月） ・事務、相談スペース ・駐車場対策 ・トゥモロー機器の老朽化 ・利用ニーズに応じた施設整備	○
円滑な事業実施のための新規スペースの検討	①新規スペースの検討	① ア) 指定管理上新規スペースは市所有物に限定 イ) 担当課長見学、意見交換（7月） ウ) 豊岡市議会議員4名見学 ・障害児施策について意見交換	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
組織再編による加算取得	①療育のスペース確保による加算算定 ②新規スペースでの体制充実と相談スペース確保による加算算定	① ア) 各スペースの利用調整し事業所内相談支援加算算定増加 イ) 保護者勉強会を「らみい」で実施し療育、相談スペースを確保 ② ア) 豊岡市と継続して意見交換実施	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
療育体制の向上	①研修ソフトによる療育体制の向上 ②魅力のあるプログラム提供による利用目的の明確化	① ア) 新規職員、3 年未満職員への計画的な受講を実施 ② ア) OT による感覚統合療法の導入 イ) 学年に応じた療育方法の学習会	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
一般市民や一般企業を対象にした啓発のための講演会・研修会の実施	①関係機関、地域への講演会・研修会開催に関する情報収集 ②講演会・研修会の開催	① ア) 県民局、市町、社協、圏域内自立支援協議会・事業所等への情報提供と情報収集を実施 ② クローバー豊岡ランチが中心に実施 ア) 朝来市教育委員会 (4 月) イ) 豊岡市役所政策調整課 (6 月) ウ) 公立和田山高校 (7 月) エ) 日高町民生児童委員 (7 月) オ) 先生のための学習会 (8 月) カ) さつき福祉会 (8・10 月) キ) 但馬農業高校 (10 月) ク) 朝来市通級指導教室担当者 (2 月) ケ) 大岡学園高等専修学校 (3 月) コ) 香美町自立支援協議会 (3 月)	◎
よりわかりやすく活動目的、内容を PR するための最新の情報発信方法の導入	①ホームページの有効活用 ②PR 手段の情報収集	① ア) 法人ホームページへの情報提供ページ開設 (6 月) イ) 法人ホームページ「ご利用について」ページ改善の検討 ウ) 法人ホームページにてアンケート結果を公開 (1 月) ② ア) QR コードを活用した PR 方法の検討実施 イ) すまいる見学者用の PPT を作成し活用	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの充足と安定した経営の両立	① 関係機関からの情報収集 ② 新規スペースでの事業展開を市町と協議	① ア) 市町自立支援協議会からの情報収集実施 イ) 社会福祉法人連絡協議会での情報収集実施  ② ア) 市町関係部局と協議（前述）	○
効率的な事業運営	① 新規スペースでの効率的な事業運営に向けた検討	① ア) 新規スペースでの体制イメージ ・ 児童に特化した相談支援体制 ・ トゥモロー成人・児童の分離 ・ らみい立地条件の改善 ・ 事務業務の分散と互換	×

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
正規職員、非正規職員を適正に配置した組織づくり	① 法人新体制に応じた組織体制のイメージ作成	① ア) 各事業、事業間での連携による互換性の確保 ・ トゥモロー：送迎体制 ・ すまいる、らみい：職員の業務交流 イ) 法人職員アンケートへの回答	△
雇用形態に応じた明確な職務分掌の作成	① 雇用形態に応じた職務分掌の分析 ② 業務が偏らない適正な職務分掌の実施	① ア) 総務部分の職務分掌の整理、確認を実施 イ) 正規職員不在部署との整合性の確認  ② ア) 超過勤務時間数の減少とバランスを是正 イ) 職位ごとの裁量の検討	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
業務内容の把握と整理	①各事業の業務内容の課題を整理	① ア) 事務の効率化の実施 ・銀行口座の整理 ・財務会計により按分会計導入 ・給与事務の効率化 ・行政入金口座の変更依頼 ・届け出手続きの改善 イ) 記録業務の効率化 ・記録様式の効率化 ・記録の電子印鑑決裁とペーパーレス化の周知と施行 ・業務スペースの分散	○
療育に特化したソフトの導入による療育の質の向上と業務効率化	①研修ソフトの計画的活用 ②支援スキルの療育へのフィードバック	① ア) 新規職員、3 年未満職員への計画的な受講を実施 ② ア) OT による感覚統合療法の導入 イ) 学年に応じた療育方法の学習会	△
各部署内、部署間でのスムーズな情報伝達・共有を進めるためのソフト導入	①記録マニュアルの再策定 ②記録ソフトの導入 ③記録ソフトの活用と振り返り	① ア) 記録マニュアルの再作成 イ) 記録様式の効率化とペーパーレス化の試行 ②③ ア) 既設の記録ソフトを選定 イ) 入力シミュレーション実施 ウ) 様式のカスタマイズの検討	△

### 3. 出来た事案

(1) 特にありません。



## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 エスポワールこじか  
施設長 伊崎 辰夫

### エスポワールこじか基本方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、専門性を生かした支援を目指します。
2. 利用者の個性及び人権を尊重し、健やかな成長に向けて総合的に支援を行います。
3. 地域の保健・医療・福祉等との綿密な連携を図り、地域と共に歩む施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「地域に必要とされる資源(物も人も)になる」

#### 2021 年度の事業報告について

今年度は「兎に角、実践してみる」こと、変化を受け入れることを目標に取り組みました。

人材確保育成の視点「OJT（施設内教育）の推進」では、今まで職制だけが行っていた施設利用見学の案内を全員が出来るように、ポイントの整理やロールプレイなども行い、準職員 2 名が指導役まで出来るようになりました。その他園校訪問、保護者支援、請求業務、児発管業務などは、OJT の実践を通して経験を積み重ねている途中です。また、準職員への人事考課は 2 年目を迎え、評価表をこじか用に変更し、保育士 4 名に自己評価、一次考課、職員面談と実施しました。考課者との面談は皆に好評を得ていますが、評価のとらえ方、面談後のフォローの仕方、実施していない職員がいるなどまだまだ課題が残っています。

QOL の視点「多様な療育プログラムの計画と実施」においては、担当が自ら計画を立案し実施することで少しずつ自信にもなり、朝来市、養父市の図書館への外出、水遊びやクリスマスなど今までにないアイデアで活動に変化をもたらすことが出来ています。

最後に経営強化の視点「目標利用人数の達成」では目標 1,948 人（84.0%）に対し、2,049 人と 101 人増加、利用率も 8.7%と目標は達成しました。但し、事業を始めて 11 年目にして初めて右肩下がりの年となりました。12 月～1 月に胃腸炎による欠席、2 月～3 月はコロナによる休園休校による欠席と下期だけで 1 か月 70 件以上の欠席が 3 回もありました。災害等の予測は難しいですが、少しでもダメージが少なく済むよう今後も関係機関との連携に努めます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2011 年 4 月 1 日（委託開始）

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業（第2種）	児童発達支援	10名	身体障害児童 知的障害児童	2013年4月1日
障害児通所支援事業（第2種）	放課後等デイサービス	10名	身体障害児童 知的障害児童	2013年4月1日
相談支援事業（第2種）	特定相談支援	—	障害児	2014年10月1日
	障害児相談支援	—	障害児	

2. 第4期中期計画と推進策

(1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
理念の研修、ハンドブックの活用	①理事長・牧師等による理念勉強会の実施 ②ハンドブックの職員会議での活用	① ア) 理事長による理念勉強会 (9月) 9名出席 イ) 小西牧師によるキリスト教福祉勉強会: (6月、11月) 延べ15名出席 ② ア) 毎月職員会議にて唱和	◎
聖書の唱和 基本理念の唱和	①聖書・基本理念、運営方針、平和を求める祈りの朝礼時唱和	ア) 聖書朗読「マタイの福音書11章1節」～「ルカによる福音書」4章30節まで毎日朝礼にて唱和、また「基本理念、施設方針、平和を求める祈り」の唱和継続	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
施設内研修の充実	①自身の検証と振り返りの継続 ②伝達研修の実施 ③スーパーバイズによる研修 ④ケースカンファレンス	① ア) ビデオ研修10回実施 ② ア) 感染症予防研修(8月・11月) ③ ア) 稲垣心理士による現場研修(5月、6月)、中江心理士による現場研修(8月、9月) ④ ア) 太田垣 Dr カンファ 年4回	◎
専門研修の参加奨励	①強度行動障害支援者養成・発達障害実務者養成研修等の受講 ②虐待防止チェックリスト実施、虐待防止研修の実施 ③虐待対応力向上研修	① ア) 強度行動障害支援者養成基礎研修受講 イ) 発達障害実務者養成研修受講 ② ア) 虐待防止事例学習会(11月) イ) 虐待防止チェックリスト(9月、2月)実施 ウ) 身体拘束適正化研修(12月) ③虐待対応力向上研修受講(基礎リモート、B研修姫路)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域に出向いてスキルアップを図る	①園校に依頼による派遣と評価の実施 ②のびのび教室等地域の育児支援への協力	① ア) コロナの影響で急遽の変更に対応しつつ 16 か所訪問 ② ア) コロナの影響で今年度中止。	○
施設内での役割の明確化	①OJT（施設内教育）の推進 ②評価の継続と評価方法の検証	① ア) 園内見学説明…臨時 2 名に 15 回実施 イ) 園訪問…28 回実施。訪問時の配慮点作成、周知 ウ) 新サビ児管へ支援計画、モニタリングの内容確認実施 エ) 請求業務、毎月実施中 オ) 学習会進行…学習会開催の計画と実施。OJT2 回実施 ② ア) 人事評価表作成（9 月） 評価ポイント説明（10 月） 準職員自己評価実施（11 月） 準職員との面談実施（1 月） 職制にて内容検討（3 月）	○

(3) QOL の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
放課後等デイサービスの準備協力	①活動内容やスタッフ交流 法人内児童施設との連携	ア) 放デイめぐみ職員のこじか研修参加 イ) 下期予定の北但すまいるとの連携は実施できず	△
保護者勉強会の実施	①6 回以上の保護者学習会 ②小グループ勉強会の実施	① ア) 「療育の役割」、「子育ての工夫」、「メンター相談会」、「発達検査の見方」、「就学に向けて」、「言葉の発達について」 年 8 回延べ 39 名参加 ② ア) 「家庭での困り事」「行動の理解」「園の生活について」「サポートファイルの作り方」 年 10 回延べ 30 名参加	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
満足度アップ	①満足度調査実施と HP への公表 ②年 2 回の保護者面談実施 ③ボランティアの開拓（個人、団体へ依頼）	① ア)9 月 6 日～10 月 1 日間で実施 48 家族へ配布、47 家族回収 イ)施設評価検討会議（11 月） ウ)自己評価結果表のホームページ公表（12 月） ② ア)上半期モニタリング、保護者面談 45 家族（9 月）実施 イ)下半期モニタリング、保護者面談 53 家族（3 月）実施 ③ ア)新型コロナウイルスの影響で昨年中止。ワクチン接種 2 回完了を条件に 9 月から開始するも、地域感染拡大により 2 月より再度中止	◎  ◎  △
なんでも相談の実施	①なんでも相談の随時対応	ア)電話 27 件、来園 8 件対応	◎
医師による相談支援	①毎月の Dr 療育相談継続	ア)計画通りに実施	◎
個々に必要な支援計画の作成	①超早期療育継続 ②多様な療育プログラムの計画と実施（母子分離、外出、季節行事など）	① ア)1 名延べ 18 回利用 ② ア)朝来市図書館外出（8 月）5 名参加、7～8 月 水遊びプログラム実施 イ)養父市図書館外出（11 月）4 名参加、12 月にクリスマス行事実施	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
目標の設定と達成	①目標利用人数の達成 1,948 人 (84.0%) ②サービス利用計画 70 件、継続サービス利用計画 143 件	① ア)目標に対し、2,049 人で 101 人増、87.0%と達成 ② ア)サービス利用計画目標に対し 70 件（計画通り） イ)継続サービス利用計画目標に対し 194 件（51 件増）	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
保護者希望時間の配慮	①欠席による振替実施率 30%の達成	ア)総欠席数 632 件中振替 122 回 19.3% 未達	△
専門療育の実施	①毎月の事業報告と市町による評価の実施	ア)毎月事業報告を提出 イ)2 市 1 町福祉課長との運営委員会実施 (6 月、12 月) ウ)2 市 1 町実務者合同連絡会 (2 月)	◎
経営状況を意識する	①毎月利用状況の共有 (人数と収支の報告) ②予算、中間決算など経営状況報告	① ア)毎月利用人数、利用率、目標値対比、昨年度対比を報告 ② ア)予算説明 (4 月) イ)中間決算報告せず、次年度予算検討説明 (2 月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域関係機関との良好な関係作り	①園校訪問、参観の実施 ②養父市、朝来市、香美町自立支援協議会への参画 ③その他関係市町の委員会・協議会等への協力	① ア)園校延べ 16 ヲ所訪問、セッション参観延べ 6 ヲ所 ② ア)養父市、朝来市、香美町 (全体会員と実務者) ③ ア)朝来市適正就学相談会 8 回、但馬圏域障害者相談支援事業担当者連絡会、養父市相談支援実務者会議、朝来市相談支援専門員連絡会、香美町相談支援グループ会議、各市要対協保護個別会議、養父市社会福祉協議会評議員に参加 イ)2 市 1 町ケース連絡会 (福祉課、健康課、育成課 6 月、12 月)	◎
オープン療育実施	①オープン療育計画と実施	ア)10 月実施、7 家族参加 (利用希望 5 家族)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
情報発信ツールの見直し	①パンフレット適宜見直し ②ホームページの活用内容検討 ③こじか便り毎月発行	① ア)パンフレット見直し実施 ② ア)毎月こじか便りを掲載 ③ ア)毎月保護者・関係機関へ配布	◎

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
労務管理の徹底	①有給消化率 60%達成 ②ノー残業デーの徹底	① ア)当年度分消化率 58.7% ② ア)毎週木曜日実施を徹底	○
業務の効率化	①時間の有効活用の検討と検証（時間、人、物の無駄を考える）	① ア)物・紙の無駄。PCの共有ファイルを活用し、用紙・時間の無駄を省く。スキャンすることで、用紙の削減 イ)時間の無駄。小学生グループの反省会の持ち方を検討 ウ)人の無駄。人が集中しそうな時間帯に母子分離を実施。設定時間の人数調整	△
リスクの意識付け（ヒヤリハット、事故、苦情、個人情報など）	①リスクの勉強会の計画と実施 ②避難訓練への取り組み（年2回の訓練実施）	① ア)風水害マニュアル変更と周知（7月）、リスクマネジメント研修（11月） ② ア)風水害想定避難訓練（6月） イ)緊急連絡網訓練（7月） ウ)災害備品「防災用頭巾」購入 災害用BCP作成（9月） エ)児童保護者参加の地震想定避難訓練（10月）	◎

3. 出来た事案

・特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸聖生園  
施設長 西郷 昌一

### 神戸聖生園の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 本人・家族の思い、また将来の夢や希望の実現に向けたサービスを実施します。
3. 全スタッフが力を集結し、総合力を持ってチームとして支援を実施します。
4. 「利用者主体」を支援のキーワードに、利用者参画が見える支援を実施します。
5. 地域行事・活動へ計画的に参加し、利用者が地域の役割を果す支援を実施します。
6. 利用者の安心・安全を守るため、建物・設備の改修を計画・実施します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

### 2021 年度の事業報告について

依然としてコロナウイルスの影響は大きく、利用者にとって楽しみにしていた日帰り旅行や祝日営業日のイベント、地域との交流の場としてのおいでやすカーニバルなどを中止せざるを得ませんでした。しかし、その中であって三密を避けながら COCO 壺番屋の出前サービスなど、今までの視点にない方法で利用者の皆様に楽しんでいただけるイベントを実施しました。食に関するアプローチは利用者の方の関心が強く普段より多くの参加者がありました。

ご利用者さんの中で、強度行動障害の方への支援あり方を向上することが急務となり、大阪府の杉の子会さんから講師を招き、年間にわたって示唆をいただきました。利用者一人一人の動きについて適切な支援を学ぶ重要な時になりました。同時に先駆的な施設の見学を計画しましたが、先方に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、今年度の実施を見送りました。

生産活動においては、紙すき作業の充実をはかりました。昨年度設備を更新し、専用のスペースの整備を行いました。今年度は担当職員充実を図り、新商品の開発を進めるとともに、作業に取り組める利用者の増員を図りました。商品を見ていただいたお客様から新たなご注文をいただきました。今後も商品の品質、開発に力を入れ、進めてまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	知的障害者	2008年4月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 基本理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
法人の原点を知る 黎明期の法人を知る方から話しを聞く機会を持つ	①歴史資料館訪問と顧問、理事による黎明期の話を受講（4名）	① ア) 歴史資料館見学未実施（コロナ渦による見送り） イ) 理事による黎明期の講話未実施（歴史資料館見学未実施による延期）	×
キリスト教基礎研修の参加	①キリスト教基礎講座に参加（2名）	①10月20日（水）、11月15日（月） 11月24日（水）開催の講座に3名出席。	◎
基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（各々1回/週）	① ア) 基本理念の唱和月曜日朝礼で実施 イ) ハンドブックの唱和金曜日朝礼で実施	◎
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習 ②聖書の奨励を紙面を通して実施。	①理事長による基本理念研修を実施（8/27） ②朝礼時に牧師に執筆していただいたメッセージを輪読。	◎

(2) 人材確保・育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
研修の実施 新人向け、虐待防止 接遇面等	①内部研修の実施 新人向け（虐待防止、接遇面） ②外部研修の実施 専門性等（自閉症スペクトラム、高齢化の対応）	① ア) 新着職員向けに内部研修随時実施。 ② ア) 大阪杉の子会より講師の派遣を受け、内部研修、実践を実施。（6/11, 10/15, 2/24, 3/2） ア) 強度行動障害スーパーバイザー養成講座受講（7/15）	◎
生活介護施設の見学	①3名以上の職員が生活介護施設の見学実施	① ア) 実施計画策定 イ) 見学先、クラスター発生で中止	○



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
外部研修報告/施設見学報告	①研修報告の実施	①職員会議にて受講生が講師になり、報告会実施。	○
実習生の受け入れ	①実習生の受け入れ調整 ②実習先との連携強化	①神戸女子大学生、神戸常磐大学生、頌栄短大生の実習を受け入れ実施。 ② ア) 実習希望大学等と連絡調整実施 イ) 神戸女子大学研究発表会聴取。 (2/7)	◎

(3) QOL の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
活動班の枠を超えた連携	①各活動班の連携会議の実施(1回/月) ②計画的な活動プログラム	①リーダー会議を実施(毎月) ② ア) 第2水曜日に施設で絵画タイムを実施 イ) 第4水曜日に合同レク実施	◎
日帰り旅行の実施	①日帰り旅行の実施方法について協議し、実施	①コロナ禍で今年度見送り 2～3時間の車窓から見学のみドライブ実施。(不定期)	△
紙すきの安定した活動	①紙すき対応職員のシフト固定実施 ②質の向上、商品化、販売ルートを協議 ③幅広い利用者の参加	①固定は未実施。輪番制で体制を整理 ②福祉事業所フェスティバル用に向け商品開発を実施 ③新たに参加できる利用者の候補を選定	◎
休憩できる場所の確保	①温室跡、プチハウス跡を有効利用し、利用者や職員の休憩場所などに利用するための協議を実施。 ②新設建物の設置について検討実施	① ア) 新設倉庫の活用を検討 イ) 利用者の活動場所として活用 ウ) 本館からのアプローチの整備検討 エ) 新設倉庫までの通路をやまぶき財団の助成を活用し整備することを決定(整備は次年度) ②新たな活動場所の是非について協議	◎

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
外部向けアピール	①職員名札の使用の継続 ②ユニフォームの導入 ③花壇整理	① ア) 名札の使用を推奨。 イ) 事務所窓に出勤者の名前を表示。 ②継続実施 ③プランターによる整備を実施	◎
職制会での収支分析・加算等の周知	①職制会にて収支状況の確認と分析、報告、対策の協議	① ア) 職制会にて、月々の収支について報告、対策を協議 イ) 算定構造を熟知し、適正な請求について学習	◎
祝日開所の継続	①祝日開所の実施	①年間計画に基づく祝日、土曜の開所を実施	◎
営業時間を15:30とすることを検討する	①検討会議の継続 サービスの質としての是非の検討。利用者、家族に理解してもらえるように職員間で協議	①職制会にて検討を継続	◎

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
プランターで花を育てて地域に設置や配布	①花をそだてる。(プランター設置) ②地域にてプランターの設置の依頼、実施	①プランターによる整備を行い、侵入通路横に設置 ②地域へのプランター設置依頼未実施	△
地域ニーズに沿った、交流	①神戸聖生園が実施できる内容の検討 ②地域ニーズの把握と掘り起こし	①コロナ禍の中、地域との交流の方法について検討(支援課会議) ②未実施	△
ゴミステーション清掃の実施	①毎週月曜日の清掃実施	①計画通り実施	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練の実施	① ア) 神戸聖生園独自での実施。 2021/11/3 イ) 三園合同にて実施。 2021/8/8	◎
感染症対策の実施	①感染症対策の実施  ②備品の備蓄管理	① ア) 昼食テーブルの都度消毒、利用者降所後の施設内消毒を実施 イ) 利用者が濃厚接触者になった事に起因し、須磨保健所が来所し感染症対策についての指導実施 ウ) CO2 計測器による CO2 濃度計測 エ) 簡易体温測定器を設置 ②備蓄庫を整備し、備蓄品を整備	◎
パソコン (WIN7) への対応	①4 台	①予定外の故障もあり、7 台更新	◎

3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームせいれいやまで  
施設長 西郷 昌一

### グループホームせいれいやまでの基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供するために環境整備を実施します。
3. 利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
4. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
5. 世話人・支援職員らが協力して支援内容を工夫し、温もりのある事業所を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

### 2021 年度の事業報告について

今年度の計画の一つである利用定員の増員については、計画より1か月遅れとなりましたが、7月に無事達成できました。感謝です。この増員により職員体制も大きく変化しました。特に夜勤者が2名配置になり、環境の変化により利用者、職員とも、戸惑うことも多くみられました。増員から半年が過ぎ、ようやく落ち着きが見られるようになりました。しかしながら、利用者への支援方法について職員個々の思いが強く、支援の違いが発生し、調整が必要となり、その都度修正してきました。チームワーク支援の必要性を強く感じられました。そのため、サービス管理責任者を中心に、マニュアルの更新やスーパーバイズの徹底を心掛けました。いまだ途上ですが、新年度も引き続き専門性の向上が図られるよう計画していきます。

新型コロナウイルス感染症が蔓延している中、消毒の徹底を行いながら、玄関に発熱感知器の設置、食卓に仕切り板の設置など感染対策を徹底しました。熱発者があり、緊張感が高まりましたが、幸い新型コロナウイルス感染症ではなく、安堵しましたが、結果がはっきりするまで、他の利用者もホームに足止めをされることもありました。また、日中通っている施設などで罹患者が発生し、濃厚接触者疑いにより足止めされることもありました。これらの場合、日中活動施設と連携しながら、利用者の安全、安心を守ることができ感謝です。

ご自宅に戻ることができない利用者の方がおられたこともあり、365日開所ができました。本来、生活の場としての働きができたことは、大いに感謝しました。

### 1. 事業概要

開設年月日：2005年8月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2006年10月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 基本理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念の唱和/ハンドブックの利用	①職員会議において、基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）	①職員会議開催時に基本理念の唱和実施。	○
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習	①理事長によるグループホーム職員合同理念研修を実施（1/13）	○

(2) 人材確保・育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③世話人・支援員とのミーティング継続 ④バックアップ職員と情報共有継続	①外部研修に参加 ②コロナ禍のため未実施 ③継続的に実施（毎月） ④サビ管がGHからの情報を取得し、朝夕礼で共有	○

(3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施	①法令順守は研修にて実施する。マニュアル化は必要に応じて変更し、共有した ②職員会議で実施（8月、2月） ③職員会議にて内容説明のみ実施 ④実施（3月）	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	①個々の必要に応じ随時実施 ②傷病時・緊急時実施体制 ③送迎毎日実施	◎
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①家族会の実施 ②定期的訪問・顔の見える支援(2回/月の実施) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難経路の掲示	①コロナ禍で未実施。 ②訪問を実施(随時) ③利用者のガイドヘルパー利用や病院受診、物品購入などの相談に関して対応実施(随時) ④掲示実施。	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①目標利用率 81% ②週末帰省の短縮に向けての支援 ③週末帰省のない利用者対応を含め 365 日開所を継続	①利用率 88.9% ②個々の家族へ対応要請を実施 ③365 日開所達成	◎
支援者の安定的雇用	①支援者間の連絡・調整の実施 ②職員の給与・残業等の検証とコストカット	①連絡ノート実施。必要に応じ、TEL など連絡実施。 ②検証し、職制で方向性を確認	○
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設(神戸聖生園)の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化(ホームの支援マニュアルの整理)継続	①バックアップ体制を整え、実施(勤務表掲載) ②グループホーム内にマニュアルを設置して実施	◎
職員の増員	①利用定員を 10 名にするため、職員増員対策強化	①職員増員を達成	◎

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等)	①近隣へのあいさつを実施	△
環境美化	①除草の実施 (年 2 回)	①実施 (随時)	△

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施 (計 2 回/年)	①2021/9/15 実施	△
感染症対策の実施	①新型コロナへの対策 ②その他の感染症対策の実施	①消毒液、飛沫防止パーテーションの設置、体温自動測定カメラなど 随時実施 ②ホーム内随時、除菌実施	◎

## 3. 出来した事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームたいのはた東  
施設長 西郷 昌一

### グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

### 2021 年度の事業報告について

新型コロナウイルスの猛威は衰えることなく、むしろ拡大し、身近な所で罹患する方が現れる中、ご利用されている利用者の方々は守られて罹患者はありませんでした。しかし、日中利用されている施設で罹患が発生したことにより、日中施設の利用が抑止され、ホームで過ごすことがあるなど、不自由な環境の場面がありました。

開所以来6年がたち、開所当時は週末に自宅に戻られ、過ごされる方も多くおりましたが、ご家族の環境やご本人の環境で週末はホームで過ごしたいとの希望が増えてきました。本年度の計画の中にも週末開所の方向性が謳われていますが、計画以上の開所ができ、利用者の皆様のニーズに沿った形で支援できたことは感謝です。

一方、新型コロナウイルスの広がりによって体験利用は計画通りには実行できませんでした。国内の罹患状況が落ち着いた時期に何名かの受け入れは出来ましたが、年間を通してみると、その利用は計画の16%にすぎませんでした。今後、社会資源としての体験利用をどのようにして展開していくかは、新型コロナウイルスの広がりの中で知恵を絞る必要があります。

### 1. 事業概要

開設年月日：2016年2月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助 (体験利用型含む)	6名	知的障害者	2016年2月1日



2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 基本理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）	①毎月第3金曜日に実施の職員会議の開始時に実施。	◎
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習	①1/13に合同研修を実施	◎

(2) 人材確保・育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③定期的なミーティングの実施（毎月第3金14:00～） ④バックアップ職員と情報共有継続	①3/2 合同で専門研修（自閉症）を実施 ②未実施 ③定期職員会議実施 ④日勤者と毎日。夜勤者は必要に応じて実施	○

(3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第3金)の実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施	①法令順守の意識化をミーティングを通して実施。支援のマニュアル作成 ②チェックリストを用いて実施 ③職員会議の中で実施 ④満足度調査を実施	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	①ニーズに基づき実施。 ②体制は維持、無実績 ③送迎システムを使い実施。	◎
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期訪問・顔の見える支援(2回/月) ②地域の方たちとの関係構築、交わりの機会提供(自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	①事務連絡のための来所や不定期的な訪問を実施。 ②あいさつや清掃活動を実施する。 ③家族からのニーズによる対応、病院受診や送迎などの対応を実施。 ④避難訓練を実施する。(9月28日)	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①利用率 85.6%維持を目指す ②体験型利用者受入れを延べ利用数10日/月を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④350日開所を目指す	①利用率 89.1% (体験除く) 利用率 75.2% (体験含む) ②年間利用延べ人数 20名 (16%) ③延べ年間人数 57人利用増加 (対計画) ④354日開所実施	◎
コスト削減	①消耗品や調味料などの無駄を省く努力 ②水光熱費等の節約 ③残業等の見直し	①喫食状況を家族と綿密に連絡。無駄を除去。 ②実施。(職員会議で確認) ③実施。(職員会議で確認)	
支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材(知人等)情報の収集と確保	①検討を実施。 ②職員の知人の紹介を依頼。	

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員への支援内容提示と共有化 （ホームの支援マニュアルの整理） ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ④環境美化・除草の実施（毎月）	①実施。（継続） ②サビ管が調整を実施。（非定期） ③外付け HDD を VPN 内に設置し、実施。 ④定期的に実施	○
体験型利用の見直し	①開所以来の体験型利用の継続について検討	①コロナ禍、体験利用者の目的などを考慮し、検討実施	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供 （自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等）	①地域全体の清掃は未実施 ホーム単独で清掃活動を実施。	◎
環境美化	①除草の実施（毎月）	①実施。（適時）	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施 （2 回/年）	① 実施。（7 月 13 日）	△
感染症対策の実施	①新型コロナへの対応 ②その他の感染症対策の実施	①消毒液、飛沫防止パーテーションの設置、体温自動測定カメラなど 随時実施 ②共有スペースの消毒実施を徹底	◎

3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸愛生園  
施設長 加藤 航

### 神戸愛生園の基本方針

1. 唯一無二の存在である利用者の命を守り、その人らしい生活が送ることができるように支援します。
2. 態度、言動がどのような影響を与えるかよく考え、人権に配慮したケアに努めます。
3. 利用者のニーズに基づき、従来からのサービスに固執せず、神戸愛生園の総合力を持って柔軟にサービスを提供します。
4. 施設機能の情報提供、相談を積極的に行い地域に必要とされるよう努力します。

### 第4期中期計画のビジョン

「ここにいて良かった！」と言える施設作りを目指します

### 2021 年度の事業報告について

昨年度に引き続き、コロナ下における事業運営が続く1年でした。地域行事などへの参加を見込んでおりましたが、地域行事自体が中止になる中、SNS を通じてご利用者の充実した生活の様子や施設の魅力を発信し続けました。

2月に大きなクラスターが発生し、利用者32名、職員26名が罹患しました。その内ご利用者では3名の方（短期入所利用者1名含む）がその影響で命を落とされた事は痛恨の極みでした。過去2年間に利用者・職員共に一人の陽性者も出さなかった事が、結果的に慢心を生み、準備不足を引き起こしたと言えます。しかしこの経験を無駄にせず、万全の備えを行い、今後もご利用者の命を守っていきます。

高齢・重度化について、医療ケアの必要な方が増え、支援の負担が増えていく中、施設での医療的ケアについて一定の基準を設けました。このことは今後の運営にも大きく影響していく事になります。

2019年度に入職したEPAの一期生の2名は今年度ローテーション勤務の大きな担い手となりました。2月新たにインドネシア人職員（1名）が着任しました。EPA外国人職員三人体制となりました。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982年5月10日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	身体障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	身体障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	5名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	神戸愛生園診療所	—	—	1984年4月10日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
業務内で理念を意識化する工夫	①アピールボードに基づいた業務遂行	①アピールボードの作製に至らず	×
	②支援実施書に全人的要素を盛り込んだ書式に改訂	②7月に各担当職員に改訂作業を指示。順次実施し全員更新	◎
	③理事長による理念研修	③2月に施設内でクラスターが発生し、達成できなかった	×
更なるEPA職員の獲得	①1名マッチング	①1名マッチングを検討したが、現場の負担を考慮し、断念した	○
	②メニューの見直し	②語学学校の期間や業務履修計画の見直しを行った	◎

(2) 人材確保の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
コンサルティング、研修等、外部資源活用の検討	①第三者評価受審	① ア) 事前セミナー実施 9/6 イ) 下半期日程の決定 利用者聴き取り 11/24 訪問調査 12/20 報告会、事後セミナーについて、2月に施設内クラスターが発生したため、次年度に持ち越し	○
近隣学校へのアプローチ（大学・専門学校にアルバイト募集）	①新型コロナウイルスの感染状況や学校の状況を踏まえ対応していく	①コロナが終息せず、全く実施できなかった。代替えとして、SNSによる発信を活発にした	○
スキルアップ、キャリアパスの明確化	①運用・評価・見直し	①職員面談にて運用	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
EPA職員が安心して就労・就学・生活できる環境の整備	①EPA職員の業務履修サポート（就学含む）と不安・困りごとの解消	① ア)在留カード更新のサポート イ)受診付き添い等を行った	◎

(3) QOLの視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
生育歴を通して、QOL、終末期を考える	①神戸愛生園での看取りの可否の判断 ②エンディングノートの作成 ③全利用者の生育歴調査	①個別事例に応じて検討した。年齢などに応じて一定の線引きを行った ②高齢の1名については完成 ③期間中の想定していた利用者については済	○ ○ ○
援助技術の向上	①介護技術向上研修継続実施 ②相談援助技術勉強会（テーマ別で実施）	①7/26、9/27 に実施 ②8/16、10/18、11/15、12/13、1/17、3/14 実施	◎ ◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
感染予防の取り組み強化	①感染症マニュアルの運用、改訂 ②感染防止対策訓練実施	①マニュアル改訂完了 ②手洗いチェッカーを実施	◎ ○
SS 受け入れ体制の改善	①コロナ禍の中、受け入れ基準を定め、受け入れていく	①食事介助時のゴーグル着用や、食事場所の特定など感染予防定めた	◎
ICT, IoT の活用	①ナースコール、インカム、眠りスキャンの連動活用	① ア)インカムの特性を生かし、情報共有、外線、来客の取次ぎ、医務との連携を行った イ)体調の監視が必要な方のベッドに眠りスキャンを設置したが、クラスター発生時に活用できなかった	○

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域行事への参加	①コロナ感染状況を踏まえ、地域行事への参加	①計画の見通し甘く、地域行事に参加するどころか、地域行事自体が中止となった	×
福祉避難所としての環境整備	①必要備品の整備 ②災害時の対応マニュアル見直し	①食料備蓄品・衛生備蓄品の保管管理を行った ②BCP 策定に向け、準備	○
広報活動の充実	①フェイスブック・インスタグラム更新 ②機関紙発行	①年間 77 投稿 ②7/1、12/1 神愛発送	◎

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
指導、育成 業務時間捻出のための 業務分析、 改善	①定期的に職制による面談機会の確保	①5月より定期面談を開始。クラスターが発生2月以外は実施	◎
建て替え委員会 の継続 開催	①資金計画の策定	①具体的に進めていない	×

## 3. 出来した事案

## (1) 新型コロナウイルスクラスター発生

2/1 ご利用者、職員に新型コロナウイルス陽性者が確認されました。その後施設内に急速に罹患者が増え、最終的にはご利用者 32 名、職員 26 名にもものぼりました。この影響で施設入所支援事業 2 名、短期入所支援事業 1 名、合計 3 名のご利用者が亡くなりました。生活支援員、看護師の多くが罹患し一時的な不足が生じたため、ライブリー・フレンズを一か月休止し通所職員を応援に充てました。また法人内外から職員の派遣やジャパンハートから看護師等の応援を頂きました。3/4 に全館隔離解除となりました。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 きたすま障害者相談支援センター

施設長 三木 卓也

### きたすま障害者相談支援センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者（児）とその家族等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係諸機関との連携を図り、障害福祉サービスの利用援助（サービス等利用計画の作成を含む）等適切な支援を行います。
2. 相談者の意思及び人権を尊重して障害特性や本人・家族のニーズ等を的確に把握し、公正・中立性を保ちつつ常に相談者の立場に立った地域生活支援の提供に努めます。
3. 相談者やその家族等のニーズ、想いを受け止め、適切な助言や情報提供等の支援ができるよう、職員の専門性の向上に努めます。
4. 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域を目指し、須磨区自立支援協議会の事務局として活発な運営を専門性とチームワークで行います。

### 第4期中期計画のビジョン

不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンターを目指します。

### 2021 年度の事業報告について

第4期中期計画の2年目は、神戸市からの事業委託（5年）の初年度でもありました。新型コロナウイルス感染症の影響は続き、地域で生活する障害のある方やそのご家族の生活や行動にも制限がありました。

多くのご相談者やご家族が日常生活の活動や社会参加への制限を受け、必要なサービスを受けることが出来なかったり、先の見通しが立たないことへの不安な気持ちや心配ごとを抱える日々の中、必要なサービスを安心して受けることができるよう、社会の一員としてつながることと孤独感を感じないよう、地域の身近なセーフティネット窓口としての役割を担いました。

また、行政、関係機関、関係団体との協働による須磨区自立支援協議会の取り組みも限定的になりましたが、新しい生活様式に見合ったスタイルのもと、これまでに培った横のつながりで協議と工夫を重ね、社会的に弱い立場に置かれがちな障害のある方やそのご家族の理解啓発のための部会活動を可能な範囲で実施しました。

ご相談者やそのご家族の暮らしや望む生活は唯一無二であり、私たちは、日々の相談支援を通じて、ご相談者にとって何が最善かを自問自答しながら、一方で、相談支援の限界を絶えず省みる必要性を感じ、相談員の自己覚知を促すケース会議や内部研修、スーパービジョンやヒアリングを重層的に取り入れながら、センター全体の相談支援力の向上につながる職場環境の整備に努めました。



## 1. 事業概要

開設年月日：2014年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	一般相談支援	－	身体障害者	2014年4月1日
	特定相談支援	－	知的障害者	
	障害児相談支援	－	精神障害者	
公益事業	相談支援事業	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2014年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
価値観と出会う場面の提供	法人基本理念の理解推進	①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 ③理念ハンドブックの読み合わせ	① ア) 年間聖句『確かに未来はある あなたの希望が絶たれることはない』の掲示 ② ア) 「基本理念」の唱和（月2回） ③ ア) 「神戸聖隷ハンドブック」学習会（毎月）	◎
理念に触れ学ぶ機会の提供	キリスト教福祉の理解	①権利擁護研修（内部）の実施 ②各種理念研修（外部）への参加	① ア) 未実施 ② ア) 新型コロナの影響により未参加	△

(2) QOLの視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
相談支援スキルの共有と向上	ケース会議	①ケース会議の開催	ア) ケース会議の開催（毎月第3水曜日）	◎
研修機会の提供	研修(内部、外部)	①研修(内部)の実施 ②研修(外部)参加	① ア) 「アンガーマネジメント」内部研修会（2月） ② ア) 障害者虐待防止研修（7月） イ) WLB研修（9月） ウ) 相談支援機能強化研修（10月） エ) 全国福祉村サミット（11月） オ) 障害者虐待対応力向上研修（1月） カ) アンガーマネジメント研修（2月） キ) 相談支援従事者現任研修（2月）	○
権利擁護と相談支援の質の向上	虐待防止、顧客満足	①虐待防止チェックリストの実施 ②顧客満足度調査の実施	① ア) 虐待防止チェックリストの実施（9月、3月） ② ア) 顧客満足度調査の実施（10月～11月） イ) 顧客満足度調査結果の公表（3月）	◎

(3) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
事業の継続受託	事業継続受託	①事業の安定運営 (2021 年度～ 2025 年度)	ア) 神戸市障害者支援課実地指導 (12 月) ※改善を要する指摘事項なし	◎
各委託調査の確実な実施	委託調査	①障害支援区分認定調査 ②福祉サービス勘案調査 ③移動支援サービス調査 ④訪問入浴サービス調査	① ア) 障害支援区分認定調査 (57 件) ② ア) 障害福祉サービス勘案調査 (360 件) ③ ア) 移動支援サービス聴き取り (17 件) ④ ア) 調査実績なし	◎
加算要件を満たす体制の維持	加算体制	①主任相談支援専門員研修の受講 ②相談支援従事者現任研修の受講 ③加算研修(行動、要医療ケア、精神)の受講	① ア) 受講に向けて体制整備中 ② ア) 1 名受講 (2 月) ③ ア) 新型コロナの影響により未受講	△
個別加算の取得を推進	個別加算	①個別加算(初回、集中支援、モニタリング、サービス担当者会議、入院時情報連携、退院・退所)の取得	ア) 初回(新規)加算(2 件) イ) 集中支援加算(17 件) ウ) 入院時情報連携加算(1 件) エ) サービス担当者会議実施加算(1 件) オ) サービス提供時モニタリング加算(2 件)	△

(4) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
スーパービジョンの実施と強化	スーパービジョン	①スーパービジョンの実施	ア) 個別スーパービジョンの実施(毎月)	◎
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング	①定期ヒアリングの実施	ア) 定期ヒアリングの実施(6 月、10 月、2 月)	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
制度の狭間にある生きづらさを抱えた方への対応	ニーズ整理	①ニーズ把握と整理 ※地域貢献部会と連動	ア) 地域福祉ニーズ（親なき後、移動支援、生活困窮、成年後見制度、ヤングケアラー）の把握と共有（毎月）	△
須磨区自立支援協議会の積極的な取り組み	須磨区自立支援協議会	①全体会／運営委員会の開催（年1回／年4回） ②作業部会（就労、共生、販路拡大、学習、親子、相談）の実施（適宜） ③発達の気になる保護者向けピアカウンセリングの実施（年9回）	① ア) 全体会（6月）※書面報告 イ) 運営委員会（11月、3月） ② ア) 就労支援部会（7月、8月、9月、11月、1月、3月） イ) ともいき部会（7月、11月、1月、3月） ウ) すまいんど部会（4月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月） エ) まなぼー!!部会（7月、10月、12月、2月） オ) 親子部会（7月、11月、1月、2月、3月） カ) 相談支援部会（8月、9月、11月、1月、3月） ③ ア) ピアカウンセリング（7月、9月、10月、2月、3月）	○
地域福祉ニーズに応じた支援の実施（公益的取り組み）	ほっとかへんネット須磨	①ほっとかへんネット須磨への積極的参画 ②具体的な取り組み内容の協議	① ア) コア実務者会（12月、2月）、総会（3月）に出席 ② ア) 分野（高齢・障害・児童）を超えた切れ目のない総合相談体制の構築 ア) 車椅子貸出事業（須磨区社協）を一部受託、実施	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
業務改善の取り組み	業務改善	①実態把握と整理 (担当ケース数、調査担当件数、計画担当件数、休日出勤日数、夜間電話当番回数)	ア) ケース会議開催時の事前準備資料を PC 上で共有することでペーパーレス化を推進 イ) 新規相談のうち、匿名相談とその他を整理し、より実態に即した支援件数を集計 ウ) 回覧済書類のファイリング方法の確認、パンフレットラックの整理に着手 エ) 人事異動に合わせて担当ケース数の平準化と担当者の一部見直しを実施	○
働き方改革への対応	働き方改革	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得 (最低5日以上) ②各職員の超過勤務時間10時間以内(月) ③WLB推進に向けた研修の実施	① ア) 有給休暇取得率 98.32% (3月末時点) ② ア) 超過勤務総時間 326 時間 (年間) (3月末時点) ③ ア) WLB 研修 (9月)	○

3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸聖隷総合相談センター  
施設長 三木 卓也

### 神戸聖隷総合相談センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供等、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう相談支援を行います。
2. 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えます。
3. 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談の対応、ニーズの把握に努め新たなサービスを創造します。

### 第4期中期計画のビジョン

**障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンターを目指します。**

### 2021 年度の事業報告について

第4期中期計画の2年目は、新たに竣工した「神戸聖隷オアシス」内の1F新事務所に移転し始めました。

ビジョンに掲げるセンターの実現に向けて、本来的な使命である地域の福祉ニーズに対応した地域交流拠点となる「Tunagari～あつまり処～」の開設に向けた準備、地域への広報・周知活動等に力を注ぎました。新型コロナウイルスの感染状況に収束の兆しが見えない中で、なかなか思うように準備が進まず右往左往しましたが、多くの方々のお支えのもと7月にオープンすることができました。オープン以後は、少しずつ地域の方々に気軽にご利用いただき、人と人のつながりが育まれる憩いの場所として浸透することを願い運営しています。

また、センターの大きな命題であるご利用者の親なき後の支援に関して、成年後見制度利用の必要性が高く、実際に制度利用を希望される方の具体的な申立て支援を実施しました。さらに成年後見制度の理解・啓発と利用促進をねらいとした勉強会の開催について、成年後見制度活用推進員会研修担当と協働で準備に参画させていただき、ご家族を対象に勉強会を開催することが出来ました。

事業の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画作成）においては、主に法人のご利用者を中心に302名の方々の希望に沿った暮らしにつながる計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供、親なき後の生活に備えたセーフティネットの役割に努め、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう丁寧な相談支援を行いました。一方で、予期せぬ家族状況等の変化により、これまでの生活が一変したご利用者に対する急な短期入所、施設入所等の速やかなサービス調整を求められることが増えており、今後、同様のニーズが想定されるため、不測の事態に即応することができる支援体制づくりを日頃から心がけていきます。

## 1. 事業概要

開設年月日：2016年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	特定相談支援	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2016年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
価値観と出会う場面の提供	法人基本理念の理解推進	①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 ③理念ハンドブックの読み合わせ	① ア) 年間聖句『確かに未来はある あなたの希望が絶たれることはない』の掲示 ② ア) 「平和を求める祈り」の唱和（月2回） ③ ア) 「理念ハンドブック」学習会（毎月）	○
理念に触れ学ぶ機会の提供	キリスト教福祉の理解	①権利擁護研修（内部）の実施 ②各種理念研修（外部）への参加	① ア) 神戸愛生伝道所牧師によるキリスト教福祉講話（毎月） ② ア) キリスト教社会事業同盟研修に参加（5月）	○

## (2) QOL の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
相談支援スキルの共有と向上	ケース会議	①ケース会議の開催	ア) ケース会議の開催（毎月）	○
研修機会の提供	研修(内部、外部)	①研修(内部)の実施 ②研修(外部)参加	① ア) 未実施 ② ア) 精神保健福祉支援者基礎研修に参加（5月、6月） イ) 相談支援ファーストレベル研修に参加（7月、9月） ウ) 兵庫県社会福祉士会ソーシャルワーク研修（10月） エ) 他職種連携研修（11月） オ) 新任障害福祉施設職員研修（11月） カ) 兵庫県相談支援強化研修（12月） キ) 事業種別研修（12月、1月、2月、3月） ク) 自閉症スペクトラム研修（3月） ケ) 意思決定支援研修（3月） コ) 若年性認知症支援研修（3月） サ) 障害者福祉とこれからの防災研修（3月）	○
権利擁護と相談支援の質の向上	虐待防止、CS	①虐待防止チェックリストの実施 ②顧客満足度調査の実施	① ア) 虐待防止チェックリストの実施（9月、3月） ② ア) 顧客満足度調査の実施（10月～11月） イ) 顧客満足度調査結果の公表（3月）	◎



## (3) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
計画相談支援、モニタリングの確実な実施	計画相談	①サービス利用支援 ②継続サービス利用支援	① ア) サービス利用支援 (268 件) ② ア) 継続サービス利用支援 (375 件)	○
加算要件を満たす体制の維持	加算体制	①相談支援従事者 現任研修の受講 ②加算研修(行動、 要医療ケア、精神)の受講	① ア) 1 名受講 (3 月) ② ア) 新型コロナの影響により未受講	○
個別加算の取得を推進	個別加算	①個別加算 (モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所) の取得	ア) 初回加算 (4 件) イ) 特地加算 (3 件) ウ) サービス提供時モニタリング加算 (2 件)	△

## (4) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
スーパービジョンの実施と強化	スーパービジョン	①スーパービジョンの実施	ア) グループスーパービジョンの実施 (毎月) イ) 個別スーパービジョンの実施 (12 月、3 月)	◎
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング	①定期ヒアリングの実施	ア) 定期ヒアリングの実施 (6 月、10 月、2 月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域の関係機関とのつながり強化	地域交流	①北須磨団地自治会ふる里まつり、運動会への参加 ②地域支え愛学習会への参加 ③地域包括ケア会議（介護保険）への参加	① ｱ) 新型コロナの影響により未実施 ② ｱ) 新型コロナの影響により未実施 ③ ｱ) 新型コロナの影響により未実施	×
友が丘総合事業に係る地域のよろず相談に対応	よろず相談	①事務所移転 ②地域への広報活動と地域ニーズの把握 ③Tunagari～あつまり処～の運営	① ｱ) 事務所移転完了（4月） ② ｱ) 地域交流拠点 Tunagari～あつまり処～の広報・周知活動（7月、3月） ③ ｱ) Tunagari～あつまり処～オープン（7/12～）	◎
成年後見制度の理解・啓発と利用の促進	成年後見	①成年後見制度勉強会の開催 ②申立て支援の必要性の高いケースの把握と優先順位付け	① ｱ) 研修打合せに出席（毎月） ｲ) 成年後見制度勉強会（11月） ② ｱ) 申立て支援を実施（2件）	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
業務改善の 取り組み	業務改善	①実態把握と整理 (計画担当件 数、夜間電話当 番回数、等)	ア) 毎月のご利用者の面談予定を神 戸地区各事業所へ事前アナウ ンスを行い連携強化を実施 イ) 各種会議の議事録作成を職員持 ち回りで分担	○
働き方改革 への対応	働き方改革	①各職員が有給休 暇付与日数の 50%以上取得 (最低5日以 上) ②各職員の超過勤 務時間5時間以 内(月) ③WLB 推進に向け た研修の実施	① ア) 有給休暇取得率 77.64% (3 月 末時点) ② ア) 超過勤務総時間 104.25 時間(年 間)(3 月末時点) ③ ア) WLB 研修 (9 月)	○

3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸友生園

施設長 井上 待子

神戸友生園の基本方針

1. 利用者の障害状況に応じたプログラムの提供に努めます。
2. 利用者のニーズに応えられるよう高い専門性を持って支援を行います。
3. 安心・安全に地域生活が営めるよう支援を行います。

### 第4期中期計画のビジョン

地域のネットワーク体制を構築出来るスキルを身に付けた職員集団を目指します。

2021年度の事業報告について

2021年度は経営的に非常に厳しい年となり、予算策定時から予算通りの事業が展開できるかどうか最大の懸案事項でありました。営業日を増やし、視覚・聴覚体制加算を再取得、利用者の利用日数を月毎に管理し、個別支援計画と照らし合わせながら1日でも多く利用していただけるように職員全員で取り組みました。同時に新規利用者の獲得に向けた見学や体験利用を実施し、5名の利用者の獲得に繋がりました。その結果、予算通りに事業をすすめることが出来ました。

新型コロナウイルスの終息の見通しが立たないなかで、利用者・職員の単発的な罹患者はでしたが、広がることなく過ごせたことは、日々の職員・利用者の感染症対策の協力があってのことだと感じています。利用者にとってはこの2年間は行事を縮小して実施しているため、「作業」中心の活動となっています。一般就労に向けた取り組みも、積極的な実習等を取り入れることが出来ず、施設内での取り組みに止まっています。「With コロナ」の新たな取り組みを検討し、利用者の働く意欲を減退させることの無いように職員の意識を高めていくことが必要だと感じました。

利用者の充実感を満たすために必要な作業量の確保については、新型コロナウイルスの影響がある中で、少しずつですが新規作業の獲得が出来ました。年度の後半には以前取引のあった企業から新たな作業提供を提案いただき、今までの品質の確保や納期厳守の取組が再取引に至ったのではないかと思います。

今年度初めから元本部の部屋を会議室として利用しています。職員会議や家族や関係機関との面談や、作業場で実施しにくい作業をサブ作業室として、ボランティアの方の作業場所として利用することが出来ています。また、WEB 会議にも使用できるようパーテーションで仕切り有効に使うことが出来ました。

### 1. 事業概要

開設年月日：1984年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	40名	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2008年4月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
理念の本質の理解と共有	①内部研修にて理念理解（理事長による研修会の実施） ②創設時の思いに触れる勉強会の実施（Web研修を企画）	① 理事長による理念研修会の実施（1/26） ② 創設時の様子や職員の思いについての勉強会を有川部長に打診、依頼していたが、日程調整に至らず未実施	△
理念の実践	①研修にて、理念に沿った支援の在り方を学ぶ（バイスティブック7原則と基本理念を考える研修の実施 2回/年）	ア)研修内容作成に取り掛かるが実施に至らず	×
虐待・不適切ケアの防止	①虐待チェックリストの実施（2回/年） ②虐待防止判定基準表の事例検討会実施（1回/年） ③接遇ハンドブックを活用した研修の実施（6回/年） ④虐待防止の内部研修を実施（2回/年）	① ア)9月、2月実施 ② ア)事例検討会の実施（1/26） ③ ア)5回実施（6月、9月、10月、12月、1月） ④ ア)津田先生による研修実施（8月）	○
日常の支援における『気づき』の共有	①職員会議で『気づきツール』の情報共有と事例検討（1回/月）	① ア)職員会議で情報共有実施 情報提供 5件 イ)ツールの利用に対して職員会議で取り組みの意図を共有し、職員に意識付けを行う。 ウ)3月職員会議にて下期総括実施	○

### (2) 人材育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
研修会への参加	①職員一人ひとりが研修会に参加（1回以上/年）	① ア)主任「気づきの事例検討会」研修参加（7月） イ)職員4名「WRB研修」参加（10月）	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
研修会への参加	②臨時職員に向けた内部研修の実施（3回/年）	ウ）職員3名「事業種別研修」参加（10月、12月、2月） エ）職員2名「多職種連携研修」参加（11月） オ）職員1名「フォローアップ研修」参加（11月） カ）課長「サビ管更新研修」参加（3月） ② ア）正規職員が講師となり研修を企画するが実施には至らず	△
実習生への指導にて資質の向上	①コロナ禍において、実習受け入れ準備・対策を検討し学生に福祉体験や学び、気付きの場を提供 ②正規職員が実習指導担当の役割を担う（1回以上/年）	① ア）コロナの影響で実習が延期 イ）実習指導者の育休中の為、社会福祉士の受け入れはなし。 ウ）トライやるウィーク3名の学生受け入れ（11月） ② ア）トライやるウィーク3名の実習指導担当を正規職員1名が担う	×
各種マニュアルの整備とブラッシュアップ	①業務マニュアルのブラッシュアップ ②支援標準化マニュアルの更新 ③作業マニュアルの整備とブラッシュアップ	① 職員間で意見交換を行い更新準備が整う ② 問題抽出を行い、一部の利用者のマニュアルを更新 ③ ア）新作業（不織布小巻作業・ステッカー作業・栄光化学）のマニュアル作成 イ）外反母趾・うおのめ作業・小巻作業マニュアルブラッシュアップ実施	○

(3) QOL の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者個々の達成感・充実感の把握と共有	①利用者個々が望む『働き方』のアセスメントと作業提供	① 実施方法について検討	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用者個々の達成感・充実感の把握と共有	②納得性のある作業評価と工賃配分の新体系導入	② ア)作業能力評価基準書案をもとに職員間で共有 イ) 評価基準調整し再評価 ウ) 評価基準確定し評定会議実施 エ) 新評価基準での工賃配分導入 オ)工賃配分規定のブラッシュアップ実施 (12月) カ)新規利用者の評定会議実施と確定 (3月)	◎
利用者ニーズに沿った多種多様な作業の確保	①年間2種目の新規作業の確保 ②神戸聖隷オアシス内「Tunagari～あつまり処～」における活動を開始	① ア) 上半期4種目の新規作業獲得 イ) 下半期7種目の新規作業獲得 ② Tunagari の営業が安定せず、施設内の検討に止まる。	○
自主生産品の充実と事業拡大	①オリジナル商品の注文書付きチラシ作成 ②ギフト商品の販売 (6回/年) ③アドアド市の定期開催 (20回/年) ④すまいんど部会の活動参加	① ア)季節ギフト商品についてチラシ作成。 イ)ギフトカタログ草案作成するも作成に至らず。 ② ア)夏ギフト・冬ギフト・春ギフト販売 (3回/年) ③ ア)緊急事態宣言・まん延防止措置発出で6回の実施に止まる。 イ)看板作成 ④ ア)販売会参加 (7月、12月) イ)すまるとんね検討会 (8月) ウ)部会定例会 (1月、3月) エ)COOP すまるとんね (1月～3月)	◎
ケース会議の実施	①利用者の生活歴の確認と理解を深めるために会議を実施 (1回/月)	① ア)5月～12月まで毎月1名ケース会議実施 イ)新年度のケース会議内容について検討開始 (3月)	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
ケース会議の実施	②作業能力評価会議（評定会議）の実施（2回/年）	② 会議の実施（5月～9月、11月、3月）	○
サービスの質の向上	①サービス提供票の更新（1回/月） ②利用者満足度調査の実施（1回/年） ③新規グループホームの検討の為、GH南落合・アリエッタ北須磨との情報共有の実施（1回/月）	① 5月～12月1名提供票更新 ② ア）調査実施（11月） イ）集計完了（1月） ウ）職員にフィードバックしホームページに掲載 ③ ア）世話人会議実施（5月、6月、10月、3月） イ）アリエッタ北須磨とは随時情報共有	○
防災・防犯対策	①防災訓練実施（2回以上/年） ②防犯訓練実施（2回以上/年） ③食料品などの備蓄購入のため、消費期限や数量の確認（1回/月）	① ア）合同避難訓練実施（8月、3月） ② ア）友が丘防火管理者で年間打ち合わせを実施（4月・5月） イ）防犯訓練は未実施 ③ ア）確認実施（5月、8月、12月） イ）期限間近備蓄品を利用者に配布（6月、12月、1月）	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
定員を守った中での利用者数の向上	①実習受け入れに関する「感染予防対策マニュアル」を作成し学校側と打ち合わせを実施 ②感染状況を注視しながら開所日を検討	① ア）特別支援学校2校の実習担当教諭と実習受け入れの打ち合わせを実施（5月、6月） イ）実習生の受け入れ実施（10月3名、12月1名） ② ア）5月の祝日開所を中止。 イ）7月・9月祝日開所実施。 ウ）映画イベントの開催日を土曜日や祝日に設定し開所日数を増やす（10月～3月まで8日増）	◎



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
定員を守った中での利用者数の向上	③新規利用者獲得に向けた活動 ④職員会議での利用者の出勤状況等を確認	③ ア) 特別支援学校実習受入れ実施 (年間4名の受け入れ) イ) 特別支援学校見学者 (上半期;教諭:6名 家族:1名 下半期;教諭:8名 生徒:11名) ウ) 相談支援センターからの見学実習受入れ (2名) エ) 一般見学希望者 1名 オ) 10月新規利用者2名	◎
		④ 毎月職員会議にて利用者の出勤状況確認	◎
作業収益の向上	①作業担当による取引先との良好な関係の構築の為、職員会議で情報の共有(1回/月)	① 日々の職員ミーティング、月毎職員会議にて情報共有実施	◎
ジョブコーチ事業の継続	①OJTによるジョブコーチの育成の為、関係機関と連携し育成の場の創出	① 新型コロナウイルスの影響で新規受け入れを断る。	×
仕事の効率化への取組	①職員会議にて効率化への検討と取り組み(1回/2か月) ②定時退勤と早期退勤を推進し、月毎に検証	① 課長、主任で効率化について検討 ② ア)職員会議にて超過勤務一覧表を作成し共有	○
経費削減の取組	①経費削減やコスト意識を高める為、職員会議にて経費、コストの把握(1回/月)と削減に向けた取り組み	① 職員会議にて消耗品予算対比表を作成し共有	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域の支援学校に対する連携強化	①支援学校の進路担当者との相談体制の構築に向けた協議の場を持つ(4回/年) ②関係機関との協力体制の構築に向けた協議の場を持つ(2回/年)	① ア)新年度利用希望の生徒に対しての協議を実施(7月) イ) 相談体制の構築には至らず ② ア)青陽須磨支援学校と在生生徒の進路について学校側と協議(10月)	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域の医療系専門学校との連携	①作業療法士 1・2 年生の実習 (1 人 2 回/年) の実習内容の再調整	① ア) 学校と協議し上半期は実習見送りが決定 イ) 神戸総合医療専門学校 PT 科 44 名見学実施 (12 月)	○
自治会及び各種団体主催イベントへの参加	①感染状況に応じたイベントの参加 ②神戸聖隷オアシス 1F フロアにて、感染症対策を行い地域住民との交流の機会を企画・実施	① 「すまるしえ」コープ横尾店での販売会に参加 (6 月、7 月、1 月、2 月、3 月) ② Tunagari が 7 月営業開始。 コロナ禍の為、利用者と地域住民との交流は未実施	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇取得の推進	① 有休取得率の向上 (目標 100%)	① ア) 年度初めに有休取得できるよう計画し、概ね予定通り取得 イ) 毎月事務員による残業と有休取得状況を報告	◎
超過勤務労働削減の取組	①職員一人ひとりの業務量の把握と改善に向けた実効策の推進	① 職員会議で超過勤務一覧表をもとに職員の業務量を全員で確認する。	○
各種マニュアルの作成・整備	①法人基本マニュアルに沿った 18 項目のマニュアルの作成・整備実施	① 未実施	×

3. 出来た事案

特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホーム南落合  
 施設長 井上 待子

### グループホーム南落合の基本方針

1. 利用者一人一人の基本的な人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者の働きたい思いを大切に「その人らしい暮らし」を支援します。
3. 継続的に就労が出来るように適切な声掛けを行います。
4. 安心・安全な生活が送れるよう環境づくりを行います。
5. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるように努めます。

### 2021 年度の事業報告について

グループホーム南落合では、新型コロナウイルスの影響が利用者の身体面に出てきていると感じる年でした。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、利用者の外出を制限せざるを得ない状況となり、その為歩行する機会が少なくなったことでの事故が多く発生しました。訪問看護や訪問リハを利用できるよう調整し、少しでも機能低下を防ぐための支援を実施しました。

地域住人との連携として、自治会役員を担っておりましたが、任期が1年であるため年度末で交代となりましたが、今後も自治会活動に積極的に参加します。

事業開始から2年が経過し、利用者の状況や支援内容も少しずつ変わってきていることから、業務内容のマニュアルをブラッシュアップ、受診の状況や服薬等の情報を更新したものを世話人で共有しました。

新型コロナウイルスの感染症対策として全員で揃って食事をするのを避け、時間差での食事を摂ることにしていますが、お誕生日会だけは全員で食事をとり、黙食を支援するようにしています。コロナ禍の細やかな楽しみになっているため、注意しながら継続していきたいと思っています。

### 1. 事業概要

開設年月日：2019年10月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	5名	身体・知的障害者	2019年10月1日

### 2. 推進状況

区分	課題	2021年度計画	実施状況	達成度
QOL	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施 ②虐待防止チェックリストの実施(2回/年)	① ア) 虐待防止研修の実施(8月) ② ア) 9月、2月実施	○

区分	課題	2021 年度計画	実施状況	達成度
QOL	健康管理	①利用者の健康状態を把握し、必要に応じて医療機関と連携を図れるよう協力医療機関に依頼	① ア) 通院支援の実施 イ) 訪問看護師と定期的に情報共有(2回/月) ウ) 通院にガイドヘルパーの活用 エ) 新型コロナウイルスワクチン接種支援の実施 オ) 入浴後の全身チェックにて身体状況把握 カ) 今年度より訪問看護、移動支援を2名の利用者が利用	○
	余暇の充実	①一人一人にあった余暇を検討	① ア) コロナ禍で行動制限をかけながら休日を過ごしていただけるよう支援。 イ) 移動支援を利用し、密を避け筋力維持ができるような外出を提案	○
	マニュアル整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ	① ア) 世話人会議の実施(5月、7月、10月、12月) イ) 業務マニュアルをブラッシュアップ	○
地域貢献	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加	① ア) 消防訓練に参加(9月) イ) 役員会に出席(4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、2月、3月) ウ) 団地清掃に参加(2回/年)	◎
財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と利用率85%維持	① ア) 利用率 95%	◎
	バックアップ機能の体制整備	①神戸友生園での日中及び夜間緊急時支援体制を整備 ②法人内グループホーム全体のバックアップ体制整備	① ア) 未実施 ② ア) 未実施	×

区分	課題	2021年度計画	実施状況	達成度
人材育成	基本理念の浸透	①世話人への内部研修実施 ②法人研修への積極的な参加	① ア) 理念研修会実施 (1月) ② ア) 未実施	○
	専門性の向上	①世話人を含む職員の外部研修への参加	① ア) 未実施	×

### 3. 出来した事案

#### (1) ご利用者の転倒事故について

2021年6月22日、グループホームに帰宅時、玄関に入ろうとした際に飛んできた虫を避けようとして転倒し、足と右目を打撲するという事故が発生しました。世話人が応急処置をしましたが、目の周りの腫れが酷くなってきた為受診しましたが、検査の結果足、腰などのレントゲンに異常なし、右目も打撲で腫れはあるが見え方に問題は無いと診断されました。最近転倒が多くなっているご利用者ですので、筋力の低下防止措置や適切な杖の使用方法、カバンの大きさ等を支援しました。

#### (2) ご利用者の転倒事故について

2021年10月14日、グループホームの玄関から隣の玄関にわたる廊下で、5段ほどある階段したに転落する事故が発生しました。ご利用者が倒れているところを同じ棟の女性の方が発見し、世話人に知らせてくださいました。世話人より緊急連絡先の施設長に連絡があり、救急車を要請、病院搬送となりました。ご利用者の意識ははっきりしており、その後CT検査を受け異常は見つかりませんでした。傷口は2cmで7針縫合し、本人の希望もあり入院して様子観察することになりました。次の日再度CT検査を行いましたが無異常で、家族と退院しました。この事故後、ホーム内に手すり設置工事を実施し、玄関入り口、ベランダへの出入り口それぞれに手すりを設置し再発防止環境を整備しました。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸光生園

施設長 吉本 ひろみ

### 神戸光生園の基本方針

1. 「隣人を自分のように愛すること」の具現化を目標に、法人の基本理念に掲げられた行動規範「個別支援の推進」「利用者の人権擁護」「職員の専門性の醸成」「地域社会との連携」を中心テーマとして支援に努めます。
2. 「利用者の笑顔」をひとつの評価の基準にし、より良いサービスの提供を目指します。
3. 利用者ひとり一人の可能性、能力、個性が発揮できる支援を行い、そのための職員の専門性の向上を図ります。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 目指そう！利用者支援の質の向上とワークライフバランスの両立

全体的に前年度からのコロナ禍により、外部との関係性が必要な取り組みは困難な1年でした。施設内で取組む目標については毎月各チームの会議を実施し少しずつですが進める事ができました。日常の習慣となった感染防止対策が功をなしたのか施設内で新型コロナウイルスに感染された方はおられず、家庭内での感染や濃厚接触による利用休止で留める事ができました。オミクロン株がでた下半期以降は子どもを持つ職員が保育所や小学校の休園・休校により勤務が出来ない状態が続き現場で職員が揃う事が珍しい事態が続きました。しかし、少しでも利用率アップを目指し、月2回の土曜開所、1月からの祝日開所にも職員が積極的に捉え参加を呼び掛けてくれた事は頼もしく感じました。中期計画については次年度がいよいよ4期の最終年度となり、新しいことよりもこれまでの取組を確実なものにしていく事が多い年でした。予定よりは少し遅れましたが新しい門扉も完成し、「ひかりマルシェ」の入場者も少しずつですが増えています。またご利用者の行き帰りにも新門扉を利用する事で車の出入りと重ならず、安全が確保されるという思わぬ効果もありました。1年を通して換気をしながらの冷暖房と言う結果からか、光熱費の削減は達成できませんでしたが、計画的な事務作業を徹底することにより残業削減は達成できました。休憩室は利用する職員が固定してきましたが、良い空間になっていると思います。増えてきたオンライン会議や研修にも活用しています。またこれまで「虐待防止」に重点を置いた研修を行ってきましたが、今年度は「権利擁護」に視点を置き実施しました。無意識に権利侵害となっていないか、日頃の関わりを振り返る良い機会となりました。

#### 1. 事業概要

開設年月日：1985年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	54名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	30名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労移行	6名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	—	知的障害者	2018年10月1日

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
理事による講演	①有川理事による講演 (1回/年)	ア)有川理事による理念理解研修実施(12/16)	◎
キリスト教精神の理解	①竹内牧師による講演 (3回/年)	ア)オンライン形式で2回の研修実施(3/3、3/10、コロナ禍のため、オンラインで2回に変更)	○
合同施設見学の実施	①上半期に参加ができる但馬のイベントを検討して神戸地区の参加事業所を決定 ②下半期に但馬のイベント参加と事業所見学	①② 新型コロナウイルスの感染拡大により中止	×

(2) 人材確保の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
職場全体で実習生を受け入れる	①職員向けの実習生の進捗状況に合わせた指導内容等をまとめた実習指導ツール(実習予定表)の運用	ア)実習生毎に実習予定表を作成し、運用(6・7・10・11・12・3月) イ)実習前に職員間での基本情報の共有実施 ウ)職員向けに実習指導ツールについてのアンケート実施・集計	◎
内部研修の充実	①外部研修を基に内部研修実施 (3回/年) ②内部研修書式の完成と活用 (9月までに完成)	① ア)自立課題についてのDVDによる内部研修実施(6月) イ)ASDの理解と支援について外部研修を基に内部研修実施(9月) ウ)てんかん基礎講座について外部研修を基に内部研修実施(12月) ② ア)内部研修書式活用(6・9・12月)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
職員の個性を生かせる研修への参加	①研修リスト作成 ②職員アンケートによる希望する研修への参加 (全職員対象・1回/年)	① ア) 昨年度の研修リストを作成(4月)して職員アンケート実施(6月) ② ア) てんかん基礎講座参加(7月)、キャリアビジョンと倫理観研修(7月)、福祉職のためのストレスケア(9月)、ノロウイルス食中毒予防研修会(11月)、介護技術(12月)、薬の知識(1月)、スーパーバイザー研修(12月～2月)、記録の書き方研修(2月) イ) 外部研修参加後にアンケート実施・集計	◎

(3) QOLの視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
快適な生活スタイルの維持	①館内の空調維持管理マニュアルの作成と維持管理の実施 ②手洗い、消毒備品の管理マニュアル作成と維持管理の実施	① ア) 館内の空調維持管理マニュアル作成と維持管理の実施(6月より) ② ア) 手洗い・消毒備品の管理マニュアル作成と維持管理の実施(7月より)	◎
オリジナルブランドの確立	①6センスプロジェクトとの差別化 ②オリジナル製品の開発	① ア) オリジナル商品の値札タグの作成と全商品に値札タグ貼り付け イ) オリジナル商品のタグの製作(3月オリジナルのタグの納品完了) ② ア) マスクケースを製作してミンネ(通販サイト)で販売	◎



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
在庫管理システムの構築	①全製品のバーコード化 ②在庫管理システムの運用	① ア) 全商品にバーコード貼り付け ② ア) 在庫管理システムの運用実施 イ) 毎月の棚卸し・データ入力と在庫確認の実施	◎
商品の販路拡大	①ネット販売の実施 ②味噌の販路拡大	① ア) ミンネでオリジナル商品と 6 センス商品 (マスクケース・エコバック数種・カレンダー) の販売実施 ② ア) 味噌の販路拡大は未達成	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
職員の休憩スペースの設置	①会議室の一部を職員休憩場所として転用 (6 月までに実施)	ア) 休憩室の設置と活用 (7 月) イ) 設置後のアンケートは未達成	△
職員の休憩時間の確保	①6 月までに試案作成 (45 分+15 分) ②7 月以降に施行して下半期より実施	① ア) 試案作成未達成 ② ア) 試案ができなかったこと、十分に職員体制が確保できなかったことにより未達成	×
支援記録ソフトの活用と業務効率化	①事故報告書とヒヤリハット報告書の書式の見直しと電子印による回覧方式の導入 (9 月) ②業務日誌のペーパーレス化 (5 月)	① ア) 事故報告・ヒヤリハット報告の電子印化は未達成 イ) NDソフトによる勉強会実施 (9/13、帳簿作成について) ② ア) 支援記録ソフトに移行 (4 月)	△
パソコンのスキルアップ	①業務効率化を図るためにパソコンのスキルアップ講習会を実施 (応用編、エクセル・ワード・パワポ 2 回/年)	ア) コロナ禍のために直接研修ができず未達成	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
コスト意識の向上	①光熱水費を対前年度比で 3%削減するためにキャンペーン実施 (年度内・3%削減)	ア)9.1%増となり未達(2020 年度 3,687,452 円に対して 2021 年度 4,023,854 円) イ)収入や経費に関する内部研修を実施(12月・1月の職員会議)	△
経費削減の取り組み	①ペーパーレス化による経費削減の実施 (対前年度比 5%削減)	ア)職員会議・業務日誌・月の報告・ケア記録についてはペーパーレス化実施 イ)8.9%の削減(2020 年度 385,198 円に対して、2021 年度 350939 円)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
ミニバザーを通して地域交流を目指す	①門扉の工事  ②ひかりマルシェの魅力向上(売り場を整える・参加作業所増)  ③地域交流を目指すためにイベント実施(地域認知度アップ)  ④年に3回のアンケートを実施	① ア)黒田建築と門扉工事の打ち合わせ実施(5月) イ)共同募金・長谷川福祉会共が不採択のため自己資金で実施(12月)  ② ア)陳列台と陳列ケースが完成(10月)して11月より使用開始 イ)参加作業所は2事業所(NPO法人ポポロ・なっとう工房)  ③ ア)イベント「サマーフェスタ」を実施して月平均より36%増(7月)  ④ ア)アンケート実施(7月・9月・11月)	◎
防災イベントの継続	①防災イベントの実施(11月)	ア)一般客が参加する形でのイベント実施(11/13)	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
福祉避難所の機能充実	①防災物品置き場の整理 ②福祉避難所開設訓練の実施(11月) ③不足物品の購入	① ア)2階倉庫内の不用品廃棄・整理(8月) イ)防災倉庫の整理と物品リストの作成(9月) ② ア)福祉避難所開設訓練の実施(10月) ③ ア)福祉避難所関連備品購入(10月)	◎

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
防犯対策の充実を図る	①警察の協力による防犯訓練の実施(1回/年) ②不審者対策の実施	① ア)3月の職員会議で関連映像による研修実施(直接訓練は未実施) ② ア)1月よりガイド事業所への身分証掲示依頼と職員の身分証(ネームプレート)着用実施	△
残業時間の減少への取り組み	①半日土曜開所を活用した効率的な業務の仕方の継続推進 ②支援記録ソフトを活用した業務効率化の推進	① ア)土曜開所の午後に中計に関する会議や準備・館内清掃(エアコン・屋上等季節的なもの)・書類作成業務を実施 イ)9%の削減(2020年度 1749:17時間 2021年度 1587:55時間) ② ア)支援記録ソフトのレクチャー実施	○

3. 出来た事案  
特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名グループホームみなみたもん  
管理者 吉本 ひろみ

グループホームみなみたもんの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」が実現できるように支援します。
3. 安心して安全な生活が送れる環境づくりを行います。
4. 地域の一員としての役割を担えることを目指し、「障害理解への啓発」に努めます。

新型コロナウイルス感染症対策は、広くない県営住宅を改修したホームでは人と人との距離を保つ事が難しい課題でしたが各居室で過ごす事には随分慣れて下さったようでした。しかし、以前のように余暇を楽しむ機会が限られ、溜まったストレスを他の入居者へ向ける方もあり少しでも楽しい機会をと、利用者降園後の神戸光生園の食堂を利用してクリスマス会を行いました。世話人の皆さんも多数参加しても十分なソーシャルディスタンスが取れるスペースで、食事とゲーム、プレゼントをととても喜んで頂けたことは良かったと思います。幸いに、どなたも感染することはなく1年を過ごせた事は本当に有難いと感じました。引き続き感染対策・体調管理・感染予防物資の備蓄などを継続し、また世話人にも健康管理を呼びかけ安心・安全なホームでの生活を提供することが出来ました。

### 1. 事業概要

開設年月日：2014年5月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	5名	知的障害者	2014年5月1日

2. 推進状況

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2021 年度計画	実施状況	達成度
Q O L	利用者が安心できる環境の提供	①入居者の後見人・保佐人との良好な関係を維持し、本人の意思と権利を尊重した支援を実施 ②利用者の居室や共用部分においてプライバシーに配慮した住みやすい住環境を提供 ③個々のマニュアルを基に、統一した支援の実施	①ア) 入居者 5 名中 4 名に後見人・世話人がおり、情報共有及び連絡調整を行い、入居者本人の希望に沿えるよう聞取りを実施 ②ア) 各居室は個別の空間として配慮を行いつつ、掃除や整理整頓など自立に向けて一緒に取り組む等の支援を実施 ③ア) 個々のマニュアルは未着手	○
	健康管理	①糖尿病・高血圧など持病の状態を把握し、主治医と連携して増悪の防止	ア) 各入居者の持病を把握し、就労先や利用事業所と連携して健康管理に努め、定期的な受診の調整や服薬管理を実施	○
	地域との連携	①地域の一員として自治会行事へ積極的な参加 ②自治会へ役員として参加	①ア) コロナ禍により地域の行事は中止 ①ア) 今年度は役員当番はなし	△
	防災対策	①消防設備を使用し、避難訓練・通報訓練の実施（年 2 回） ②災害時を想定した防災訓練の実施（年 1 回）	①ア) 2 回/年の避難訓練・通報訓練を実施 ①ア) 避難訓練時に、地震想定災害訓練を実施	○
財務	利用率の安定維持	①週末の余暇支援や体調不良時の日中支援など入居者が安心して生活できる環境の維持 ②定期的な帰省を維持し、経営の安定と生活のリズムを確立	①ア) 新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、余暇支援の調整を実施 イ) 日中支援事業所や就労先と体調等の情報共有を行い、切れ目のない支援を実施 ②ア) 1 名は定期的な規制の支援を行い、他 4 名は帰省先がないため余暇支援の充実を支援	○

区分	課題	2021 年度計画	実施状況	達成度
	堅実なバックアップ施設	①緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 ②安定的な支援体制の確立（支援員の育成）	①ア) 日中支援事業所や就労先と連携して、臨機応変な対応を実施 ②ア) 新たな支援員の確保と育成を実施	○
	積立金の計上	①将来に備え可能な限り修繕積立金を計上	ア) 積立金の計上実施	○
人材育成	キリスト教理念の浸透	①基本理念におけるキリスト教精神の理解 ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	①ア) 月 1 回の会議時には基本理念の唱和・ホーム内に年間聖句を掲示 ②ア) 活用未実施	△
	専門性の向上	①世話人・生活支援員の研修実施	ア) 下半期に権利擁護の研修（レポート）実施。	△
	虐待防止・人権擁護の取組	①全員参加の内部研修を 1 回実施（バックアップ施設にて実施） ②関係機関等の外部研修に参加 ③月 1 回定例の世話人会議を実施、支援方法や利用者対応についての相談を実施 ④年 2 回の虐待防止セルフチェックの実施	①ア) 全員参加の内部研修実施（3 月・レポート形式） ②ア) 理事長によるグループホーム職員対象の理念研修に参加（1/13） ③ア) 世話人会議時に支援困難な利用者対応について具体的な対応方法をレクチャー ④ア) 虐待防止セルフチェックの実施（9 月）	△

### 3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名グループホームふくだ  
管理者 吉本 ひろみ

### グループホームふくだの基本方針

1. 利用者が自分の意思で暮らすことができ、基本的人権が守られる支援を行います
2. 利用者がお互いを尊重し、助け合って生活できるような毎日を目指します
3. 1人ひとりの個性を認め、プライバシーを重視した生活を提供します
4. 地域の中で、社会の一員として「ふつうの暮らしを楽しむ」事を支える支援をします

年間を通して新型コロナウイルス感染症対策と向き合わざるを得ない状況でした。特に1月に入居者の方の通所事業所でクラスターが発生し、結果的にはグループホーム内のご入居者・職員への感染はなかったものの、PCR検査や自粛期間中ホーム内で過ごして頂く事が2度あり、ご入居者・職員への負担感は大きいものでした。複数事業所に通われる方が暮らすホームですのでお互いの早期の連絡・報告等が重要になる事を痛感した1年でした。また、拘り行動が強い方への支援の難しさから、職員の専門性が求められていますがコミュニケーション不足から職員間の意思統一にも困難さを感じました。そうした事が「出来た事案」として現れる原因になっていると反省致しました。職員ひとり一人の話を聞き、それぞれのご入居者への思いはあると感じられたものの、結果として円滑な人間関係の構築が出来ていない事もわかりました。まずはご入居者が安心して穏やかに暮らす場を提供する為には何が一番大切なのかを共に考えられるよう話し合いの機会を重ねていく必要性を感じました。

### 1. 事業概要

開設年月日：2017年5月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2017年5月1日

2. 推進状況

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2021 年度計画	実施状況	達成度
Q O L	利用者が安心できる環境の提供	①成年後見制度の活用を奨励 ②家族や後見人との良好な関係の維持 ③利用者にとって居心地の良い住空間の提供とプライバシーの尊重	①ア) 新たな制度利用はなし ②ア) サービス管理責任者を中心として、良好な関係性を維持 ③ ア) 虐待防止セルフチェックを実施(2回/年) イ) プライバシーを尊重しつつ、季節ごとの衣替えや家財道具の整理の実施	○
	マニュアルの整備	①業務マニュアルと利用者の個別支援マニュアルの定期的な更新 ②個々のマニュアルを基に統一した支援の実施	①ア) マニュアルの見直し実施  ①ア) 支援マニュアルは適宜更新実施	○
	地域との連携	①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃等地域の活動に参加 ②地域行事(夏祭り)などへの積極的な参加	①ア) 自治会に加入、ホーム周辺を自主的に清掃実施  ②ア) コロナ対策により行事中止	△
	防災対策	①年 2 回の避難訓練の実施 ②年 1 回の防災訓練の実施	①ア) 避難訓練、通報訓練実施(2回/年) ②ア) 避難場所と備蓄品の確認(11月)	○
財 務	利用率の安定維持	①週 7 日のサービス提供と、利用率 90% 維持	ア) 休業することなく、サービスを提供、年間利用率 96.6%	○
	堅実なバックアップ施設	①コーディネーター(サービス管理責任者)配置によるバックアップセンター機能の検討	①ア) 月 1 回の会議に管理者が参加し、管理者・課長との情報共有 ②イ) バックアップ機能の検討には至らず	△
	積立金の計上	①将来に備え可能な限り修繕積立金を計上	ア) 修繕積立金計上	○



区分	課題	2021年度計画	実施状況	達成度
人材育成	キリスト教理念の浸透	①基本理念におけるキリスト教精神の理解 ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	①ア) 月1回の会議時には基本理念の唱和 イ) 理事長による理念研修に参加(1月) ②ア) 未実施	△
	専門性の向上	①世話人・生活支援員の専門研修への参加 ②法人内 GH 世話人・生活支援員の合同研修会を検討、実施	①ア) 会議時に内部研修を実施 障害者理解(5月、6月)車椅子介助方法(9月)血圧に関する研修(11月)ヒヤリハット研修(2月)虐待防止研修(3月) ②ア) 法人内での世話人合同研修は未実施	○
	虐待防止・人権擁護の取り組み	①全員参加の内部研修を1回実施(バックアップ施設による) ②支援員・世話人の専門性向上の為の研修実施 ③サービス管理責任者、管理者による月1回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてサポート ④年2回の虐待防止セルフチェックの実施	①ア) グループホームふくだにて内部研修実施(3月) ②ア) 職員会議時に内部研修を実施(5月、6月、9月、11月、2月) ③ア) 職員会議時に支援困難な方への対応方法を共有実施 ④ア) 虐待防止セルフチェックを実施(2回/年)	○

### 3. 出来した事案

(1) 2021年12月に神戸市監査指導部より電話にて「匿名による虐待通報があった」と連絡がありました。通報内容は、特定の利用者や職員を名指したものではありませんが、拘り行動が強く支援困難な入居者に対する支援に関する内容でした。神戸市監査指導部からは職員・利用者への聞き取りと防犯カメラの確認の指示があり、翌日には管理者・サービス管理責任者でカメラで夜間支援の様子を確認し、休日には入居者への聞き取りを実施しました。12月から3月にかけて職員への聞き取りを行い、明らかな身体的暴力などは確認できませんでしたが、支援方法についての統一が出来ておらず職員同士の連携が機能していない事がわかりました。職員会議で周知し、一定の統一を図りましたが今後も継続し定期的な振り返りを行います。神戸市へは文書にて結果報告を行い、電話にて「第三者から見て不適切な支援とみられないような接遇を心がけるよう研修の機会を設ける、拘り行動への制止については身体拘束にあたる可能性がありご家族への説明、基準等を明確にしておく事」という指導がありました。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸明生園  
施設長 山本 隆志

### 神戸明生園の基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 「あたりまえの暮らし」と「その人らしい暮らし」の実現を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

ご利用者、ご家族、職員が安心して過ごせる環境（人・物・経営）の実現を目指します。

### 2021 年度の事業報告について

2021 年度も基本的な感染症対策の徹底を行いました。結果として 2022 年 3 月に入所利用者 11 名、職員 8 名が感染したクラスター事案が起きてしまいました。この件により、通所利用者、短期入所利用者が利用できない期間があり、大きな負担をかけました。

法人及び、行政、しあわせの村、施設関係者の協力に支えられ、困難な事案を乗り越えることができたことを、次年度しっかりと振り返り、今後に生かしていく必要があります。

利用実績及び予算達成においても、感染症事案の影響を大きく受けました。

予定していた計画が変更となった部分もありましたが、利用者支援に必要な事項については、困難な状況においても着実に実施してくれた職員に感謝しています。

コロナ禍においても実施可能な行事内容の検討と発展をさせる努力が求められており、次年度以降の課題として残りました。施設で生活されている利用者へ、生活の中に楽しみを増やし、ユニットごとでの小さな変化を提供していますが、閉塞感を解消できるまでには至っていません。既存の行事に代わり得るものを提供できるように工夫を続けていきます。

数年来の課題であった入所定員が 60 名に変更できました。このことが、入所者及び家族に評価いただけるように引き続き QOL の向上が求められています。

### 1. 事業概要

開設年月日：1991 年 9 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	知的障害者	2015年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	80名	知的障害者	2015年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	10名	知的障害者	2015年10月1日
公益事業	日中一時	—	知的障害者	2015年10月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念 研修を開催し、日常 支援を理念の視点 で振り返りを行う	①基本理念研修の開催（年2回） ②平和を求める祈りの唱和（コロナ禍のため、黙読）（週1回）	①10月26日に施設内各ユニットからオンラインで実施予定 ②毎週月曜日に黙読実施中	○
歴史資料館に関する研修の実施	①歴史資料館の見学に相当する内容の研修を実施（年1回） ②法人DVDの視聴、神戸明生園の建設の経緯を学ぶ	実施出来ず未達成	×

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
施設内の各種マニュアルの更新	各種マニュアルの作成・更新	8月実施	○
研修内容の更新と研修の実施	施設内研修の実施（年7回） 小グループ研修の実施 感染症研修の実施 オンライン研修の継続	7月、8月、9月、11月、12月 ユニット毎に実施中	◎
エルダー制の確立	エルダー制に使用する習熟度チェック表の活用	フォローアップという形で振り返り シートに基づいた聞き取り面談実施	○

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
各種学校より実習生の積極的な受け入れの実施	実習生の受け入れ基準の提示を行い、基準に基づき実地実習を提供する	感染症蔓延下での基準を学校に提示済 緊急事態宣言下以外は受け入れ実施（頌栄短期大学、親和大学）  次年度の社会福祉士実習受け入れ決定（男性1名）	◎
職員寮の検討	借上げ実施（5室） 下半期開設を計画	延期中	×

(3) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
定員60名への変更	定員60名への変更（下半期当初）	8月2日に実員60名となり、10月1日付変更	◎
生活スペースの再整理	委員会開催（年6回） 寮再編成へ向け案の作成	6月、9月の2回のみ開催 停滞 第1案、2案と作成し検討 1月に会議実施で確認	△
支援提供の基準作成マニュアル内容の更新	提供している支援内容の整理（基準整理）  各種マニュアル作成・更新（人材確保育成と同一）	手順書の順次改定で利用者個々は進んでいる。 各ユニット内の整理が進んだ  8月実施済み	○
チェックリストの継続的实施	継続実施（3か月毎）	6月、9月実施済	○
接遇研修の実施	研修開催（年2回） オンラインを活用し実施	4月1回目実施（各ユニットでオンライン） 2回目が実施出来ず	△
スローガンポスターの掲示と更新	スローガン掲示と更新（3か月毎）	4月、7月、10月、1月 掲示済み	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
積立金の継続実施	積立金の計上	下記の大規模修繕や収支差額により積み立て実施（感染症の影響あり、減）	△
短期入所の提供継続	短期入所の提供を継続（50%） 感染症への配慮のもと実施	50%未達となった。クラスターの影響も受けた	×
計画的修繕の実施	新館ボイラー更新・キュービクル内部部品交換、高圧ケーブル交換の実施（再見積もりを行い、内容精査）	高圧ケーブル工事实施（既存設備の図面不一致で工事内容を変更し実施） キュービクル内の部品交換実施（地域の停電の悪影響を受けにくくなった） 自家発の不具合発生で急遽予定外であったが全交換を実施した	○

(5) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
災害時 BCP の作成	感染症蔓延時の BCP 作成（9 月）	作成できたが、クラスター経験を踏まえて次年度に内容の見直しが必要	△
備蓄品の強化	①不足備蓄品の購入（10 月） ②ポータブル発電機のオーバーホール	①循環備蓄品入れ替え中 ②ポータブル発電機稼働可能となった ポータブル電源 1 台購入（8 月）	○
福祉避難所運営マニュアル策定	感染症蔓延下でのマニュアル案に変更（9 月）	改定未完了	×
業務省力化の実施	IOT の導入完了（8 月）	ルンバ 4 台、ブラーバ 3 台導入し、機種の見直し実施 眠りスキャン追加導入完了（5 台）	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
パートタイムワーカーの充足	食事支援時のパートタイムワーカーの充実	1名継続雇用中(ダブルワークのため感染症の影響を受け勤務日数が結果的に減少した)	△

(6) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
医療福祉部会への参加	①参加情報共有(年4回) 医療福祉部会内の研修参加 ②しあわせの村祭り将来検討委員会への職員派遣含む	①部会は3回参加済 ②しあわせの村祭り将来検討委員会へは2名派遣した	○

3. 出来した事案

(1) 施設内クラスター事案の発生について

2022年3月1日から27日までの間、入所利用者11名(男性2名、女性9名)、女性職員8名が新型コロナウイルス感染症に罹患しました。入所利用者は全員施設内療養となりましたが、幸い全員軽症または無症状で療養終了することができました。困難な状況においても、丁寧な利用者支援を実践した職員には大きく感謝しています。

## 2021年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 ケアホームきたすま  
 (共同生活援助)  
 管理者 山本 隆志

### 2021年度の事業報告について

2021年度もご利用者、ご家族、職員ともに新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けつつ、過ごしました。特にバックアップ施設でのクラスター事案発生時は、ホームで終日過ごすこととなり、課題が残りましたが、職員の協力で乗り切ることができました。

高齢重度化したご利用者への支援の手間の増加に対応すべく、実施した食材配達サービスの導入に加えて、インターネット通販の導入により、日用品の購入の手間を支援にすることができました。

ご利用者の自宅帰省機会の減少から結果的に、利用率の増加が見られています。

ノートパソコンとインターネット回線の整備により、職員が感染症をはじめとした、研修動画を個別に見ることができました。自閉症スペクトラム障害についても、動画を含めた国の研修資料を全職員で確認することができました。引き続き、入居ご利用者の地域生活をお支え出来るように、バックアップ施設との連携強化を図りますが、職員の補強も今後の課題として残っています。

### 1. 事業概要

開設年月日：2009年3月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	5名	知的障害者	2015年10月1日

### 2. 計画の推進状況

#### (1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2021年度計画	実施状況	達成度
QOL	高齢・重度化への対応	① バックアップ施設との連絡を密に実施 ② 業務内容を整理 ③ ホーム内茶話会の実施(年1回)	① 送迎時に実施 ② 買い物内容の整理実施(通販の活用) ③ 書面、個別のみ実施	○
	利用者の安全の確保	① 火災訓練の継続 ② 体調不良時のバックアップ施設活用	① 職員のみ実施 ② 実施	○
	地域生活の定着	① 近隣との良好な関係維持のため、地域清掃への継続的な参加を行う ② 移動支援等外部サービス利用の継続	① コロナ禍で今年度も中止 ② 一部縮小した	△
財務	予算に沿った収入の確保	① 利用率の安定	① 帰省が減り安定した	◎
	設備改修・永続的運営に向けて	① 積立金の継続的な実施	② 月次管理し、予定通り実施できた	○

人材育成	専門性の向上	①オンライン研修の提供 ② 虐待防止の徹底（防止研修及び3か月に1回のチェックリストの実施継続） ③個別支援計画内容の充実 ④バックアップ体制の強化 神戸明生園及び、聖隷総合相談センターとの連携強化を継続	① 感染症に関して提供、実施、自閉症関連も実施 ② 実施中 ③ 取り組めず ④ 適時実施した	○
------	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	---

3. 出来た事案

特にありません



## 2021 年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
神戸市立ワークセンターひょうご  
しごとサポート中部  
神戸障害者就業・生活支援センター  
障害者雇用就業・定着拡大推進事業  
所 長 森 崎 康 文

### センター（4事業）の基本方針

1. 法人の基本理念のもとに、標記の4事業を一体的・有機的に運営する。
2. 障害者が「1人でも多く、1日でも長く」一般就労できるよう支援する。
3. 個々の訓練生・相談者に適した就職支援・定着支援を継続的に進める。
4. 関係機関との連携の強化に努め、障害者の一般就労の伸展を目指す。
5. 神戸地域における障害者就労支援の中核施設として、その専門性の向上を図る。

### 第4期中期計画ビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

### 2021年度の事業報告について

第4期中期計画の2年目となる2021年度は、2度の緊急事態宣言発出などがある中、就労支援を通して利用者の地域生活を支えるとともに職員が就労支援のエキスパートとして働ける職場づくりに努めてきました。

まず、共通の重点実施項目中で主なものとして人材育成と地域貢献の報告をいたします。まず、人材育成ですが、今年度は、内部研修の充実に力を入れてきました。具体的には、NHKのビデオ教材を用いて、就労支援の動向を学習するものや、コロナ禍において改めて「障害」を考える内容など6つの講座を設けました。ビデオ鑑賞のあと、グループワークを実施し、各テーマについて考える機会を持ちました。各職員がビデオ教材を通して新たな気づきを持つことができたと同時に、現場職員が自ら研修を企画、運営する良い機会ともなり、意義ある取り組みとなりました。

次に、重点項目として位置づけていた地域貢献ですが、新型コロナウイルス感染拡大により、実施はできておりません。今年度の開催は難しい状況ですが、第3期計画で築けた近隣小学校との関係を維持できるよう、次年度、学校訪問を実施したいと考えております。

続いて各事業ですが、ワークセンターひょうごでは、訓練内容の充実に取り組んできました。職員が、座学班（ビジネスマナー講座）、コミュニケーション能力の向上を目指すコミュニケーション班、ワークサンプル班、訓練生の現状を客観的に把握するためのチェックリスト班に分かれ作業を進めてきました。座学班は教材の作成を進め、9月には1回目の座学を開催しました。以降、教材の修正や訓練生のグループ分けなど微調整を行いながら、月1～2回のペースで開催しました。コミュニケーションについては、CST（コミュニケーション・スキルズ・トレーニング）講師との意見交換会・学習会を実施しました。現状の課題や今後のコミュニケー

ション訓練の内容を検討しています。ワークサンプル班では、ピッキング訓練の充実に向けて取り組みました。最後に、チェックリストですが、半年ごとに訓練生の就労への準備性を確認でき、今後の就職活動に活かせるものを作成し、11月から運用しています。

次に、就労相談部門についてですが、コロナ禍ではありますが、感染対策を講じながら、個別の相談支援はもとより、相談者向けのプログラムや各関係機関との会議など、各種委託事業を誠実に遂行してきました。

## 1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労移行支援事業 －神戸市立ワークセンターひょうご－	30名	知的障害	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労定着支援事業	－	知的障害	2018年8月1日
公益事業(市委託)	相談支援事業 －しごとサポート中部－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	1996年4月1日
公益事業(国委託)	相談支援事業 (雇用安定) －神戸障害者就業・生活支援センター－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日
地域生活支援事業 (県委託)	相談支援事業 (生活支援) －神戸障害者就業・生活支援センター－			
公益事業 (県補助事業)	職場開拓事業 －障害者雇用就業・定着拡大推進事業－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
【共通】 法人内研修への積極的参加	法人内研修への参加	①法人内研修への参加(各職位別研修、理念研修など)	ア)主任・副主任研修(5、7、9月)、 イ)一般職員研修(6月) ウ)法人創業記念式典(6月) エ)法人事業種別研修(10、12月) オ)理念研修(11月) カ)法人総合職員研修(3月)	◎
【共通】 神戸聖隷ハンドブックの活用	会議等での神戸聖隷ハンドブックの活用	①ハンドブックを活用した職員によるお話	ア)ハンドブックの輪読や法人紹介DVDの鑑賞を通して法人の理念や成り立ちを職員と学習	△
【共通】 法人理念の共有	基本理念の唱和	①全体職員会議での理念唱和	ア)各会議の最初に法人理念の黙読を実施	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
【共通】 内部研修、外部研修の効果的な活用	外部研修の活用	①外部研修参加	ア)45の外部研修に計104名が参加	○
	内部研修の活用	①内部研修実施	ア)ビデオ教材による内部研修を実施(9/22、9/30、10/15、10/19、11/4、11/9)	○
	外部資源の活用	①就業支援アドバイザーの活用	ア)新型コロナの影響により、講師と日程調整がつかず、未実施	×
	権利擁護意識の向上	①虐待防止事例検討会の実施(年2回)	ア)1/13、1/17に実施し、職員8名が参加	○

## (3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
訓練内容の充実	訓練プログラムの充実	①他施設見学  ②訓練内容検討	① ア) 就労移行支援事業所を1か所見学 イ) ひょうご障害者ワークフォーラムに参加し、企業や相談機関の情報収集を実施  ② ア) ビジネスマナーの教材作成と座学を実施 イ) コミュニケーション訓練の充実を目的とした CST 講師との意見交換会 ウ) 各訓練生の職業準備性把握を目的にチェックリストを作成し、3月より運用を開始	△     ○
	外部訓練の拡充	①体験実習先開拓	ア) 各支援学校にコロナ禍での実習の実施状況を確認 (5月) イ) 訓練生の雇用実績のある物流関係企業に体験実習受け入れ依頼を行い、了承済み (6月) ウ) 兵庫駅周辺事業所のべ11回訪問 (11～12月) エ) 上記訪問先1か所で訓練生3名が見学・体験学習を実施 (12月)	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
【共通】 職場定着 支援の継 続	在職者の交 流促進	①在職者交流会 の実施（年 4 回）  ②ドリーム、ほ っとロビーの 実施	① ア)年 3 回の企画を行っていたが、 緊急事態宣言の発出等で実施は 1 回にとどまった。  ② ア)会場変更に伴い、説明会を開催 （6 月） イ)ドリーム更新手続きを 2 回実施 （7 月） ウ)ドリームを実施（10、12 月） エ)ほっとロビーは新型コロナ感染 予防のため、休止	△  △
	就労定着の 促進	①就労定着支援 事業の実施(定 着交流会の実 施)	ア)11 名と契約締結 イ) 定着交流会はコロナウイルス感 染拡大防止の観点から未実施	△
【就労】 利用者・相 談者の利 便性向上	相談者の利 便性向上	①土曜開所継続 （月 1 回開所） ②土曜開所回数 の見直し	① ア)毎月第 3 土曜日に実施し、年間 電話 24 件、来所 13 件の相談が あった  ② ア)件数を踏まえた結果、次年度も 回数は変更せず、月 1 回開所と する	○  ○
	就労相談支 援の拡充	①生活困窮者等 支援及び地域 関係機関支援	ア)自立相談支援事業実施機関や福 祉事務所への助言 99 件/年 イ)合同移動相談会を 3 回実施	○
【就労】 就労相談 支援の充 実	相談者の現 状とニーズ 把握	①現況調査(葉月 作戦) の継続 （年 1 回）	ア)調査票を発送（7 月） イ)返送された現況調査票の集計を 実施し、報告書を作成	○
【共通】 支援マニ ュアルの 整備によ る円滑な	マニュアル 作成・更新	①マニュアル作 成、運用と見直 し	ア)特に見直し作業なし	○

業務遂行				
実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
【共通】 ワンストップサービス機能の拡充	重層的な相談支援の実施	①生活、発達、就労の一体的な相談支援の現状把握	ア)「中の島会」でケースの共有を実施 イ)障害者相談支援センター及び発達窓口と 8 ケースで連携を実施	○
【共通】 虐待防止セルチェックリストの実施	虐待防止の促進	①チェックリストの実施	ア)チェックリスト実施(9月、2月)	○
【共通】 顧客満足度調査の実施	虐待防止の促進	①調査実施と集計	ア)訓練生 15 名、その家族 13 名に調査実施。返信率は 93.3% (ワーク・11月) イ)対象者 21 名に調査実施。返信率は 67% (就労相談・12月)	○
【共通】 虐待防止研修	ニーズの把握	①虐待防止研修の実施	ア)虐待防止事例検討会と並行して虐待防止研修会を計 2 回実施(1月)	○

(4) 経営の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
【共通】 事業内容の充実と誠実な遂行	ネットワーク会議の開催	①関係機関との連携会議の開催	ア)第 1 回ネットワーク会議は開催時期を延期し、その後オンラインで実施(6月、62名参加) イ)第 2 回ネットワーク会議はオンラインにて実施(2月、50名参加) ウ)第 1 回就労移行支援部会を開催(8月、41名参加) エ)第 2 回就労移行支援部会を開催(12月、36名参加) オ)第 1 回教育関係機関就労支援連絡会議を開催(8月、15名参加) カ)第 2 回教育関係機関就労支援連絡会議を開催(3月、18名参加)	○
	相談者の実習の機会の	①神戸市トライアル実習、訓練	ア)トライアル実習の公募(6月) イ)トライアル実習の面接(7月)	○

	確保	雇用の実施	り)実習実施 (7、8、9月) え)しごとサポート卒実習実施 (10～12月の間で4クール) わ)訓練雇用の対象3名の支援を実施した	
【ワーク】 積極的な 営業活動	ワークセンターに関する情報発信	①見学受入 ②学校等訪問 ③HP更新と内容の充実	① ｱ)13件、45名の見学者を受け入れ ② ｱ)13校を訪問し、次年度の募集要項を配布 ③ ｱ)職員対象にHPリニューアルに関するアンケートを実施 (5月) ｲ)毎月HP更新	○ ○ ○
	訓練生確保	①途中入所者の確保 (3名/年)	ｱ)途中入所者1名を確保 (5月) ｲ)しごとサポート東部、学校関係に途中入所者に関する営業活動を実施	×
【ワーク】 利用者の 出勤率と 職場定着 率の向上	安定した出勤率の達成	①出勤率	ｱ)法定利用率 47.95% ｲ)利用者出勤率 89.14%	△
	職場定着の促進	①定着率	ｱ)毎月の職員会議で就労定着支援利用者の状況把握を実施 ｲ)定着率(42月以上 78月未満) : 88.2%	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
【共通】 地域交流 の継続	地域の人々との関係構築	①地域交流の継続	ｱ)8月に予定していた地域交流は、新型コロナウイルス感染拡大及び緊急事態宣言のため、中止	×
	地域貢献	①地域清掃活動	ｱ)9月の雇用啓発キャンペーンと連動して実施予定していたが、緊急事態宣言のため、中止	×

【就労】 地域内の 関係機関 の支援力 向上	地域内の支 援者支援	①中部ネットワ ーク会議（年3 回）	① ア)第1回中部ネットワーク会議実 施（6月） イ)第2回会議は、当初8月を予定 していたが、緊急事態宣言中の ため、10月に延期し実施 ウ)第3回会議を11月に開催	○
		②6者会の開催	② ア)オンラインにより、毎月実施	○
		③就業支援基礎 研修（年1回）	③ ア)就業支援基礎研修を、職業セン ターと共催（8月）	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
【共通】 ワークラ イフバラ ンスを意 識した働 き方の励 行	仕事と家庭 生活のメリ ハリ	①超過勤務、有 給休暇取得の 状況確認	ア)超過勤務が月30時間を超える職 員なし イ)有給休暇取得は、すべての職員 が5日以上取得済み ウ)取得率ワーク 86.6%、就労相談 100%	○
	風通しの良 い職場づく り	①職員面談の実 施（年4回）	ア)定期的な職員面談を実施（5、6、 7、10、2月）	○

3. 出来た事案

特にありません。



## 2021 年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
グループホームアリエッタ北須磨  
施設長 森 崎 康 文

### グループホームアリエッタ北須磨の基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権と主体性を尊重した支援を行います。
2. 利用者が元気に職場等に出かけ、安心して帰って来ることができる“心の拠りどころ”となり、「一日でも長く」働き続けられるように支援します。
3. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるよう努めます。

### 第4期中期計画ビジョン

グループホームでの生活支援と就労支援機関との連携を通して、就労している障害者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

### 2021 年度の事業報告について

第4期中期計画の2年目である2021年度も昨年度同様に、新型コロナウイルスへの対応を第一に、事業運営を行ってきました。手指消毒、毎朝夕の検温、外出時のマスク着用の徹底はもとより、ドアノブなどの共用物の消毒や食事提供方法を食堂対応から個室対応に変更するなど、感染予防に努めています。結果、ホーム開設から現在まで新型コロナウイルスへの感染者はありません。今後も利用者のみなさまが安心して生活でき、かつ職員も安心して働ける環境を整えて行きます。

トピックスとしては、①基本的な生活支援のマニュアルの作成・見直し、②避難訓練の調整があげられます。

1つ目の基本的な生活支援のマニュアル作成ですが、昨年度に作成したマニュアルをもとに、新型コロナへの対応など最新情報を加味し、内容の更新をしました。また、利用者の医療面でのケアに関する事が増えたため、確実な対応ができるようにマニュアルを見直しました。入居者の状況として、コロナ禍で部屋にこもり、体を動かすことが減ったため、体重が増加した方が数名おられました。ホーム近辺での散歩を促し、少しでもリフレッシュしてもらえよう声掛けをしております。コロナの影響は、悪いことばかりではなく、家にいる時間が増えた分、ご自身で調理する日が以前より増えたり、掃除や洗濯などをご自身で行えるよう職員が支援する時間が増えたことにより、見守りがなくても行えるようになるなど、IADLの向上が見られました。今後も、利用者がより快適かつ安全に生活できるように、定期的に支援マニュアルを見直し、より良いものにしていけるように努めて参ります。

2つ目は、避難訓練実施に向けての調整ですが、昨年度は避難訓練が実施できなかった現状を受け、年度内の実施を目指し、関係業者との調整を進めてきました。結果、10月23日（土）に実施しました。今回の訓練を通して、利用者のみなさまへの緊急時の避難への意識づけを図るとともに、日常的な意識付けも同時に行っていきます。

最後に、経営面についてですが、ホームが開設して2年強が経過し、入居者も生活に慣れ、

利用率は80%を維持できています。金額としては、前年同月実績より93千円上回っていましたが、当初目標としていた予算よりは、111千円下回ることとなりました。要因として、週1日のみ利用している入居者がおり、その方の利用頻度に変化がなかったことが挙げられます。高齢の親元から自立して生活ができるよう、入居者の想いに寄り添いながらアプローチを行うことを、次年度の課題として持ち越したいと思います。

## 1. 事業概要

開設年月日：2020年1月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2020年1月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
【共通】 法人内研修への積極的参加	法人内研修への参加	①法人内研修への積極的参加	ア) 新型コロナの影響やシフトの関係上、参加なし。	×
神戸聖隷 ハンドブックの活用	会議等での神戸聖隷ハンドブックの活用	①聖隷ハンドブックの活用	ア) 職員シフトの関係上、職員会議が4月に1度しか実施できず、時間の関係上、ハンドブック活用できず。	×
法人理念の共有	基本理念の唱和	①法人理念の共有	ア) 談話室に理念を掲示。今後の職員会議では理念の唱和を実施する。	×

### (2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
研修の効果的な活用	外部研修の活用	①外部研修参加	ア) 職員体制やシフトの関係上、参加なし。	×
	内部研修の活用	①内部研修実施	ア) 職員体制やシフトの関係上、未実施。	×
権利擁護の推進	権利擁護意識の向上	①虐待防止研修等への参加 ②虐待チェックリスト（セルフチェック）の実施	① ア) 上半期、参加なし。下半期に、内部で虐待防止研修を実施予定。 ② ア) 虐待チェックリスト実施(9月、2月)。	×

## (3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの整備	マニュアル作成	①基本的な生活支援のマニュアル作成 ②個別のスケジュール作成	① ア)各シフトの支援内容や職員の動きを整理し、新型コロナ対策を踏まえたマニュアルを更新。 ② ア)生活面で課題のある利用者については、見守りや直接的な支援の必要性があり、スケジュールを更新。	○ ○
健康管理	医療機関との連携	①健康管理	ア)利用者の体調不調時に、施設の協力医療機関や利用者のかかり付け医をタイムリーに受診。	○
防災対策	避難・防災訓練の検討	①消防設備点検 ②避難訓練等の実施	① ア)消防設備点検を実施し、所管の消防署に報告済み(6月) ② ア)消防避難訓練を10月に実施。	○ ○

## (4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
収支の改善	収支状況の把握と改善策の検討	①稼働率の把握 ②宿泊回数が少ない利用者への利用勧奨	① ア)毎月、利用率の把握を実施。80%以上を維持。 ② ア)就労先の勤務再開を機に、本人にGH利用日数を増やすことを提案するも、将来への不安から前に踏み出せない状況。今後、利用に向けての声かけを継続	○ ×
堅実なバックアップ体制構築	バックアップ体制の構築	①緊急時のワークセンターひょうごによる速やかな対応とフォロー	ア)ワークセンターひょうご職員が、夜間も含めて緊急時に対応できるような体制を確保。	○

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域との連携	地域とのつながりをつくる	①地域でのイベント等への参加・協力	ア) 新型コロナの影響で地域のイベント等が中止。	×

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
ワークライフバランスを意識した働き方の励行	仕事と家庭生活のメリハリ風通しの良い職場づくり	①超過勤務、有給休暇取得の状況確認	① ア) 超過勤務については、業務上必要な場合を除いては基本なし。 イ) 有給休暇取得状況の確認(9月、2月)	○
		②職員面談の実施	② ア) サービス管理責任者との世話人等によるコミュニケーションを日常的に実施。	△

## 3. 出来た事案

特になし

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
ひょうご障害者相談支援センター  
神戸市障害者基幹相談支援センター  
神戸市発達障害者中部相談窓口  
所長 森崎 康文

### センターの基本方針

#### 【ひょうご障害者相談支援センター】

1. 障害のある方（以下、「相談者」という）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が住み慣れた場所で暮らせるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を行います。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。
3. 障害の有無に関わらず、住み慣れた場所で安心して暮らすことができるよう、関係機関との協働のもと、区自立支援協議会事務局として協議会の活発な運営を担います。
4. 兵庫区障害者地域生活支援拠点として「見守り支援事業」の委託を受け、障害者の見守りを各関係機関と連携しながら行い、相談支援機能と地域社会資源の連携体制の構築に取り組みます。

#### 【神戸市障害者基幹相談支援センター】

1. 市内の特定相談支援事業者の統括および、区自立支援協議会と市自立支援協議会・神戸市施策推進協議会の連携に向けた後方支援等を行うことにより、神戸市の相談支援体制の強化に貢献します。
2. 兵庫県下の各圏域との協働を通して、人材育成を含めた神戸市の相談支援体制の拡充と新カリキュラムに基づいた初任者研修、現任者研修、新たに主任相談支援専門員研修を実施します。

#### 【神戸市発達障害者中部相談窓口】

1. 発達障害のある方（以下、「相談者」という。）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が自立した地域生活と社会参加ができるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を提供します。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。

### 第4期中期計画のビジョン

障害のある方が安心して地域生活を続けていけるよう身近な相談機関としての役割を果たします。

## 2021年度の事業報告について

全事業共通として昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策のため、緊急事態宣言時には時差出勤を取り入れ、事務所内の密を避けるために会議室や研修室でも業務ができるように環境を整えました。また日々の感染防止対策も継続し、職域接種で希望者にはワクチン接種を実施する等安心して働ける職場環境に努めました。

また今年度から5年間の指定管理の更新を行い、安定的な事業運営を継続しています。

まず最初に障害者相談支援センターですが、自立支援協議会の事務局として各部会運営を行いました。5月の全体会は中止となり書面での報告となりましたが、感染対策を講じながら順次6月以降各作業部会を再開しています。コロナ禍でも安心して参加できるようオンラインを活用し情報共有の場として、課題の抽出をしました。見守り支援事業では対象者への具体的な訪問やアウトリーチに取り組み始めましたが、神戸市からの度重なるコロナによる訪問自粛要請により積極的なアプローチには至りませんでした。各区に配置された見守り支援員間の定期的な連絡会に参加し意見交換を行い、地域ケア会議に参加する等関係機関との関係構築に努めました。また委託の調査業務（認定区分、勘案、移動支援）では、訪問を基本としていますが、感染への懸念から訪問に抵抗を感じている方には電話で聞き取りを行う等対象者の状況に応じて対応しました。また個別ケースを深めるために自立支援協議会の専門職派遣で大学講師から助言を得たり、個別支援会議を開催し、支援者が困難を感じるケースへの対応に関係機関とも協議する機会を持ちました。

次に基幹相談支援センターは、定期的な圏域コーディネーター会議や階層別の会議だけではなく、更なる市内特定相談支援事業所や市内相談支援センターの後方支援に取り組めるよう積極的に事例検討会に参加しファシリテーション力を身に付けられるように働きかけました。市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会では、参加者の密集を避けるため、少人数で同じ内容を4回開催し、相談支援専門員の質の向上に努めました。また「きののの〜き」では月1回オンラインを活用し、支援センター職員を対象に経験年数に関係なく、その都度タイムリーな話題で意見交換を行いました。初任者研修では新型コロナウイルスの影響で開催日が大幅に遅れたものの、企画構成委員のリーダーとしてメンバーを牽引し、より良い研修を実施できるよう関係各所と調整を行い、オンラインを活用することで、3月末には研修修了証を169名（内神戸圏域50名）に交付することができました。

最後に発達障害者中部相談窓口では、地域活動支援センターとの連携を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、積極的な訪問等を行えず電話、メール等で関係構築に努めました。また発達障害者への理解と啓発を目的に「おいでやすカーニバル」で相談ブースを設けることを企画していましたが、開催中止のため担当区（中央区、兵庫区、長田区、須磨区）にある専門学校にアンケート調査を実施しました。窓口のアピールと発達が気になる生徒について聞き取りを行い、支援につながりやすい関係作りに努めました。専門性の向上では関西学院大学の講師が巡回相談で来所し、ケース検討を通じて個々の相談員のスキルアップを図り、毎月他の相談窓口との連絡会でも事例検討を行いました。またグループセッションやペアレントトレーニングではファシリテーション力が求められることもあり、積極的に研修会に参加しました。

## 1. 事業概要

開設年月日：2002年7月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 （第2種）	一般相談支援	—	身体障害児・者 知的障害児・者 精神障害児・者	2002年7月1日
	特定相談支援	—		
	障害児相談支援	—		
公益事業	神戸市発達障害者中部相談窓口	—	発達障害者	2009年7月1日
公益事業	神戸市障害者基幹相談支援センター	—	相談支援事業者	2012年5月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
法人理念に触れる機会を活かし研修に参加	理念研修に参加	①法人理念研修に参加	ア) 法人創業記念式典（6月） イ) 法人事業種別研修（10、12月） ウ) 法人フォローアップ研修（11月） エ) 吉川牧師による理念研修（11月）	○
聖隷ハンドブックの活用	ハンドブックを活用した職員によるお話し	①職員会議時に職員からお話し	ア) 感染防止対策を行い職員会議時に職員のお話し（毎月）	○
法人基本理念の唱和	全体職員会議時に唱和	①全体職員会議時に唱和（2ヶ月毎）	ア) 新型コロナウイルス感染防止から職員の密を避けるため、全体職員会議は中止、書面にて情報共有 イ) 各セクションの職員会議時に法人基本理念を黙読（毎月）	△

## (2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
多様な相談に応じることができる職員を育成できるよう育成プログラムを活用	定期ヒアリング SV の定例実施	①定期ヒアリング(3回/年) ② SV (3回/年) 2週間以内に記録を整備、提出	① ア) 職員と定期ヒアリングを実施(8、2月) ② ア) 機能強化員と副主任によるスーパービジョン(6、10、2月) イ) SV 実施後は記録を課長、所長に提出(毎回)	○
内部研修、外部研修の効果的な活用	内部研修の実施 外部研修の参加	①内部研修の企画、立案、調整、実施(2回/年)	ア) 担当者による打合せ(5月) イ) NHK 福祉ライブラリーDVD を活用しテーマ別研修を企画(7、8月) ウ) 内部研修としてテーマ別に6回に分けて実施(9～11月)	◎
人員配置増に伴い業務内容を整理	職員配置の増員につき業務分担、内容を整理	①市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会の充実	ア) 市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会を4回開催。参加者38名、サービス等利用計画の評価、行政説明、報酬改定の座談会(12月) イ) 初任者研修修了者を対象にファーストレベル研修、参加者41名(7、9月) ウ) きほんの～き ZOOM 配信(各月)年間延べ147名の参加者	○
初任者研修の企画構成委員として企画運営及び実施	初任者研修の企画、構成、実習受け入れ調整	①新カリキュラム導入に伴い円滑な研修の企画、構成	ア) 初任者研修企画構成委員会にて演習役割確認、インターバル期間の課題、講師打合せ(各月) イ) 初任者研修受講者169名(神戸圏域50名)に修了証を交付(3月)	○



## (3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
定期的なケース検討	区打ち合わせ 朝礼、職員会議	①毎月の区との打ち合わせ ②朝礼時のケース共有 ③職員会議時にケース検討	① ア) 区との打ち合わせは新型コロナウイルスの感染状況をみながら対面又は電話で行う ② ア) 朝礼時に気になるケースは随時報告、連絡のノートで遅番や休みの職員にも共有 ③ ア) 職員会議時にケース検討（4、5、6、7、10、11月1ケース、12月個別支援会議について） イ) 専門職派遣による個別支援会議（11月2ケース、12月2ケース、1月1ケース、2月1ケース）	○
発達障害者相談窓口と地域活動支援センターとの連携	地域活動支援センターの訪問、ケース共有	①地活との連携により、ケースを深める（3回/月）	ア) 中央地活、地活ヨハネ、地活長田、ゆめのの集いに連携が必要なケースの確認を行う（毎月） イ) 地活長田、ゆめののつどいに見学日程調整（8、10月） ウ) 発達障害者支援センター担当係長が地活担当連絡会に出席、窓口との連携について説明（11月）	○
ワンストップサービス機能の定着	各事業所間の共有	①各事業の進捗状況の確認及び共有	ア) 発達、就労、支援センター連携ケース（5月1ケース、6月3ケース、7、9、10、12月各1ケース、11月2ケース）	○
虐待防止セルフチェックリスト	サービスの質の向上	①虐待防止セルフチェックリストの活用	ア) 法人虐待防止チェックリスト実施（9、2月）	○
顧客満足度調査		①顧客満足度調査の実施（1回/年）	ア) 顧客満足度調査計画相談契約者10名、発達相談窓口15名（12月）	○

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
虐待防止研修	サービスの質の向上	①虐待防止チェックリストの活用 (2回/年)	ア) 神戸市虐待防止マニュアル研修(7月) イ) 障害者虐待対応力向上研修(10、11月) ウ) 神戸市虐待防止研修(1月) エ) 事業所部会虐待防止研修(12月) オ) 虐待を疑われる案件を5ケース兵庫区に通報	◎
環境整備		①アメニティーの向上	ア) 担当者間で打合せを行い、掲示物の整理、更新(毎月) イ) 感染防止対策としてソファ、手すりの消毒、飛沫防止パネル設置(毎日)	○

(4) 財務(経営強化)の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
神戸市からの委託業務継続	自立支援協議会、調査業務、見守り支援事業、相談支援体制強化、相談窓口機能	①自立支援協議会事務局運営(各部会、運営委員会、総会)	ア) 総会中止、書面報告(5月) イ) 運営委員会(4、6、8、10、12、2月) 相談支援部会(7、9、11、1、3月)3区合同(須磨、長田、兵庫区/9月) 事業所部会(6、8、10、12、3月) 防災を考える部会(6、12、12、2月) 活性化部会(4、7、9、11、1、3月) のりあいネットワークプロジェクト(3月) ハートンマルシェ(11、12月)	◎
		①調査業務(勘案、区分、移動支援)	ア) 調査件数上半期(勘案334件、区分36件、移動支援92件) 下半期(勘案338件、区分49件、移動支援101件)	◎

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
神戸市からの委託業務継続	自立支援協議会、調査業務、見守り支援事業、相談支援体制強化、相談窓口機能	①見守り支援事業 (関係機関連携、連絡会)	ア) 見守り支援員連絡会 (毎月) イ) 区内8か所のあんしんすこやかセンターにパンフレットを配布し、啓発、事業案内 (4月) ウ) 地域ケア会議に出席 (10月)	○
		①相談支援体制強化 (圏域コーディネーター連絡会、階層別連絡会)	ア) 圏域コーディネーター連絡会にて兵庫県より情報提供、圏域の相談支援関連の状況、意見交換 (毎月) イ) コーディネーター連絡会 (5、7、9、11、1月) ウ) 機能強化員自主連絡会 (毎月) エ) センター連絡協議会 (毎月)	○
		①発達障害者相談窓口機能 (相談員連絡会、PT、GS)	ア) グループセッション (6、7、10、11、12月) イ) ペアレントトレーニング (4、5、9、10、11月)、終了者交流会 (3月) ウ) こうべ若者サポートステーション業務説明会 (3月) エ) 関西学院大学巡回相談 (10月)	○
加算要件を満たす体制確保	事業所加算の取得	①指定研修修了者を配置	ア) 初任者研修受講終了者2名 (3月) イ) 精神障害者支援研修 (12月) ウ) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修受講 (1月)	◎
個別ニーズへの対応	計画相談、一般相談支援の取り組み	①計画相談26件、地域定着2件、地域移行1件	ア) 計画相談契約者1名介護保険施設入所のため終了 (10月) イ) 障害児計画相談新規契約者2名合計25名 (3月末現在) ウ) 生活状況が安定した3名は他の特定相談支援事業所に移行し終了 (5、2、3月) エ) 地域定着支援3名終了 (3月)	△

## (5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握と対応	身体知的相談員連絡会の開催	①地域課題の抽出 (3回/年)	ア) 相談員の高齢化、新型コロナ感染への懸念より連絡会は中止、報告書を回収し神戸市に提出(12月) イ) 相談員連絡会、研修会(8月)	○
地域ニーズの把握と対応	ほっとかへんネットへの参画	①関係機関との連携 (実務者会、生活環境改善事業研)	ア) ほっとかへんネット兵庫役員会に出席(5、7、12月) イ) 福祉何でも相談員研修(7月) ウ) 相談プロジェクトチーム会議(6、7、8、9、12月) エ) 災害時支援活動プロジェクト会議(11、12、1、2月) オ) 福祉避難所風吹き出し訓練(3月)	◎
地域ニーズの把握と対応	発達障害者の理解と啓発	①おいでやすカーニバルで相談ブースを設置	ア) 「おいでやすカーニバル」中止のため、専門学校を対象に発達障害に関するアンケート調査を実施、支援の必要性を確認	○
	災害時要援護者支援	①障害者支援センターとして避難訓練の実施	ア) 近隣特養と基幹福祉避難所開設訓練は新型コロナの感染拡大に伴い未実施 イ) 危機管理マニュアル改定に伴い要援護者支援について職員会議で周知(11月) ウ) 区内4か所の基幹福祉避難所に挨拶、顔合わせ(12、1月)	○

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
働きやすい職場作り	有給休暇の取得推進	①計画的付与 (5日以上)	ア) 取得率79.9%	○
	超過勤務の軽減	①各職員の超過勤務を月/10時間以内	ア) 月/10時間を超える職員はなし イ) 超過勤務月/7.5時間(職員1名)(2月)	○

## 3. 出来た事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 ひょうごデイサービスセンター  
施設長 大嶋 信幸

ひょうごデイサービスセンターの基本方針

1. 利用者に重い障がいがあっても、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『笑顔と真心』で支援する。
2. 利用者の『人権を尊重』し、『喜びと感動』を生み出すサービス提供に努める。
3. 利用者と家族の悩みや課題をしっかりと受け止め、個別支援計画に基づき、『専門性とチームワーク』による『質の高い思いやりのあるサービス』を提供し、『地域社会に貢献』する。
4. 今までの手段や方法にこだわらず、人の持つ『知恵と無限の可能性』を信じ、『絶えず前進』することに努める。

### 第4期中期計画のビジョン

地域生活支援拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します。

職員が安心して働き続けられる事業所を目指します。

2021 年度の事業報告について

第4期中期計画も2年目を迎え、各チームのリーダーを中心に一人ひとりが事業計画の到達点を意識して主体的に取り組み、概ね計画通りに推進しました。

コロナ禍により多くの制限がある中でしたが、初めて近隣の2校の中学校からの「トライやるウィーク」「トライやるアクション」の受け入れを行うことができました。感染対策により期間や時間は短縮となりましたが、地域との関りの希薄さが課題でしたので、地域の学生にセンターを知って頂けたことは大きな前進です。この取り組みが継続するように関係構築に努めていきます。

中期計画を通してエルダー制度の運用や装着型介護ロボットの導入、内部研修による支援力の底上げ等に力を入れて職員の定着を図ってきましたが、残念ながら年度の途中に日中事業所で2名の退職者が出て、結果的に年度末まで欠員補充をすることができませんでした。また、夜勤専任支援員が12月末に退職し、短期入所事業の受け入れを制限せざるを得ない状況になりご利用の方にもご迷惑をかけてしまいました。改めて人材確保の厳しさを痛感しました。今年に入り夜勤専任支援員を2名採用し、現在育成に取り組んでいます。このような状況でしたが、地域生活支援拠点として延べ71名の緊急短期入所の受け入れを行えたことは、ご利用者やご家族の安心に繋がったと感じています。

経営面では、昨年に引き続きご利用者の入院や自粛が多く、初めてコロナの影響による休業(4日)も経験しました。重度の障害者を支援する通所事業所として非常に厳しい状況におかれています。さらに、4名の方のご逝去も重なり、職員にとっては辛い1年となりましたが、ビジョンに掲げた「利用者とその家族が安心して地域生活が続けられるように支援します」を第一に考え、限られた職員体制の中で前向きに取り組みました。課題は多くありますが、知恵を出し合いながら、引き続きご利用者に安心して利用頂けるように努めていきます。

## 1. 事業概要

開設年月日：1996年5月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	25名	身体・知的障害者	2006年10月1日
老人デイサービスセンター(第2種)	共生型通所介護		要介護高齢者 障害者	2018年9月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	10名	身体・知的障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	重心・生活介護	20名	重症心身障害者	2012年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	短期入所	6名	身体・知的障害者	2016年4月1日
公益事業	日中一時支援		身体・知的障害者	2018年10月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
理念研修の実施	外部講師を招いた研修	①外部講師を招いての研修実施(年2回)	ア)講師決定(5月) イ)講師依頼(7月) ウ)講師打ち合わせ(9月) エ)第1回基本理念研修(10月) オ)振り返りアンケート実施 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため第2回(1月)は中止	○
職員のリードによる法人基本理念、ひょうごデイサービス基本方針の唱和	職員のリードにより週1回法人基本理念、ひょうごデイサービス基本方針の唱和	①法人基本理念とひょうごデイサービス基本方針を毎週月曜日の朝礼で唱和	ア)毎週月曜日朝礼にて唱和 イ)夜勤専任者会議にて基本理念とアクシスひょうご基本方針を唱和(7月～) *感染対策のため代表者のみ音読	◎
神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い	神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い	①輪読と意見交換(月1回)	ア)意見交換会(分かち合い)実施(5月、6月、8月、10月、12月、2月) イ)テーマ、意見交換会の方法について検討(7月、9月、1月、3月) ウ)理念理解についてのアンケート実施(11月)	◎
接遇ハンドブックを用いた勉強会	接遇ハンドブックを用いた勉強会	①接遇ハンドブック等を用いた勉強会(年4回)	ア)セルフチェックシート(表情が意識できているか)作成(6月) イ)チェックシート配布、集計(8月、9月、11月) ウ)接遇アップキャンペーンに合わせ接遇ハンドブック読み合わせ実施(7月、10月、1月)	○

## (2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
職員の知識と技術の向上	外部研修への参加	①外部研修参加 (年 12 回)	ア)年間 6 回参加(法人研修除く) *昨年度のアンケート結果に基づき、希望した研修に 4 名参加	△
	内部研修の実施	①内部研修(年 4 回) ②外部研修受講者による報告会	① ア)第 1 回内部研修実施(6 月) 「衣類の着脱・マルチグローブ研修」 イ)第 2 回内部研修実施(9 月) 「てんかん研修」 ウ)第 3 回内部研修実施(12 月) 「感染症対策研修」 エ)第 4 回内部研修は新型コロナまん延防止等重点措置期間中のため中止(2 月) ② ア)外部研修受講者が講師となり「てんかん」研修実施(9 月)	○
身体的・精神的負担の軽減	エルダー制度の確立・運用	①継続した運用、見直し ②専門職のエルダーマニュアル作成	① ア)習熟度チェック表の改訂を実施 イ)面談の持ち方について書式の作成を実施 ウ)記録記入サンプル作成の検討 ② ア)専門職はエルダーマニュアルを変更し習熟度チェック表作成(7 月)	○
	介護福祉機器等の運用・検討	①装着型介護ロボットの計画的運用 ②装着型介護ロボットの運用の見直し	① ア)運用チェックシート作成予定を変更、中止(7 月) イ)日毎の業務分担表へ装着チェック欄を設定(10 月～) ② ア)装着型介護ロボット運用シフト作成(9 月) イ)介護ロボットの置き場所の見直し(9 月) ウ)介護ロボット装着に際しての課題抽出(12 月) エ)次年度へ向けての再考(3 月)	△

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
	職員の不安の把握、対応策の検討、実施	①職員の不安の把握継続と方法の見直し ②職員アンケートの結果に基づき対応策検討	① ア) 意見箱を継続して設置 イ) 意見箱に投書 1 件(事案について職制共有、対応) ② ア) 職員アンケート実施	○

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの作成・更新と有効的な活用	エルダー制度と連携したマニュアルの活用	①マニュアルの活用方法の見直し	ア) 配布マニュアルに各事業所の 1 日の業務マニュアルを追加(6 月) イ) 配布マニュアルの使い方を再考 ウ) エルダーマニュアル更新(11 月)	◎
	支援の標準化を目指したマニュアルの活用、見直し	①マニュアルの更新 ②マニュアルの活用方法及び更新方法の検討と実施	① ア) 個別支援計画マニュアル更新(5 月) イ) 所在不明時の対応マニュアル更新(6 月) ウ) 福祉機器マニュアル更新(7 月) ② ア) 他の中期計画実行チームと連携して活用方法を検討(9 月) イ) 活用方法についてチーム内で検討(11 月)	○
医務機能の維持・強化	医務ミーティングの開催	①医務ミーティングの定期開催(月 1 回)	ア) 医務ミーティングを月に 1 回開催(4 月～3 月) イ) 医務業務に必要な情報・課題を共有(4 月～3 月)	◎
	ひょうごデイ全体での協働体制の確立	①ひょうごデイサービス全体での医務協働体制の検討・準備、試行	ア) 年間計画に沿って看護業務・医療的ケア業務の習得・引継ぎを実施(4 月～9 月) イ) 習得・引継ぎ該当職員の退職意向に伴い年間計画の変更を検討(10 月) ウ) 医療的ケア一覧表の見直しを実施(11 月) エ) 次年度の事業計画策定についての方針を共有(3 月)	△



実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
利用者支援の再考	送迎・入浴等支援業務の見直し	①各セクションの業務課題抽出及び見直し ②ひょうごデイ全体での相互協力体制の検討	① ア) 昨年度実施したアンケートから課題抽出 ② ア) 事業所間での職員の業務(活動プログラム)体験実施 *まん延防止等重点措置期間中断	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2021年度計画	実施状況	達成度
日中活動利用を視野に入れたアクシスひょうごの計画的な受け入れ	ひょうごデイ、他事業所利用者の日中利用促進とそのため受け入れ調整	①将来を見据えての短期入所利用を推進 ②計画的な受け入れによる日中活動プラス利用促進	① ア) 事業所別利用状況確認(5月) イ) 多機能型生活介護利用者利用推進(6月1名、7月2名、9月1名、10月1名、11月1名) ウ) アプローチ対象者の短期入所支給量の把握(6月) ② ア) 緊急時に備え日中利用を含めたアクシス利用受入実施(9月～3月)	○
利用率安定のための待機者確保	受け入れ可能になった時に備えた待機者確保、待機者のスポット利用のお誘い	①待機者リストの作成 ②関係機関との連携による新規利用者の発掘	① ア) 待機者受付表作成(4月) ② ア) 友生支援学校実習スケジュール確認(5月) イ) 友生支援学校次年度以降の卒業生確認(7月) ウ) 友生支援学校実習受け入れ(10月、11月)	△
一日の受け入れ人数増のための事業所内整備	受け入れ可能人数増のための事業所内整備	①障害特性に合わせた快適な環境の整備	ア) 職員アンケート実施(6月) イ) アンケート結果を基に環境整備に適した場所を検討(8月) ウ) 広い廊下スペースにパーティションを設置し個室化(11月) エ) 個室化スペースに壁掛けテレビの設置を検討(2月)	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
コスト削減を含めた収支バランス健全化の全体での周知徹底	コスト削減	①削減項目の見直し ②見直した削減項目の現状把握及び着手	① ア)職員アンケート実施(6月) イ)結果を基にコスト削減対象決定(ペーパータオル、コピー用紙) ② ア)ペーパータオル消費データ収集 イ)「エコ活動」として、紙資源を大切にす啓発ポスター作成 ウ)職員会議にてエコ活動の周知、意識啓発(9月)	○
	利用者費用負担の伴うオプションサービスの実施	①オプションサービスの項目検討及び立案	ア)水光熱費の利用者負担根拠について神戸地区日中事業所の状況を確認(8月) イ)基準省令を確認(9月) ウ)確認をした結果、水光熱費の徴収は不可と判断(1月) エ)利用者負担の伴うオプションサービスの実施については見送ることを決定(2月)	△

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域との交流からニーズを把握	交流プログラムの企画・作成・実施	①地域交流プログラム計画の検討及び実施 ②「トライやる・ウィーク」の受け入れ	① ア)ワークキャンプ受入回答(5月) イ)ワークキャンププログラム検討(7月) ② ア)兵庫中学校より「トライやる・ウィーク」代替プログラムでの依頼(6月) イ)須佐野中学校より「トライやる・ウィーク」依頼(9月) ウ)トライやるウィーク事前訪問(10月) エ)須佐野中学校トライやるウィーク受入(11月) オ)兵庫中学校トライやるアクション受入(11月) カ)トライやるアクション事後訪問中止⇒郵送にて作成資料受取	◎

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
業務プロセスの見直しと構築	業務内容の洗い出し、業務分担の見直し	①送迎業務の見直し ②業務分担の見直し	① ア)送迎業務：多機能型支援員、インクルージョン添乗業務実施(5月～8月、10月) ② ア)アクセス入浴課題抽出(5月) イ)アクセス入浴体制検討(7月) ウ)アクセス夜勤支援員入浴業務実施(9月～) エ)アクセス入浴業務体制策定 オ)新体制で試行(1月～)	○
	パソコン共有データファイルの整理	①データファイルの整理 ②整理方法のルール策定	① ア)共有フォルダのデータ整理 ② ア)整理方法ルール決定(3月)	○
	ICT 化等による環境の整備	①情報収集 ②導入機器検討、予算化	① ア)服薬管理ソフトを中心に情報を収集 ② ア)服薬管理ソフト『服やっくん』のメーカーによる説明会を実施(7月) イ)デモンストレーション開始予定であったが緊急事態宣言に伴い延期(9月) ウ)『服やっくん』デモンストレーション実施と導入の検討(12月～2月) オ)検討の結果導入見送り(3月) カ)ケア記録・業務日誌等のデータ化について今後の展望をチーム内で共有(10月) キ)一部記録の Excel 入力準備および実行(11月～)	○
有給休暇取得方法の見直し	有給休暇取得状況の把握と計画的取得	①希望有給休暇の調査 ②計画付与での勤務シフト作成	① ア)年度末に 2022 年度の調査実施 ② ア)勤務表作成時に計画付与を実施	○

実行計画	計画内容	2021 年度計画	実施状況	達成度
緊急ショート受け入れ体制の整備	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	①マニュアルの更新 ②年末年始緊急受け入れ体制の整備	① ア) 緊急受入事業マニュアルの確認 ② ア) 年末年始緊急受け入れ体制の整備について共有 職制会議、職員会議 (6 月、12 月) 運営会議 (7 月、11 月、12 月) イ) 「年末年始緊急受入に備えた待機手当」 常任理事会で承認 (8 月) ウ) 年末年始緊急受け入れ体制について運営会議で協議 (10 月、11 月、12 月) エ) 「年末年始緊急短期入所の受け入れマニュアル」 の作成 (12 月) オ) 年末年始待機職員を配置 (12 月)	◎
夜間緊急時の対応の整備	通常夜間緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施	① ア) マニュアル追記 (夜勤専任者会議を隔月開催) イ) 利用前の健康状態の把握のため「申し送り票」作成 (9 月) ウ) 感染予防対策マニュアル (DVD) を共有。(1 月) ② ア) 緊急時対応について課題を抽出 イ) 抽出した課題 (AED 操作、胸骨圧迫、速報アラート着信対応、非常時 (火災、地震) の対応等) に基づき、初動訓練や対応等の勉強会を実施 (6 月、7 月、12 月、1 月) ウ) 内部研修にて「感染予防」対応訓練を実施 (2 月)	○
	一人夜勤緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施		

### 3. 出来した事案

(1) 特にありません。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸市立自立センターひょうご  
施設長 大森 陽子

神戸市立自立センターひょうごの基本方針

1. 利用者の人権を尊重し『心の声』に耳を傾け、寄り添い、共に歩みます
2. 利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支えるため、『福祉のプロ』集団として、個々の専門性を高め、チームワークによる質の高いサービス提供を目指します
3. 地域の社会資源として、諸機関・諸団体と連携し、地域福祉の向上に努めます

### 第4期中期計画のビジョン

利用者・家族の今日と明日を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります

2021 年度の事業報告について

第4期中期計画の2年目となる今年度は、特に力を入れて取り組んでいくことを3つ掲げていました。

1 つ目は、職員の支援力の向上です。加齢による身体機能の低下等が見られるご利用者への支援を充実させるために、理学療法士による「移動支援勉強会」を実施し、安全な支援のポイント、基本的な介護技術についての学びを深めました。そして、特に必要なご利用者については、個別の移動支援マニュアルの作成や、理学療法士の助言のもと、身体機能維持・向上のための個別の訓練プログラムの作成をし、安全で効果的な支援ができるようにしました。

2 つ目は、ご利用者・ご家族の将来へのイメージを明確にしていく取り組みです。10月にはご家族向けに成年後見人制度の勉強会を行いました。また、ご利用者が将来の生活に困らないために、必要な事項を書き込める「未来ノート」の様式を完成させることができました。次年度はご家族の協力を得ながら、個別の「未来ノート」を完成させ、ご家族と職員が共通認識をもって支援を行えるようにしたいと考えています。

最後は、職員のリスクマネジメントの意識向上と事故の減少に向けた取り組みです。リスクマネジメントの意識について、全職員にチェック表を用いて確認し、その結果をもとに研修会を行いました。研修会では、事例のシチュエーションごとにリスクを予測し、どうしたら回避できるかを考える機会としました。また、事故が起こった後の対策の検討、振り返りをしっかりと行うことを定着させたことで、昨年度よりも事故件数を減らすことに繋がりました。

施設内の改修については、計画通り、満足度調査でも要望があがっていた和室スペースの改修を行いました。衛生面を考えて防水加工の畳にしたことに加え、一部をウレタンマットにしたことで、機能訓練が行いやすくなり、ご利用者にとって安全で居心地のいい空間になったと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、1月にはオミクロン株の感染急拡大により、自立センターでも集団感染が発生し、ご利用者・ご家族にご心配、ご迷惑をおかけすることとなってしまいました。今後も感染対策には細心の注意を払いつつ、その中でも楽しめる活動を工夫して行い、ご利用者の笑顔が溢れる場所となるよう努めていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	60名	知的障害者	2007年4月1日
老人デイサービスセンター（第2種）	共生型通所介護		要介護高齢者	2018年9月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念の勉強会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本理念勉強会の実施（年4回：5、8、11、2月）</li> <li>②勉強会ごとに振り返りシートの記入</li> <li>③講師との打合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>ア)5、2月の基本理念研修は新型コロナの緊急事態宣言、まん延防止等重点措置のため中止。</li> <li>イ)第2回基本理念勉強会実施（8月）。テーマは仕事の「原点」。勉強会后、朝礼スピーチで各職員から仕事の「原点」について話してもらい、共有。</li> <li>ウ)第3回基本理念勉強会実施（11月）。テーマは「後悔」。</li> <li>エ)研修当日に参加できなかった職員向けにビデオ研修を実施。</li> <li>②参加職員への振り返りアンケートを実施。</li> <li>③研修前に吉川講師との打合せを実施。</li> </ul>	○
基本理念の各項目についてのディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本理念の各項目についてのディスカッションの実施（年2回：9、12月）</li> <li>②内部研修の実施（10月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>ア)ディスカッションの内容について話し合い（7、8、10、11月）</li> <li>イ)第1回ディスカッション（各グループ目標の振り返りと基本理念とのつながり）実施（9月）。</li> <li>ウ)第2回ディスカッション（基本理念の各項目について）実施（12月）</li> <li>②</li> <li>ア)内部研修の内容についての検討（9月）</li> <li>イ)内部研修（神戸聖隷福祉事業団40年記念映像「隣人愛の業」鑑賞、基本理念・ハンドブックの理解度テスト）実施（10月）</li> </ul>	◎
神戸聖隷ハンドブックの輪読	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎週月曜日に輪読を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎週月曜日にハンドブックを輪読</li> </ul>	○

## (2) 人材育成・定着の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
自立センター標準マニュアルに沿った支援	①マニュアルに沿った支援の実施(移動) ②基本的・個別的な介護技術の勉強会の開催	① ア) 移動支援マニュアル見直し(5月) イ) 移動支援のセルフチェックリスト実施と集計(6、10、12月) ウ) 6名の個別マニュアル(移動)の作成(7、9、10、1、3月) ② ア) 理学療法士と勉強会の打ち合わせ イ) 理学療法士による移動支援勉強会の開催(8月)	◎
新着職員の育成と定着	①エルダー制度の継続 ②エルダー会議の開催(年4回) ③リニューアルした内容での新着職員研修の実施	①新着職員1名のエルダーの選定(5月) ②エルダー会議の開催(5月) ③ ア) 対象者1名に新着職員研修の実施(7月) イ) 新着職員のフィードバックを実施(10月)	○
事例検討会の開催	①事例検討会の開催(年2回:9、2月) ②事例作成、支援経過の報告と共有	①事例検討会開催(8、10月) ② ア) 第1回事例検討会の内容検討と事例作成(5~7月) イ) 第1回事例検討会の実施(8月) ウ) 第2回事例検討会の内容検討と事例作成(8、9月) エ) 第2回事例検討会の実施(10月)	◎
外部研修受講の共有	①研修受講後、朝礼での研修概要報告(全研修対象) ②職員会議での研修報告(ピックアップした研修対象)	① ア) 外部研修を全職員が受講。 イ) 研修受講後、朝礼で研修概要報告。 ②ピックアップした5研修の報告を実施。「福祉職のためのストレスケア」「サービス記録のポイント」「福祉施設における身体拘束」等。	○

## (3) QOLの視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
日中活動の充実(満足感のあるサービスを提供)	①現在の活動の実施(レパトリーを増やす)	① ア) 各グループの活動の見直しと新しい活動の準備 イ) 新しい活動の実施(グラウンドでの活動、椅子座りダンス、玩具遊び、ゲーム大会、活	◎

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
する)		動のスライドショー鑑賞)と振り返り。 り)継続して実施することで新しい活動の定着。	
利用者・家族の将来のイメージを明確にする	①昨年度に集めた情報の整理 ②昨年度に実施したアンケート結果をご家族と共有 ③成年後見制度についてのご家族向け研修会の開催 ④「未来ノート」の様式の完成	①昨年度に集めた後見人制度関係の資料を整理。 ②アンケート結果をまとめ、ご家族に配布(6月) ③ ア)ご家族向け研修会の講師依頼先検討(6、7月) イ)ご家族への案内文配布(8月) ウ)講師依頼先と研修内容の打合せ(9月) エ)ご家族向け「成年後見人制度勉強会」開催(10月) ④ ア)下半期をかけて「未来ノート」についての話し合いを実施 イ)未来ノート掲載項目について職員へのアンケート実施(11、12月) ウ)未来ノートの様式検討と完成(1~3月) エ)未来ノートについて職員に共有(3月)	◎
虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施	①虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施(年2回)	① ア)第1回勉強会の打合せと事例作成(6~7月) イ)研修担当5名で、虐待・不適切ケア評価表に基づく第1回勉強会を実施(8月) ウ)第2回勉強会の打合せ(12月) エ)職員22名で、虐待・不適切ケア評価表に基づく第2回勉強会を実施(1月) オ)虐待と認定された事案について、職員9名で虐待・不適切ケア評価表を使用し、支援の振り返りを実施(1月)	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
新規利用者の獲得	①新規利用者受け入れ ②見学・体験実習の積極的な受け入れ ③特別支援学校、相談支援事業所との連携	①体験実習をした1名の利用希望者の受け入れは支援体制が整わず断念。 ②2名の見学、4名の体験実習を受け入れ(7、9、3月) ③特別支援学校2校と相談支援センターか	○



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
	強化 ④ホームページを通じた空き情報等の情報発信	ら見学と体験実習の受け入れ ④ ア)既存のホームページ見直し(4月)と更新(5月、9月) イ)毎月の空き情報を発信	
祝日も含めた魅力ある活動の提供	①年間プログラムの策定と実施	① ア)年間プログラムの策定(4月) イ)祝日プログラムのポスターをご利用者と共に作成し、施設内に掲示。 ウ)祝日プログラムの実施(春・夏のゲーム大会、映画祭り、サマーコンサート、さわやかカフェ、秋の運動会、秋の日コンサート、新春創作、歌鑑賞、豆まき、春カフェ)	◎
大規模改修に向けた神戸市へのアプローチ	①神戸市との協議 ②和室の改修の実施	①神戸市福祉局長・副局長が中部在障を見学。大規模改修の必要性を発信(9月) ② ア)和室の改修に向け、業者との打合せと発注(8、9月) イ)和室の改修を実施。33畳中23畳は防水畳に入れ替え、10畳分はウレタンマットに交換(11月)	○
・活動スペースの見直し・整備 ・施設内美化活動	①活動スペースの見直し・整備 ②施設内美化活動の実施(年4回)	①作業室のレイアウト変更、各グループの活動スペースの整備(4、5、6、2月) ② ア)施設内美化活動で普段できない箇所の整理、清掃等を実施(男性更衣室奥、倉庫等) イ)洗濯槽洗浄(月1回)、倉庫の整理(7、10月)、医務室の整理(12月)	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
よつば寄席の開催	①よつば寄席の開催(年1回:7月) ②感染対策を徹底した開催 ③寄席と共に行うイベントの検討	① ア)よつば寄席開催(7月)。地域の方5名が参加。 イ)チラシ作成(5月)、チラシ配布(7月)。 ②事前に検討した感染対策を徹底して開催。 ③寄席と共に行うイベントの検討。コロナ禍のため、検討のみ。	◎

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
地域清掃の実施	①月1回の地域清掃の実施 ②ポスター掲示 ③施設名等の印字入りビブス着用での清掃	① ア)地域清掃実施(4、10、11、12)※5～9月については緊急事態宣言発令と猛暑、1～3月についてはまん延防止等重点措置適用と寒冷期のため中止。 イ)神戸マツダを訪問し、感謝状を贈呈(3月)。 ②実施月はポスター掲示。 ③神戸マツダスタッフとビブス着用で地域清掃を実施。	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
有給休暇の取得促進計画の策定	①有給休暇取得促進計画の策定・実施	① ア)月の祝日回数に応じて各職員の休日の希望を調整し、有給休暇取得を促進。 イ)誕生日有給休暇の取得確認表作成。 ウ)毎月の有給休暇の取得実績を入力し実績を可視化。 エ)2021年度の有給休暇取得率は76.8%。個人取得率の差が課題。	○
業務改善の取り組み	①業務改善の取り組み	① ア)環境整備の必要な箇所を検討・決定(4月) イ)事務所内と倉庫の整理(6、9月) ウ)事務用品在庫管理表と備品ラベルの作成。職員会議で共有(7月) エ)情報共有の取り組みとして、朝礼・終礼ノートの様式と運用方法を検討。 オ)新しい朝礼・終礼ノートの運用開始(11月)。 カ)新しい朝礼・終礼ノートについてのアンケートを実施(1月)。 キ)アンケートをもとに改訂した朝礼・終礼ノートの運用開始(3月)。	◎
ワークライフバランスの取り組み	①ワークライフバランスが実現できる職場風土づくり	① ア)事務所内に月の総残業時間数を掲示(前月と当月の2か月分) イ)ワークライフバランスのディスカッション内容検討(5月)	△

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
		ウ) ワークライフバランスについてのディスカッション開催。自分のワークライフバランスについて自己採点を実施(6月)。 エ) ワークライフバランスの取り組みは未実施。	
事故・ヒヤリハットの検証と再発防止システムの確立	① 事故・ヒヤリハットの再発防止システムの確立	① ア) 既存のマニュアルの見直し、改訂(5月) イ) 職員会議でマニュアルの共有(6月) ウ) 事務所内に事故・ヒヤリハット件数ボードを設置(4月)。年度内の累計件数と事故・ヒヤリハット発生日はそれがわかるように表示。 エ) マニュアルの進捗状況の確認(6～3月) 2020年度 事故 124件 ヒヤリ 59件 2021年度 事故 97件 ヒヤリ 70件	○
リスクマネジメントの意識向上	① リスクマネジメントを意識した支援の実施 ② リスク管理に対する意識度確認表の作成 ③ リスクマネジメント研修の開催	① 日々の支援でリスクマネジメントを意識できるよう助言。 ② ア) 意識度確認表の内容検討、完成(6、7月) イ) 意識度確認表の配布と集計(8月) ③ ア) 意識度確認表の結果をもとに、研修内容の検討(10、11月) イ) リスクマネジメント研修会の実施(11月)と研修会の振り返り(12月) ウ) リスクマネジメントを意識した支援をグループごとにまとめ、共有(1、2月) エ) 取り組み実践(2、3月)	◎

### 3. 出来した事案

#### (1) 神戸市から「身体的虐待」と認定された件

2021年9月23日、ご利用者3名と職員1名での散歩中に、1名のご利用者が仰向けに寝転び、職員が押さえているような様子を、他のご利用者と散歩に出かけていた別の職員が見かけ、報告がありました。当該職員に聞き取りを行ったところ、ご利用者から何度も肩を叩かれたため、手首を持って止めたところ、ご利用者が仰向けに寝転ぶ形となったとのことでした。聞き取りの中で、これまでも当該ご利用者から叩かれることがあり、言葉で伝えても止まらないときに、自分も叩き返したことがあったとの話がありました。ご利用者は言葉での意思表示が難しい方なので、こういった行為は、不安・不調など何らかのサイン、訴えであると考えますが、それに対し、職員がご利用者を叩き返すという不適切な行為を行っていたことがわかりました。ご利用者のご家族にはお詫びに伺い、状況を説明させていただきました。また、センターとしても虐待にあたる行為と受け止め、すぐに法人・神戸市監査指導

部に報告を行いました。その後、神戸市での調査が開始され、12月21日に「身体的虐待と認定する」との通知を受け、改善報告書の提出を求められました。この事案について、法人の「虐待・不適切ケア評価表」を用いて振り返りを行うとともに、ご利用者が叩くという行為に至る要因を分析し、今後の対応方法について話し合いました。2月21日に神戸市に改善報告書の提出と説明を行い、調査終了となっております。第三者委員、苦情解決・虐待防止委員会、家族会にも謝罪と説明をさせていただきました。

今後は、ご利用者の気持ちを汲み取り、寄り添うことの大切さを改めて職員に伝えていくとともに、日々のコミュニケーションを密にし、支援や対応に困った時はすぐに相談できる関係づくり、体制づくりに努めてまいります。

## (2) 新型コロナウイルス感染症集団感染の発生

年明けからオミクロン株の新型コロナウイルス感染症が急拡大する中、2022年1月20日に1名のご利用者の熱発があり、22日に3名のご利用者の陽性が確認されました。その後も感染拡大の勢いが止まらず、1月24日～31日までの6日間、施設を休業することとなり、最終的な感染者数はご利用者23名、職員11名の計34名に上りました。

今後も基本的な感染対策を徹底し、ご利用者・ご家族のご協力も得ながら、もし感染者が発生した場合でも感染拡大を最小限に食い止めることができるようにしてまいります。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 木南 仁

ワークセンターわかまつの基本方針

1. 法人の基本理念に基づき、ご利用者のニーズに即した支援を行います。
2. 個別支援計画に基づき、人権を尊重し支援を行います。
3. 就労継続支援施設として、働く喜び、社会人としての役割などを伝えていきます。
4. “人間力づくり” “こころづくり” “ものづくり” ができるよう支援します。

### 第4期中期計画のビジョン

地域にじわっと浸透する 作業内容が充実する

2021 年度の事業報告について

新型コロナウイルス拡大に伴いご利用を自粛する方やコロナワクチンの接種と副作用のため、欠席を余儀なくされる方もおられました。ワクチンの接種においてご家族の付き添いが困難なご利用者については、職員が日時の予約から当日に接種会場まで同行する支援も行ないました。陽性者は2月初旬に1名判明しましたが、わかまつ内で感染拡大することがなかったので、平日は通常営業とし、社会活動や利用者自治会などの休日開所は実施しませんでした。年間を通して土曜日や祝日の開所を積極的に行なったことで、目標を上回ることができました。

まつぼっくり（カフェ）は通常営業に加え、毎月第1土曜日を営業日としました。常連のお客様も増えコロナ禍にもかかわらず元気に活動しています。また、8月からは毎月第1金曜日の午前に認知症カフェを開催し、参加者も徐々に増えてきています。

ベーカリー作業は、引き続き神戸地区の各施設、事業所にご協力をいただき注文販売を中心に行ないました。外部のイベントは多くが中止となる中、参加可能な外部販売には積極的に参加しました。また新たに神戸聖隷オアシス（Tunagari あつまり処）で常設販売をしてもらうことができ、売り上げアップにつながりました。下請作業については依然厳しい状況が続いていますが、企業との交渉や新規の取引先も模索しながら工賃の維持・向上に努めました。

研修はオンラインでの参加にかなり慣れてきましたが、理念研修として理事長からの講話や防犯研修として長田警察署生活安全課から対面で直接話を聞くことができました。また、虐待防止研修として事例検討会を取り組み、ご利用者について深く知り共有することができました。毎月「虐待チェックリスト」を実施し、自己点検から日々の支援の確認を行ないました。

水曜日のノー残業デーは継続し、年5日の年次有給休暇取得義務への対応として時季指定を行ないながら計画的に取得することができました。

### 1. 事業概要

開設年月日：2004年10月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	40名	知的障害者	2011年4月1日

2. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉を学ぶ機会の設定（理念理解定着部会との連動）	①理念研修の実施 講師を理事長に依頼 神戸聖隷ハンドブックの輪読 ②理念部会との連動 キリスト教福祉基礎研修受講、他法人研修への参加	① ア) 神戸聖隷ハンドブックの輪読（4月） イ) 水野理事長による講話（7月） ② ア) 法人キリスト教福祉基礎研修 1名参加（10, 11月） イ) 他法人研修は中止	○

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
実習の積極的受け入れ	①保育実習、介護等体験実習、福祉体験学習等の積極的受け入れ（随時）	① ア) 神戸常盤大学保育実習[前年度不足日数分]（4月） イ) 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科（6, 8月） ウ) 神戸教育短期大学保育実習（10, 11月） エ) コロナ禍によりワークキャンプや保育実習等実習の中止あり	△
内部研修の実施や外部研修への参加	①内部研修の実施 講師に依頼し内部研修の実施事例検討会の実施 ②外部研修への参加 市民福祉大学等の受講	① ア) 虐待防止事例検討会実施（8月） イ) 新人職員向け記録の書き方研修（12月） ② ア) 食品衛生責任者フォローアップ講習会（8月, 9月） イ) リスクマネジメントセミナー（9月） ウ) 近畿セルフ協研究大会（10月） エ) 苦情解決セミナー（11月） オ) 法人一般職員研修(11月) カ) 全国福祉村サミット(11月) キ) 一羊会主催若手職員のための入門編(11月) ク) コロナウイルス対策研修(1月) ケ) インボイス制度セミナー(3月)	◎

(3) QOLの視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
安定した作業支援の提供	<p>①目標工賃支払額 5,000 千円／年（利用者 39 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸地区施設・事業所への注文販売の継続</li> <li>・まつぼっくりでのパン販売の日数増の実施</li> <li>・下請作業内容(企業)の検討、移行</li> </ul>	<p>①</p> <p>ア)工賃支払額 4,847 千円 平均 10,493 円／月（39 名）</p> <p>イ)神戸地区事業所注文販売実施(各月)</p> <p>ウ)まつぼっくり土曜営業実施</p> <p>エ)まつぼっくりのパン販売を定例水曜日に加え金曜日の定例化実施</p> <p>オ)はっぴねすコーナー(しあわせの村)、神戸聖隷オアシス (Tunagari あつまり処) への常設販売実施</p> <p>カ)コープすまろしえ[コープ横尾店、白川台店]販売(7, 1, 2, 3 月)</p> <p>キ)ながたにこにこマルシェスイミー販売[長田区役所芝生広場](10, 3 月)</p> <p>ク)ぬくもりマルシェ(県庁前芝生広場販売(11 月))</p> <p>ケ)クリスマスマーケット[有馬温泉他](12 月)</p> <p>コ)新規作業の受注に向け企業説明会参加(1 月)</p> <p>カ)まつぼっくり価格変更(11 月)</p> <p>シ)焼き菓子、パンの価格変更準備(3 月)</p>	◎
生活ニーズ支援、社会参加支援の提供	<p>①ご利用者との面談(2 回／年)実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングの確実な実施。</li> <li>・再アセスメントの実施。</li> <li>・ご利用者・ご家族の高齢化への対応(取り組み) (勉強会の実施[家族向け・職員向け])</li> </ul>	<p>①</p> <p>ア)モニタリング面談実施(2 回/年)</p> <p>イ)成年後見制度利用促進に向け、サポートを実施し、1 名後見決定(9 月)</p> <p>ウ)利用者満足度調査[利用者自治会](12 月)、ホームページ掲載(3 月)、結果公表・説明[自治会](3 月)</p> <p>エ)昼食業者変更(9 月)</p> <p>オ)成年後見制度研修：法人主催(11 月)、わかまつ家族会主催(1 月)</p>	◎

## (4) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
修繕工事の実施	①工事内容の検討（費用計算・予算計画） ・作業室の床面の改装工事 ・利用者女子更衣室のクロスの張替え	① ア) 作業室の床面の改装工事（9月） イ) 利用者女子更衣室のクロスの張替え（9月）	◎
年間営業日と利用率の管理	①訓練等給付費の月毎管理、販売等による休日稼働の実施 ・気象警報等発令時の対応方法の変更 ・利用者自治会の隔月実施、社会活動毎月実施	① ア) 祝日稼働の実施（8回/年） イ) 気象警報等発令時に開所への変更実施（4月） ウ) 利用者自治会[土曜開所]の実施（6回/年） エ) 社会活動[健康診断、クリスマス会含:土曜開所]の実施（10回/年）	◎

## (5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
大正筋商店街が企画するイベントに積極的に参加	①随時、企画に参加 ・大正筋商店街、株式会社くまづか等の企画イベント	① ア) 大正筋商店街臨時総会参加（8月）、総会参加（2月） イ) 駄菓子屋・アップルスタンプラリー[神戸市交通局主催]（11～1月） ウ) 神戸西部3都ワンデーマーチ（鉄人広場）[県民センター主催]（3月） エ) 大正筋商店街ワンコイン商店街（3月）	○
イベントの企画・開催（部会との連携）	①認知症カフェの実施	① ア) こうべオレンジカフェ登録（7月）、こうべオレンジカフェ連絡会（2月） イ) チラシ作成、配布（7月） ウ) 認知症カフェの開催（8月～）	○
ホームページの定期更新（イベント企画時の広報活動）	①ホームページの定期更新 ・まつぼっくりのHPの更新（認知症カフェのアピール）	① ア) ホームページの写真、コメント等の入替（随時） イ) 認知症カフェのPR（7月）	○



(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
大災害発生時の対応準備	①新型コロナに対応したマニュアルへの変更	① ア) 災害時マニュアル変更 (7月) イ) 顔認証サーモカメラ設置 (9月) ウ) 備蓄食料品の確認, 入替(随時)	×
防犯対策の整備	①防犯対策学習会の実施 (1回/年)	① ア) 長田警察署生活安全課の協力による「防犯対策学習会」実施(1月)	◎
有給消化率のUP(取得率50%以下の職員)	①2020年度取得日数より1日増(取得率50%以下の職員)	① ア) 有給取得率一覧表作成 (6月) イ) 有給取得率確認(毎月)	○
ノー残業デーの週2回実施	①ノー残業デーの週2回実施に向けた検討・試行 ・業務を行う職員に業務偏りがないか確認し、業務の見直しを実施。	① ア) ノー残業デーの実施(毎水曜日) イ) 昼休み取得シフトの実施 (5月)	○

3. 出来した事案

(1) 労働基準監督署から臨検監督及び是正勧告を受けた件

5月20日に神戸西労働基準監督署の監督官が来所し、臨検監督が実施されました。結果として①休憩時間を労働時間の途中に与えていないこと②時間外労働に対して2割5分以上の率で計算した割増賃金を支払っていないことの是正勧告を受けました。

対応としては、全職員が昼休みを取得できるように5月31日からシフトを改善しました。また、対象職員に対し時間外労働の割増賃金を4月1日まで遡及し6月25日(給与日)に支給し、6月29日に労基署を訪問し、是正報告書を提出しました。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 せいれいやさかだい  
施設長 岩井 誠一

### せいれいやさかだいの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援・サービスを提供します。
2. 小集団において一人ひとりが主体性を発揮し、自己表現できる集団作りを目指します。
3. 企業内事業所としての与えられた仕事に責任を持って取り組み、社会参加の喜びを提供します。
4. 生活介護事業（友が丘事業所）のプログラムのオープン活用と、地域に開かれたサービス提供を目指します。
5. 親亡き後の安心、安全な生活実現を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「利用者の生きがい・やりがい・働きの叶える支援と居場所づくり」を目指します。

### 2021 年度の事業報告について

新型コロナによる活動自粛、地域交流機会の喪失を2年間経験することになりました。利用者の皆さんをはじめ、せいれいやさかだいに関係する皆さんがそのような状況を理解し、協力していただけたお陰で、感染症罹患者を出すことなく事業運営してこられたことに感謝しております。2022年度は、こうした状況が改善されることを切望し、利用者の皆さんの笑顔が一つでも多く拝見できることを願います。

2021年度は、当初目標としていた就労継続支援B型利用者の新規受入れが叶いませんでした。関係機関への働きかけを行うも、コロナ禍の影響により、利用希望者の積極的な利用を引き出すことが出来ませんでした。

7月から2月にかけて生活介護利用者の情緒不安が始まり、利用状況が悪化すると同時に、利用時は不穏な動き（飛び出す）に警戒するなどの支援が必要となり、精神的にも支援者の大きな負担となりました。また、3月には急性胆嚢炎に見舞われ入院する方が出るなど、更に、体調不良、情緒不安等と考えられる要因から、生活介護で入院する方が3名、就労継続支援B型から1名出ており、加齢と共に現れる利用者の健康面への配慮が多い一年となりました。友が丘事業所をはじめ、神戸地区の各事業所が抱える利用者の高齢化問題が、現実のものとして現れ出しており具体的対応が迫られている状況を踏まえ、今後は、健康面への介入・提供プログラムの見直し・支援内容の再アセスメント等が喫緊の課題であると感じています。

その様な中ではありましたが、生活介護事業から1名、就労継続支援B型事業から1名の方が就労移行支援に移行しています。利用者減というマイナス面ではありますが、新たなステージへ可能性を求め送り出すことが出来た点では、支援及び取り組みが実った結果として応援すると共に、退所後のサポートをしていきたいと思えます。

次年度はこうした現状を踏まえ、利用者の新規獲得・健康面への積極的介入を果たし、安定的な事業運営が行えるよう職員一体となって取り組んで参ります。

## 1. 事業概要

開設年月日：1991年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	15名	知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	15名	知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	10名	知的障害者	2012年11月1日

## 2. 第4期中期計画の推進状況

### (1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
利用者家族の悩みに積極的な支援を実施	①利用者及びご家庭の悩みに対し、積極的支援の提供 ②提供状況について見直しと共有	①相談のあった家族・利用者に対して聞き取り・支援を実施 ア)友が丘家庭訪問2件(S氏,M氏) イ)林タオル家庭訪問3件(F氏,T氏,K氏) ②相談はその都度計画相談事業所(神戸聖隷総合相談センター等)と情報を共有、支援の見直し・提案等を実施	○
学習会・施設見学を通し、キリスト教福祉に触れる機会を確保	①法人内事業所見学の実施(臨時職員全員対象) ②キリスト教基礎研修参加 ③事業所において竹内牧師を講師としたキリスト講座の実施(3回/年)	①法人内事業所の見学は未実施 ア)コロナ禍の状況を見て検討 ②キリスト教基礎研修は参加者なし ③竹内牧師を講師として全3回(5/27,6/10,6/24)を実施	△
唱和・読み合わせに留まらず働きを考える学びの実施	①理念の唱和(毎月曜日) ②接遇のしおり、ハンドブックの読み合わせの実施(毎日朝礼時、職員会議) ③理念、接遇についての研修実施 ④研修の見直し	①毎月曜日に理念の唱和を各事業所にて実施 ②接遇のしおり読み合わせを朝礼時に実施、神戸聖隷ハンドブックを職員会議にて読み合わせ実施(計7回) ③未実施 ④職制間で検討を実施	△

## (2) 人材確保育成の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
職員個々のスキルに応じた研修計画立案と自己研鑽の推進（介護技術・就労・地域生活・資格等）	①研修計画の立案と調整 ・階級、スキルに応じた研修への参加及び調整 ・研修機会に応じて参加 ②市民福祉大学等の研修案内の情報提供と受講推進（通年）	①職員に研修希望の聞き取りを行い興味関心に合わせて研修機会を提供 ア)WLB・マネジメント研修・BCP虐待対応力向上研修等を受講 ②市民福祉大学の研修情報を年間通じて提供	△
障害理解と専門的支援の実践（ABA研修会等の内部研修）	①上野中学教諭の協力のもと障害理解に必要な研修継続（2回/年 8月,12月） ②研修内容の見直し ③研修受講者による情報共有、支援報告の実施	①ABA研修はコロナ禍を受け中止 ア)次年度に向け関係者に打診 ②家族・地域・利用者の高齢化を考慮し認知症についての学びを検討 ③職員会議で情報共有 ア)虐待、不適切支援評価票の使用について共有	△
研修報告会の実施	①研修受講者による研修内容の報告 ・職員会議にて実施	①職員会議にて報告会を実施 ア)WLB研修、強度行動障害等	○
課題解決に向けた定期的な進捗管理と支援振り返りの実施	①一般職以上には考課課題の進捗を含む面接実施。臨時、パート職は仕事についての聞き取り等実施（2回/年 6月,12月） ②課題に対する支援の振り返りを会議にて実施（随時）	①考課課題に取組み、進捗に関しての面接機会を一部職員に実施 ②事業所ごとにグループ会議を行い、支援の振り返り・検討をその都度実施	△
事業所間の課題理解と支援交流	①3事業所間の利用者・職員の交流活動の検討と実施（毎月/職員会議） ②各事業所の課題について報告と検討（毎月/職員会議） ③活動内容の見直し	①3事業所合同の利用者自治会「ぎんが会」実施 ア)ぎんが会（総会・役員会含む）5回実施（5,8,10,12,3月） ②課題について報告・検討を実施 ア)職員会議にて各事業所の現状を報告（毎月） イ)Zoomによる夕礼を定例化し利用者支援・業務情報共有を図る（2月～） ③コロナウイルス感染拡大に伴い、6,7,9,12月の土曜活動の内容を検討し変更して実施	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
支援力に不安を持つ者・実習生らへのより丁寧な支援の実施	①支援員の抱える課題に積極的なアプローチの実施 (グループミーティング、支援会議、ケア会議:随時) ②実習生の実習課題に丁寧な支援、働きかけ(随時) ③アプローチの見直しと情報共有、実施	①9月・3月に個別支援計画策定会議(支援会議)実施 ②保育実習のオリエンテーション実施(8月) ③アプローチの見直し ア)新規受け入れ林タオル利用者、家族と支援の内容を確認 (F氏・7月) イ)支援困難事例(M氏・11月) ウ)家族へのアプローチ (H氏・12月) エ)家族と支援内容を確認 (N氏・1月)	○

(3) QOLの視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
各事業所の利便性の向上	①改善等の執行状況確認 (2回/年 4月,9月) ・シミズ事業所:生活空間の快適性 ・林タオル事業所:作業効率・衛生面を重視した動線の確認 ・友が丘事業所:高齢、重度化対策 ②各事業所の改修改善ニーズの収集、試算と検討による提案実施(状況に応じて)	①改善状況 ア)シミズ→食堂席の改善、机の設置(1月) イ)林タオル→食事席の検討、利用者席の間隔見直し実施(9月) ウ)友が丘→玄関ベンチの設置(利用者の座面に合わせる) エ)友が丘→台所レイアウト変更(動線の変更) オ)友が丘→室内にベンチの設置 カ)友が丘→シーリングライト交換 キ)友が丘→2Fウォシュレット便座に交換 ②改善ニーズ ア)シミズ・林タオル→椅子変更を実施(1月) イ)シミズ照明器具をLEDに検討	△

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
社会を意識した活動提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自治会運営内容の見直し (1回/年)</li> <li>②自治会運営方法について利用者、職員間で共有</li> <li>③自治会運営を継続的に行う勉強会の実施 (1回/年)</li> <li>④定例会の実施 (1回/月)</li> <li>⑤生活を送る上で必要となるマナー勉強会の実施、見直し (2回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍により役員会縮小</li> <li>②次年度役員改選を共有(3月)</li> <li>③未実施</li> <li>④土曜活動・活動内容等について実施するも毎月開催は出来ず (5回/年)</li> <li>⑤勉強会実施</li> <li>ア)利用者向けマナー講習会実施 (7月,2月)</li> <li>イ)ワクチン接種の勉強会実施 (6月,9月、2月)</li> </ul>	○
事業所外ワーク(作業)の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>①作業の確保(通年)</li> <li>②農家支援の定着 (1回/年 6月)</li> <li>③事業所近隣農家訪問 (通年)</li> <li>④事業所近隣企業訪問 (通年)</li> <li>⑤農福連携を行っている事業所見学、及び関係者からの情報収集(随時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規作業</li> <li>ア)ポスティングを実施</li> <li>イ)友が丘1丁目敷地定期清掃 (7月～)</li> <li>②淡路島玉ねぎ作業・販売実施 (6月)</li> <li>③事業所近隣農家の訪問未実施</li> <li>④事業所近隣企業訪問未実施</li> <li>⑤事業所見学未実施</li> </ul>	△
独居者・高齢化家族の成年後見制度活用希望者への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①制度利用及び活用の促進</li> <li>・成年後見制度に関する用紙の配付(2回/年4月,9月)</li> <li>・希望に応じて研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①成年後見制度の推進状況</li> <li>ア)家族会に成年後見制度について情報を提供(7月,3月)</li> <li>イ)家族会に研修会実施を伝える (9月)</li> <li>ウ)家族会より次年度の成年後見制度の研修要請を受ける</li> </ul>	○
関係機関との支援強化(総合相談センター、支援センター、福祉事務所等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①関係機関と積極的に関わりを持ち、利用者の支援状況把握と支援関係を強化(状況に応じて)</li> <li>・利用者家族構成の再確認(1回/年 4月)</li> <li>・家族へのアプローチ(2回/年 8月,2月:個別支援計画時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者家族構成の再確認・関係強化</li> <li>ア)身上調書を配布し確認(4月)</li> <li>イ)年2回のモニタリングを実施(家族構成・環境変化等について確認)</li> </ul>	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
3 事業所活動 拠点の継続	①3事業所の関係者（企業、自治会）との関係維持 ②物件情報等収集を継続	①年度初め、年末に訪問、挨拶を実施 ②日住サービスに物件情報提供を依頼（1月）	○
企業、近隣との 関係づくり	①各事業所における関係企業、自治会関係人物への訪問（1回/月） ②行事等への参加 ＜北須磨団地自治会・地域イベント＞ 5月：友愛まつり、支え愛・助け愛学習会 8月：ふるさと祭り 10月：運動会 12月：クリスマス会 他 ③関係者からの要望（クレーム含む）に迅速に対応	①訪問 ア)シミズ、林タオルへ訪問（盆・暮れのご挨拶） イ)北須磨団地自治会・児童館へ訪問（11回/年） ②行事への参加は一部実施 ア)友愛まつり・ふるさと祭り・クリスマス会等々中止 イ)コロナ禍の実施（8月安心安全コミュニティ像の集い・地藏盆参加） ③林タオル事業所の出荷品に異物混入あり謝罪と対策を講じる（4月）	○
高額工賃支給 による給付費 収入増を目指す	①外部作業の試験的取り組みを繰り返し検討 6月：淡路島玉ねぎ作業 9月：事業所近隣からの受注作業 ②作業実施による収入と工賃配分金額の検証（6月,10月,2月）	①外部作業の取得 ア)ポスティング作業（5月） イ)淡路島玉ねぎ作業・販売（6月） ウ)ネコ箱（不定期） ②工賃配分金額の検証を行うが、収入及び作業量の回復は厳しいことから現状維持	○
作業及び活動 の取り組み状 況を可視化し、 利用者に達成 感を提供	①月々の売り上げを視覚化する ・工賃をグラフ化して作業室に掲示（1回/月 更新） ②年間予定と月予定の活動内容を確認 ・画像等で内容を保存し、掲示	①月々の作業量・収入・売り上げのグラフ化は一部実施 ②作業予定の可視化は未実施	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
事業所の魅力をアピール	①ミニ広報誌〈友が丘掲示用〉編集と発行（年間 6 回） ②広報誌の発行〈外部用〉（年間 2 回） ③Facebook の更新（年間 6 回）	①ミニ広報誌発行未実施 ②外部用広報誌発行未実施 ③Facebook・インスタグラム立ち上げを実施（家族に説明：9 月、投稿 5 回）	△

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域行事・活動等への参加・準備・協力を積極的に取り組む（行事、活動、清掃活動含む）	①支援者は地域行事へ積極的に参加し、地域との関係性を構築 ・友愛まつり（北須磨）、ふる里まつり（北須磨） ②地域行事、清掃活動に利用者参加の推進 ・寿喫茶（北須磨）、すくすく喫茶（北須磨）、さくら喫茶（神の谷） ・友が丘交通公園と広場、3 事業所周辺、北須磨団地前バス停（清掃活動）	①地域と関係性の構築 ア) 友愛まつり・ふるさとまつり中止により準備・協力は未実施 ②地域行事 ア) 寿喫茶 → コロナ禍の中止 イ) すくすく喫茶 → 7 月, 3 月 ウ) さくら喫茶 → 10 月, 12 月 < 清掃活動 > エ) 友が丘交通公園 → 6, 9, 11 月実施 オ) 北須磨団地前バス停 → 週 1~2 回で継続実施	○
地域コミュニティの活用と関係構築	①地域コミュニティー施設の活用を通して関係者との関係性を向上 ・友が丘地域福祉センター ・老人いこいの家 ②新たな活用方法等について提案と情報発信	①コロナ禍のため施設活用を自粛 ア) 福祉センターは卓球再開に合わせ利用 ②コロナ禍のため検討未実施	△
地域高齢者の生活支援要請を活動に反映	①近隣高齢者のニーズ把握を実施 ・民生委員の会合に出席（2 回/年） ②北須磨地域のウォーキングを兼ねた地域パトロールを実施 ・パトロール用ベストの購入 ・活動実施が明確になるようベストの着用	①ニーズ把握を実施 ア) 北須磨団地民生委員会に出席（1 回：9 月） ②地域パトロールを実施 ア) 「清掃中」「パトロール中」ベストを着用しウォーキングとバス停・歩道清掃等実施（9 月～）	○



実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
林タオル販売、シミズに対し除草・掃き掃除などの奉仕活動を実施し、更に周辺企業へアピール	①除草、落ち葉掃き、ゴミ拾い等奉仕活動の提供 (状況に応じて奉仕月間を設定) ②実施内容の見直し	①奉仕活動を実施 ア) 林タオル→社屋の除草、敷地周辺掃き掃除、建物内清掃 (5, 8, 9, 11, 3月) イ) シミズ→社屋周辺の掃き掃除を実施 (9, 11, 3月) ウ) 北須磨団地自治会地域清掃実施 夏季・冬季の大掃除 (6, 12月)	○

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
日常的な関り(挨拶・労い)を大切にした関係づくりと労務配慮の実践	①訪問、支援ヘルプ等を通して職員との信頼関係と声掛けによる関係づくり(随時) ②労務状態(体調、家族看護、介護等)を早期に把握し、負担軽減等を実施(随時)	①各事業所に職制を配置、情報共有・早期判断・対応を実施 ②労務状態の把握に努めるが、全ての事案に対し負担軽減には至らず	△
労務状況の改善と効率的な働き方の提供	①行事、活動の計画実施を支援し労いと感想を共有(随時) ②収入を含めた効率的な働き方の提案(随時)	①正規職員が行事活動計画を担うが負担増、検討要す ②急な職員の休みについて3事業所連携に課題を要す ア) 土曜出勤の振休消化 イ) 年5日の有休消化 ウ) 家族介護等の特別休暇 体制維持に余裕はあまりない	○
福祉避難場所としての役割	①運用マニュアルの整備	①運用マニュアルの検討はするも作成は未実施	×
訓練の実施	①訓練計画の作成と実施(2回/年 5月, 10月) ②訓練内容の見直し(2回/年 5月, 10月)	①訓練実施 ア) 防火訓練の実施(3月) イ) 災害時避難訓練の実施 ウ) 防災学習の実施(3月) ②訓練内容の見直し未実施	△

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
備蓄品の確認と補充	①備蓄品管理リストの作成（6月） ②備蓄品のチェックと補充、追加品目の検討（6月） ③期限切れ備蓄品の活用方法の検討（7月） ④地域貢献推進部会との連携（備蓄品情報の提供）	①備蓄品リストの作成（6月） ②備蓄品のチェック実施（6月） ③購入品の検討。（7月） ④備蓄品（水・保存食）を購入（2月） ⑤消費期限が3月末の備蓄品を防災学習会で試食（炊き出し）実施 ⑥法人各事業所と情報共有（8月）	○

### 3. 出来した事案

#### (1) 法人本部、理事長宛に匿名で郵送された文章について

2021年9月と10月の2回に渡り、理事長宛に匿名でせいいいやさかだいに於いて不正がおこなわれていると言った内容の文章が送られてきました。

「定員超過」「欠席時対応加算」「処遇改善手当」において不正な請求が行われているとの内容です。また、前施設長からこの状況が続いていると記述がありました。書面の案件に関して、過去5年を遡り調査を実施。不適切と思われる請求については精査を行い過誤請求にて対応いたします。

## 2021 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームのぞみ  
管理者 岩井 誠一

### グループホームのぞみの基本方針

1. 一人ひとりの基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 利用者の障害特性を理解し「その人らしい暮らし」を共に考え支援します。
3. 一人ひとりが主体性を発揮し、生活の場面で生きがいを感じられるよう支援します。
4. 安心・安全な生活が送れる環境づくりと衛生面の提供を行います。
5. 地域の皆さんとの交流機会を求め、利用者の積極的な関わりと参加に努め地域に開かれた関係づくりをめざします。

### 第4期中期計画のビジョン

「家より居心地の良いホーム」をめざして

#### 2021 年度の事業報告について

2021 年 4 月から利用者 8 名の新生活が始まり、利用者の皆さんはもとより、ご家族においても戸惑いながらの一年であったように思います。長い年月をかけ苦楽を共にしてきた親子が、離れて生活することになった訳です。不安・心配を無くし、安心していただけるまでの心の変化を見るまでには、まだまだ至っていないように思います。上半期以降は徐々に利用日数も増加を見ることが出来ましたが、1 月末には帰省中ご家族から新型コロナウイルスに感染する利用者が出たことにより、ホーム対応・支援の難しさを経験しました。幸い、罹患された方は大事に至らず退院することが出来ましたが、その間をホームで健康観察期間として過ごしてこられた利用者の皆さんには、相当なストレスがかかったのではないかと思います。事態が落ち着いてからは、反動からかご自宅で過ごす期間が長くなる方も現れ、残念ながら目標としていた利用率達成には至りませんでした。

コロナ対応に関しては、納得いく説明と対応が出来ていたのか、しっかりと寄添うことが出来ていたのか、この件については、明確な答えは出ず自問自答を繰り返しています。ご家庭・通所事業所との連携を強め、次の発生に備え万全の対策と準備を行って参ります。

この一年で、不慣れであった職員達の成長も徐々に感じ取れるようになり、不安から自信に変化していく様を見ることが出来ました。今後は、利用者の障害特性（知的・精神的・身体的）の専門性を磨いていただき、知識と支援経験を重ねながら、より良い支援提供ができる職員の育成に取り組みたいと思います。また、交代勤務故に思うように渉らないご家族との関係性や信頼構築についても、家族の集いをはじめとする機会や情報発信を増やし促進を図って行きます。

#### 1. 事業概要

開設年月日：2021 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	8名	知的障害者	2021年4月1日

2. 第4期中期計画の推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
基本理念の浸透	①基本理念の掲示 ②会議前の理念唱和 ③神戸聖隷ハンドブックの輪読	①基本理念・年間聖句を掲示 ②2022年1月13日 法人内グループホーム合同研修開催 ③事前研修で使用	○

(2) QOLの視点

実行計画	2021年度計画	実施状況	達成度
健康管理	①毎日の健康状態(体重・血圧)を把握し、必要に応じ医療機関と連携を図る	① ア)週1回の体重・血圧測定を実施 イ)個々の服薬について配薬管理を実施 ウ)定期受診付添い等の支援を実施 エ)コロナ禍により検温を実施 オ)複数薬の一包化を提案・依頼	◎
マニュアルの整備	①業務マニュアルを整備し、引継ぎが容易かつ効果的に実施できるよう整える ②本人・ご家族からの支援見直し・変更への迅速な対応 ③支援会議の実施と支援内容の検証	① ア)設備面をはじめ各種業務に係るマニュアルの整備を実施 イ)不足分についても随時貼り出して周知 ② ア)分からないことは、常に確認を行いながら実施 ③ ア)職員会議を実施、見直しはケース毎に必要な応じて実施	○
余暇の充実	①生活の場であることを大切にし、一人ひとりに応じた余暇を提案	① ア)部屋の模様替え、ゲーム等の提供など実施 イ)休日の買い物付添いを実施 ウ)自動販売機で飲料水購入を支援	○

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
防災対策	①年 2 回の避難訓練を実施 ②感染症予防の徹底と備えを実施 ③自然災害時に備えた備蓄品の確保	① ア)8 月 20 日・3 月 24 日に合同避難訓練(通報)を実施 ② ア)スクリーン設置・消毒・換気等の感染対策を実施、ガウン・マスク・消毒液等の備蓄品を補充 イ)感染対策キットを用意 ③ ア)未実施	○

### (3) 経営強化の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
利用率の安定	①365 日開所し利用率 90%を目指す	① ア)利用者・ご家族の葛藤やご都合等により予算未達成 (88.5%) イ)送迎サービスを実施	△
バックアップ施設の体制整備	①せいでいやさかだいの日中及び夜間緊急時支援体制を整備	① ア)管理者・サビ管をはじめとするバックアップにせいでいやさかだいの職員支援を実施 イ)新型コロナ感染者の受診及び隔離対応を実施	○

### (4) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
虐待防止・人権擁護の意識を持った職員育成	①職員会議を月 1 回実施、支援上の課題・対応・業務内容について共有 ②セルフチェックの実施 ③成年後見制度の活用促進	① ア)職員会議を 6 月から毎月実施 イ)対応・業務内容の共有を図る ウ)年度末、職員会議内で虐待防止についての研修を実施 ② ア)年 2 回セルフチェックを実施 ③ ア)成年後見制度に関心ある方に声掛けを実施	○

## (5) 職員育成の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	①スキル獲得のため外部研修へ参加 ②他グループホームとの交流機会を持つ	① ア)Web 研修で実施 ② ア)GH ふくだを訪問し職員間で情報共有を実施 イ)1 月 13 日法人内グループホーム合同研修に 4 名参加	○
事業所内研修の実施	①開設前の職員育成研修の実施 ②世話人・支援員への内部研修の実施 ③法人内研修への積極的な参加 ④外部研修への参加	① ア)開所前に理事長による理念研修及び三木施設長による虐待防止と権利擁護の研修を実施 ② ア)職員会議に研修を実施 ・てんかん発作について(8月) ・虐待不適切支援について(8月) イ)障害特性の理解促進を促す ③ ア)Web 研修を受講(高見) イ)法人内グループホーム研修 (1月) ④ ア)コロナ禍で未実施	○

## (6) 地域貢献の視点

実行計画	2021 年度計画	実施状況	達成度
地域の清掃活動への参加	①年 2 回の地域清掃に参加、グループホームの存在をアピール	① ア)夏季・冬季の地域清掃に職員だけで参加	△
地域との連携	①地域コミュニティーの利用・行事参加を積極的に行う	① ア)コロナ禍により地域行事等が中止され未実施	×

3. 出来た事案  
特にありません。

2021年度 事業報告別表 1(事業実績)

※稼働日数が協定等で定められている事業以外は法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人	
		利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
		2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績
特養 平生園	60	21,243	21,346	97.0	97.5		
〃 さくらの苑	29	10,263	10,486	97.0	99.1		
GH わらしべ	18	6,439	6,513	98.0	99.1		
入所 恵生園	60	21,446	21,472	97.9	98.0	0	0
〃 真生園	60	21,481	21,316	98.1	97.3	0	0
〃 神戸愛生園	50	17,337	17,219	95.0	94.4	0	0
〃 神戸明生園	70→60	21,546	21,192	90.8	89.3	1	0
GH グループホームもみの木	5	1,712	1,769	93.8	96.9		
〃 グループホームかしの木	7	2,459	2,307	96.2	90.3		
〃 グループホームかしの木Ⅱ	5	1,694	1,716	92.8	94.0		
〃 めぐみ	6	1,172	868	53.5	39.6		
〃 せいれいやまて	7→10	2,999	3,003	86.5	88.9		
〃 たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,721	1,641	94.3	89.9		
〃 南落合	5	1,602	1,740	87.8	95.3		
〃 アリエッタ北須磨	10	2,978	2,943	81.6	80.6		
〃 のぞみ	8	2,488	2,202	85.2	75.4		
〃 きたすま	5	1,765	1,773	96.7	97.2		
〃 みなみたもん	5	1,641	1,669	89.9	91.5		
〃 ふくだ	10	3,254	3,529	89.2	96.7		

10月定員変更

7月定員変更

短期入所支援事業	定員数	単位＝人		単位＝%	
		利用延べ人数		利用率①	
		2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績
高齢 さくらの苑	10	3,467	3,206	95.0	87.8
障害 恵生園	3	336	468	30.7	42.7
〃 真生園	4	210	436	14.4	29.9
〃 神戸愛生園	5	730	648	40.0	35.5
〃 神戸明生園	10	1,853	1,227	50.8	33.6
〃 アクシスひょうご	6	2,313	2,355	105.6	107.5

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		年間稼働日数
		利用延べ人数		利用率②		
		2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	
通所 さくらの苑	18	4,797	4,503	86.0	80.7	310日
〃 デイセンターひょうご(共生型)	25	717	541	10.7	8.0	
〃 神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	137	134	0.8	0.8	
生活 恵生園	60	16,333	16,358	101.2	101.4	市との協定日数 240日
〃 真生園	60	15,912	15,985	98.6	99.0	
〃 神戸愛生園	60	15,289	15,612	94.7	96.7	
〃 神戸聖生園	60	14,267	13,719	88.4	85.0	
〃 せいれいやさかだい	25	5,882	5,689	87.5	84.6	
〃 神戸光生園	54	12,840	12,346	88.4	85.0	
〃 神戸明生園	80	19,331	18,940	89.8	88.0	
〃 デイセンターひょうご(多機能型)	25	4,741	4,333	70.5	64.4	
〃 自立センターひょうご	60	13,125	12,295	81.3	76.2	
〃 トゥモロー	8	1,225	1,371	63.8	71.4	
〃 インクルージョンひょうご	20	2,835	2,589	52.7	48.1	
日中 真生園	5	12	2	0.7	0.1	市との協定日数 231日
〃 神戸明生園	10	14	8	0.4	0.2	
〃 アクシスひょうご	6	36	1	1.6	0.0	
児童 すまいる	20	3,195	2,898	69.2	62.7	市との協定日数 257日
〃 らみい	10	1,851	1,690	72.0	65.8	
〃 エスポワールこじか	10	1,948	2,049	84.0	88.3	
〃 めぐみ	10	1,841	1,221	68.4	45.4	市との協定日数 232日

単位＝人

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人		就労定着支援	
		利用延べ人数		利用率②		就職者数		利用延べ人数	
		2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績
移行 和生園	6	1,547	1,072	95.8	66.4	3	3	24	12
〃 神戸光生園	6	1,009	915	62.5	56.7	2	2	20	20
〃 ワークセンターひょうご	30	3,642	3,870	45.1	48.0	13	12	381	334
相談 しごとサポート中部	—	—	—	—	—	90	84	—	—
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝円		単位＝円	
		利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
		2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績
就B 和生園	34	8,935	8,165	97.7	89.3	112	160	15,000	15,708
〃 せいれいやさかだい	15	3,317	2,851	82.2	70.7	50	45	6,000	5,638
〃 神戸友生園	40	8,470	8,150	78.7	75.7	260	161	11,200	10,681
〃 神戸光生園	30	6,885	6,726	85.3	83.3	126	140	12,650	14,004
〃 デイセンターひょうご	10	2,570	2,571	95.5	95.6	100	225	1,900	4,211
〃 ワークセンターわかまつ	40	8,680	8,863	80.7	82.4	109	120	10,148	10,493

単位＝件

居宅介護支援・相談支援	支援内容・対象	支援件数	
		2021年度 目標	2021年度 実績
居宅 居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,140	1,209
障害 びあほくたん	障害者	600	430
〃 発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	400	439
〃 エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	213	264
〃 恵生園相談支援事業所	障害者	171	219
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	8,000	7,382
〃 しごとサポート中部	障害者	—	—
〃 ひょうご障害者生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	5,800	6,467
〃 神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	1,050	895
〃 きたすま障害者生活支援センター	相談・緊急対応	7,200	7,718
〃 神戸聖隷総合相談センター	相談	646	674

単位＝件

生活援助・介護予防・職場開拓	項目	件数	
		2021年度 目標	2021年度 実績
障害 あったかプラザ(飲食店)	来店人数	6,450	4,298
〃 障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	300	405

単位＝人

診療所	診療延べ人数	
	2021年度 目標	2021年度 実績
医療 真生園診療所	1,068	1,788
〃 風クリニック	1,150	1,590
〃 神戸愛生園診療所	3,000	3,181

法定年間稼働日数	365日
法定年間稼働日数	269日

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×365日)
②日中型事業	利用延べ人数÷{定員数×(365日-8日×12ヶ月)}

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合  
利用率＝1250人÷(20人×(23日+20日+23日))＝94.7%



2021年度 事業報告別表 2 (設備整備実績)

No.	施設名	施設件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額(千円)	サービス区分	財源科目	財源	
									備考(補助金・助成金)	補助助成金(千円)
1	真生園	1	天井走行リフト更新(北寮)	天井走行リフトの老朽化及び修理困難機種種の更新	2021年7月	6,292	生活介護	積立資産取崩収入		
2	平生園	1	平生園大規模改修工事	①給水設備更新(給水圧の改善) ②浴室改修 特殊浴槽更新・新設 ③内装及び居室内トイレ改修 ④各階食堂抗壁及び居室配置変更等 ⑤玄関まわり及び来客用トイレ改善	2022年1月	161,513	特別養護老人ホーム	設備資金借入金 積立資産取崩収入		
3	平生園	2	特殊浴槽新規設置工事	①2階特殊浴槽・電動ストレッチャー ②3階特殊浴槽 ③3階電動昇降シャワーチェア ④3階アラウト担架 ⑤3階電動コンバクトストレッチャー	2021年8月	12,540	特別養護老人ホーム	積立資産取崩収入・家族会寄附金	家族会寄附金	800
4	平生園	3	介護ロボット・ICT化事業	①電動ベッド ②眠りスキャン ③ナーズコール設備 (まのぼの・眠りスキャン・運動・Wi-Fi環境整備)	2021年12月	24,544	特別養護老人ホーム	補助金 積立資産取崩収入	施設開設準備経費補助金	21,923
5	平生園	4	室外機予防保全整備	室外機予防保全整備(PAG-1・3)	2022年3月	4,620	特別養護老人ホーム	設備資金借入金		
6	さくらの苑	1	介護保険記録システムソフト及びクラウドシステム5年間使用権 財務会計システム5年間使用権	2016年に導入した介護保険記録システム・クラウド化や財務会計システム使用権更新に伴う費用	2021年12月	1,375	特養養護老人ホーム・短期入所・通所介護	介護保険収入		
7	北垣広域療育センター	1	電話設備更新	開設後13年経過し、機器及び配線の不具合により通話中の断線が頻発に起こるため更新を計画し、長期的な費用対効果により買取とする。	2021年10月	1,105	ひあほくたん	障害児施設給付費収入		
8	神戸愛生園	1	天井走行リフト2台	女性棟居室1機、男性棟トイレ1機 ご利用者の高齢・重度化による、職員負担軽減とご利用者の安全で安楽な介護の提供を図る。	2021年8月 2022年3月	2,457	生活介護	介護給付費収入		
9	神戸光生園	1	新門扉設置及びフェンス更新工事	「ひかりマルシェ」(ミニバザー)に地域の方が立ち寄りやすいように開催場所により近い場所に新たに門扉を設置し、フェンスの高さを統一し安全性を高める。	2021年12月	2,453	就労継続支援B型	修繕積立資産取崩収入		
10	神戸明生園	1	非常用自家発電設備更新	故障し修理不能となった非常用自家発電設備の更新を実施(消防指導により緊急的に実施)	2022年3月	6,435	生活介護	減価償却積立金取崩		
11	神戸明生園	2	眠りスキャン追加導入	高齢重度化した入所ご利用者の見守り強化及び業務負担軽減のために追加導入実施(5台)	2022年2月	566	生活介護	介護給付費収入	介護ロボット導入補助金	550
12	自立センターひょうご	1	和室改修工事	33畳の和室スペースのうち、23畳は防水量に入れ替え、10畳分はウレタンマットに交換した。	2021年11月	800	生活介護	移行時人件費積立金		
13	ワークセンターわかまつ	1	作業室床張替・更衣室クロス張替工事	作業室の床の張替え及び利用者女子更衣室の壁クロス張替え工事	2021年8月	990	就労継続支援B型	修繕積立金取崩収入		
14	ワークセンターわかまつ	2	空調用冷温水ポンプ取替工事	冷暖房空調機の冷温水二次ポンプ(地下3階)取替工事	2021年6月	935	就労継続支援B型	修繕積立金取崩収入		